RICOH

IPSiO SP 4310 / 4300

使用説明書
〈ソフトウェアガイド〉

ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」をお読みください。

目次

1. 印刷するための準備

2. 印刷する

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

4. 印刷条件の設定

5. プリンター本体の設定

6. 機器の管理

7. 付録

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書と画面で見る使用説明書（HTML/PDF）が用意されています。

画面で見る使用説明書は付属の CD-ROMに収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『ハードウェアガイド』「使用説明書の使いかた」を参照してください。

本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。

紙の使用説明書も画面で見る使用説明書も記載内容は同じですが、HTML 形式の使用説明書は説明の一部に動画を用いています。

はじめにお読みください（）

本製品についてのお問い合わせ先、注意事項、HTML マニュアルについて記載しています。

かんたんセットアップ（）

プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。

クイックガイド（）

困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

ハードウェアガイド（）

本体各部の名称とはたらきや、オプションの接続方法、用紙に関する情報、消耗品の交換、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。

ドライバーインストール手順書（）

プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。このマニュアルはドライバー CD に収録されています。

ソフトウェアガイド（本書）（）

本機で使用できる機能とプリンタードライバーの設定方法を説明しています。

セキュリティーガイド（）

管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るための方法、各管理者の設定方法、ユーザー認証の設定方法などについて説明しています。セキュリティー強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。

PostScript 3 編（）

PostScript® 3™ エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

RTIFF 編（）

RTIFF エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

R98 編（）

R98 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

R55 編（）

R55 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

R16 編（）

R16 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

PCL 編（）

PCL エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

VM カード JavaTM Platform 拡張機能初期設定 Web 編（）

Web Image Monitor を使用して拡張機能の設定を行う方法について説明しています。

Linux/Unix をお使いの方へ（）

コマンドを使用してプリンターを操作する方法について説明しています。本機では使用できない機能や設定についても記載している場合があります。この説明書はリコーのホームページからダウンロードしてください。

補足

- HTML 形式の使用説明書は Web ブラウザーでご覧いただけます。
- PDF 形式の使用説明書を表示するには、Adobe® Acrobat® Reader®/Adobe Reader®が必要です。

使用説明書一覧表

分冊名	紙マニュアル	画面で見る使用説明書 HTML 形式のマニュアル	画面で見る使用説明書 PDF 形式のマニュアル
はじめにお読みください	なし	有り（）	なし
かんたんセットアップ	有り（）	なし	有り（）
クイックガイド	有り（）	なし	有り（）
ハードウェアガイド	有り（）	有り（）	有り（）
ドライバーインストール手順書	なし	なし	有り（）
ソフトウェアガイド	なし	有り（）	有り（）
セキュリティーガイド	なし	なし	有り（）
PostScript 3 編	なし	有り（）	なし
RTIFF 編	なし	有り（）	なし
R98 編	なし	有り（）	なし
R55 編	なし	有り（）	なし
R16 編	なし	有り（）	なし
PCL 編	なし	有り（）	なし
VM カード JavaTM Platform 拡張機能初期設定 Web 編	なし	有り（）	有り（）
Linux/Unix をお使いの方へ	なし	なし	有り（）

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

株式会社 リコー
東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル 〒 104-8222
http://www.ricoh.co.jp/

複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。

1. 複製、印刷することが禁止されているもの

(見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。)

- 紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- 日本や外国の郵便切手、印紙
- **(関係法律)**
    - 紙幣類似証券取締法
    - 通貨及証券模造取締法
    - 郵便切手類模造等取締法
    - 印紙等模造取締法
    - (刑法 第 148 条 第 162 条)

2. 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- 外国の紙幣、貨幣、銀行券
- 株券、手形、小切手などの有価証券
- 国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- 個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
- **(関係法律)**
    - 刑法 第 149 条 第 155 条 第 159 条 第 162 条
    - 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

3. 著作権法で保護されているもの

おことわり

本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。

本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社はいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

この本の読みかた

この説明書の読みかたや、使われているマークについて説明します。

正しくお使いいただくために

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」をお読みください。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。

各タイトルの一番最後に記載しています。

[ ]

キーとボタンの名称を示します。

『 』

本書以外の分冊名称を示します。

本書についてのご注意

本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

本書は、原則的にオプションを装着した状態の画面と外観イラストを使って説明しています。

本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

おもなオプションと略称

本体に用意されているおもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
拡張 HDD タイプ R	拡張 HDD
SDRAM モジュール VIII 128MB	SDRAM モジュール 128MB
SDRAM モジュール VIII 256MB	SDRAM モジュール 256MB
IPSiO 拡張無線 LAN ボード タイプ A	拡張無線 LAN ボード
拡張 1284 ボードタイプ A	拡張 1284 ボード
リコー個人認証 IC カード R/W タイプ R1	IC カード R/W

商品名	略称	総称
IPSiO R98/R16 カード タイプ 4300	エミュレーションカード（R98、R16）	拡張 SD カード
IPSiO エミュレーションカード タイプ 4300	エミュレーションカード（RTIFF、R98、R55、R16）	
IPSiO PS3 カード タイプ 4300	PS3 カード	
IPSiO PDF ダイレクトプリントカード タイプ 4300	PDF ダイレクトプリントカード	
IPSiO PCL カード タイプ 4300	PCL カード	
IPSiO BMLinkS カード タイプ C	BMLinkS カード	
IPSiO VM カード タイプ G	VM カード	
リコー個人認証カード タイプ R1-09	個人認証システム	

製品名	総称
Ridoc IO Analyzer*1 と Ridoc IO Analyzer Lt	Ridoc IO Analyzer
Ridoc Desk Navigator*1 と Ridoc Desk Navigator Lt	Ridoc Desk Navigator
Ridoc IO Navi 2	Ridoc IO Navi

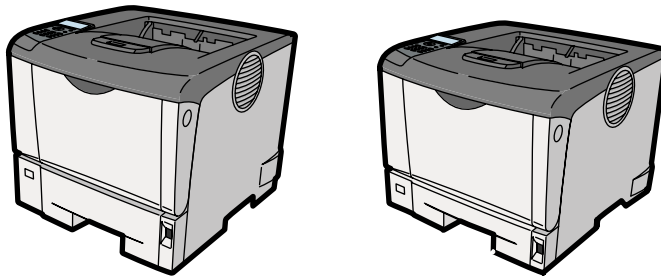
*1 別売になります。

お使いになる前に

各機種で設置・設定が可能な装備・機能について説明します。

本書では特にことわりのないかぎり、IPSiO SP 4310 のイラストを使って説明しています。

各機種による性能・機能の違い

機種ごとのおもな性能／機能の差異は以下の表のとおりです。詳細については、『ハードウェアガイド』「仕様」を参照してください。

CED002

商品名	IPSiO SP 4310	IPSiO SP 4300
標準トレイ	500 枚給紙（トレイ 1）	250 枚給紙（トレイ 1）
最大給紙量*1	1,600 枚	1,350 枚
排紙量	250 枚	250 枚

*1 500 枚増設トレイユニット 2 段装着時

1. 印刷するための準備

認証機能について

認証機能を有効にして本機を運用すると、管理者による本機の管理と本機を使用するユーザーの管理ができます。

認証機能を有効にするためには、管理者の登録やユーザーの個人情報の登録が必要になり、本機を使用するとき、ログインユーザー名とログインパスワードによって個人を確認するようになります。

管理者は、4 種類に分けて役割が定義されており、本機の各種の機能設定やユーザーの登録など、本機を管理します。

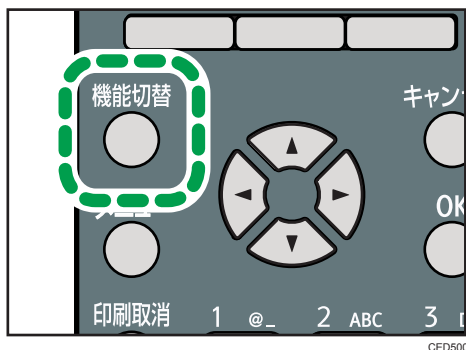
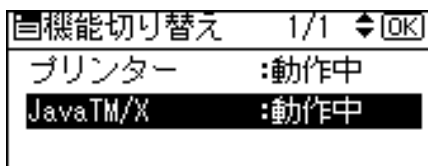
ユーザーは、管理者によりアクセス制限が設定され、本機の機能や本機に蓄積された文書や各種データの使用に制限がかけられます。

本機の認証機能が設定されている場合は、P.25「ユーザー認証が設定されているとき」を参照してください。

1

拡張機能を使う

本機は、プリンター機能のほかに［機能切替］キーを使って拡張機能を使用することができます。プリンター機能が設定されている場合に、他の拡張機能に切り替える方法について説明します。

1. 操作部の［機能切替］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［JavaTM/X］を選択し、［OK］キーを押します。

3. 複数のアプリケーションをインストールしている場合は［▼］［▲］キーを押して使用する拡張機能を選択し、［OK］キーを押します。

補足

- この機能は、オプションの VM カードを装着しているときに使用できます。

CD-ROM 収録ソフトウェア

付属の CD-ROM「使用説明書・ドライバー＆ユーティリティー」について説明します。

重要

- **プリンタードライバーは、付属の CD-ROM からインストールするか、リコーのホームページからダウンロードできます。ドライバーをダウンロードするには、リコーのホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。(http://www.ricoh.co.jp/download/index.html)**

ソフトウェア一覧

CD-ROM「使用説明書・ドライバー＆ユーティリティー」に入っているファイルの一覧です。

ソフトウェア名／ファイル名	参照
SETUP.EXE	『ドライバーインストール手順書』「おすすめインストール」
RPCS プリンタードライバー	P.21「RPCS プリンタードライバー」
PS3 プリンタードライバー	詳細は『PostScript 3 編』を参照してください。
PCL6 プリンタードライバー	詳細は『PCL 編』を参照してください。

RPCS プリンタードライバー

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。

RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境について説明します。

ファイル格納場所

付属の CD-ROM 内の次のフォルダーに格納されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー

  X86¥DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1

- Windows 64bit 版プリンタードライバー

  X64¥DRIVERS¥RPCS¥X64¥DISK1

プリンタードライバーの動作環境

- パソコン

  対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ

- 対象 OS

Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版

- ディスプレイ解像度

  800×600 ドット以上

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ソフトウェアのダウンロードについて

本機と連携して使用できるソフトウェアについて説明します。

Ridoc IO Analyzer でできること

Ridoc IO Analyzer について説明します。

重要

- **Ridoc IO Admin がインストール済みの環境では、Ridoc IO Analyzer は Ridoc IO Admin に対する上書きアップデートとしてインストールされます。**

Ridoc IO Analyzer はネットワーク上のプリンターを監視するソフトウェアです。IP アドレスを持つ複数のネットワークプリンターの管理が可能です。ネットワーク管理者の方がお使いになることをお勧めします。

Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/related_goods/analyzer/)

補足

- Ridoc IO Analyzer については、Ridoc IO Analyzer の取扱説明書を参照してください。

Ridoc Desk Navigator でできること

Ridoc Desk Navigator について説明します。

重要

- **Ridoc Desk Navigator は、Windows 64bit 版ではご使用になれません。**

アプリケーションで作成したファイル、スキャナーで読み取った画像データ、既存のイメージファイルなど、多様なデータを 1 つの文書として管理・印刷することができます。

Ridoc Desk Navigator Lt は、リコーのプリンター、スキャナー、デジタルカメラの一部の機種に付属している、Ridoc Desk Navigator の機能限定版です。

Ridoc Desk Navigator Lt は、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://support.ricoh.com/bbv2/html/dr_ut_d/doc_sol/history/w/bb/pub_j/dr_ut_d/4101004/4101004170/V1590/5146030/146030/history.htm)

補足

- Ridoc Desk Navigator について、詳細は Ridoc Desk Navigator のヘルプを参照してください。

Ridoc IO Navi でできること

Ridoc IO Navi について説明します。

ネットワークプリンターの環境を簡単に構築できます。また、ネットワーク上のリコー製プリンターの稼働状態をパソコンから簡単に確認できます。

Ridoc IO Navi は、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/)

補足

- Ridoc IO Navi について、詳細は Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

Linux CUPS 用 PPD ファイル

Linux OS の印刷システム CUPS（Common Unix Printing System）環境から印刷を行うための PPD ファイルを提供しています。

Linux CUPS 用 PPD ファイルは、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/)

補足

- Linux 環境での印刷については、保証およびサポートを行っておりません。

UNIX 対応インストールシェルスクリプト

Unix 環境で簡単にプリンター登録するためのツールを提供しています。

UNIX 対応インストールシェルスクリプトは、リコーのホームページからダウンロードできます。

(http://www.ricoh.co.jp/)

- Unix 環境での印刷については、保証およびサポートを行っておりません。

ユーザー認証が設定されているとき

ユーザー認証（ユーザーコード認証、ベーシック認証、Windows 認証、LDAP 認証、統合サーバー認証）が設定されているときは、画面に認証画面が表示されます。個人ごとに設定されたログインユーザー名とログインパスワードを入力しないと、本機を操作できません。本機を操作できる状態になることをログインといいます。また、操作できる状態を解除することをログアウトといいます。ログインして操作が終了したときは、不正に使用できないよう必ずログアウトしてください。

補足

- ログインユーザー名、ログインパスワード、ユーザーコードについては、管理者にお問い合わせください。
- ユーザーコード認証のときに、ユーザーコードとして入力するのは、アドレス帳に［ユーザーコード］として登録されている数字です。

ドライバーからユーザーコードを設定する

ユーザーコード認証が設定されているときは、プリンタードライバーのプロパティでユーザーコードを設定します。ここでは Windows XP で RPCS プリンタードライバーを使用する場合を例に説明します。詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

1. **［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。**
2. **設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［印刷設定］をクリックします。**
3. **［項目別設定］タブをクリックします。**
4. **「メニュー項目：」で［印刷方法/認証］メニューをクリックします。**
5. **「ユーザーコード：」ボックスにユーザーコードを入力します。**

   ユーザーコードは半角数字を合計 8 文字まで使用することができます。
6. **［OK］をクリックします。**

操作部からログインする

ベーシック認証、Windows 認証、LDAP 認証、統合サーバー認証のいずれかが設定されているときにログインします。

1. **［メニュー］キーを押します。**
2. **［ログイン］を押します。**
3. **ログインユーザー名を入力して、［OK］を押します。**

4. ログインパスワードを入力して、[OK] を押します。

操作部からログアウトする

ベーシック認証、Windows 認証、LDAP 認証、統合サーバー認証のいずれかが設定されているときにログアウトします。

1. [メニュー] キーを押します。

2. [ログアウト] を押します。

3. メッセージを確認し、[する] を押します。

ドライバーからログインする

ベーシック認証、Windows 認証、LDAP 認証、統合サーバー認証のいずれかが設定されているときは、プリンタードライバーのプロパティで暗号化の設定をしてから、ログインユーザー名とログインパスワードを設定します。ここでは Windows XP で RPCS プリンタードライバーを使用する場合を例に説明します。詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

補足

- プリンタードライバーからログインしたときは、ログアウトする必要はありません。

認証を設定する

1. [スタート] メニューから [プリンタと FAX] ウィンドウを開きます。

2. 設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

3. [応用設定] タブをクリックします。

4. 「ユーザー認証」チェックボックスにチェックを入れます。

5. [OK] をクリックします。

印刷ジョブに認証を設定する

1. [スタート] メニューから [プリンタと FAX] ウィンドウを開きます。

2. 設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [印刷設定] をクリックします。

3. [項目別設定] タブをクリックします。

4. 「メニュー項目：」で［印刷方法/認証］メニューをクリックします。
5. ［認証...］をクリックします。
6. 「ログインユーザー名の入力：」ボックスにログインユーザー名を入力します。

   ログインユーザー名は半角英数字を合計 32 文字まで使用することができます。
7. 「ログインパスワード：」ボックスにログインパスワードを入力します。

   ログインパスワードは半角英数字を合計 128 文字まで使用することができます。
8. 「ログインパスワードの確認用入力：」ボックスにログインパスワードを再度入力します。
9. ［OK］をクリックします。
10. ［OK］をクリックします。

Web Image Monitor からログインする

1. Web Image Monitor のトップページで［ログイン］をクリックします。
2. ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

補足

- ユーザーコード認証のときは、Web Image Monitor からログインできません。
- ご使用の Web ブラウザーにより操作は異なります。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

Web Image Monitor からログアウトする

Web Image Monitor からログアウトするときは、［ログアウト］をクリックします。

補足

- ログアウト後は、Web ブラウザーのキャッシュを削除してください。

2. 印刷する

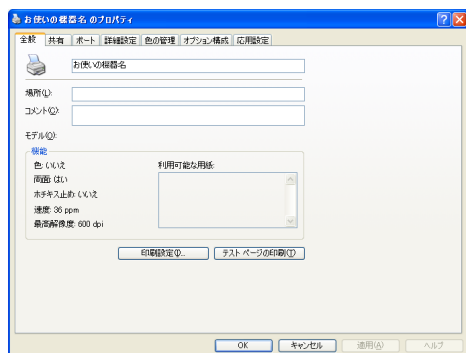
プリンタードライバーの設定画面を表示する

RPCS プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法について Windows XP を例に説明します。

プリンターの初期設定－プロパティを表示する

［プリンタと FAX］ウィンドウから、プリンタードライバーのプロパティを表示させる方法を説明します。

重要

- **プリンターのプロパティの内容を変更するには、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**
- **プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。**
- **ここでの設定が、アプリケーションでの設定の初期値になります。**

1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。

2. 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

補足

- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

プリンターの初期設定－印刷設定を表示する

重要

- **ここでの設定が、アプリケーションでの設定の初期値になります。**
- **プリントサーバーから配布されたドライバーの場合は、プリントサーバーで設定された［標準の設定］の内容が初期値として表示されます。**

1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。

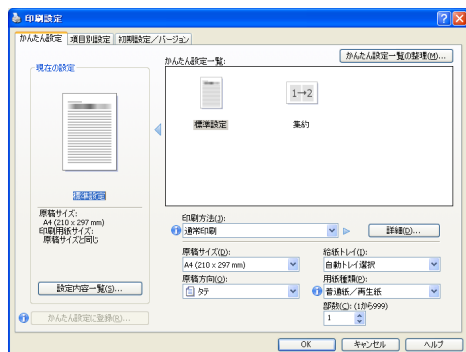
2. 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［印刷設定］をクリックします。

補足

- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

アプリケーションから印刷設定を表示する

重要

- **ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。**

［プリンタと FAX］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターの印刷設定をアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1.［ファイル］メニューの［印刷］をクリックします。

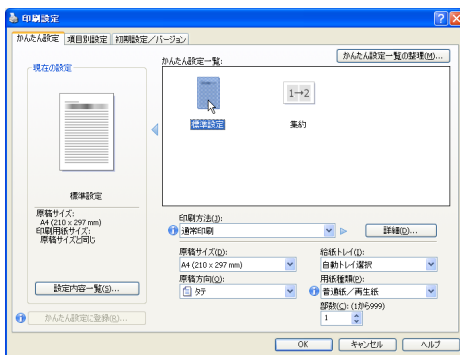
2. 本機を選択し、［詳細設定］をクリックします。

補足

- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションから表示した印刷設定は、一般ユーザーでも変更することができます。

かんたん設定を使う

「よく使う印刷」の機能の一部は、［かんたん設定］タブの「かんたん設定一覧：」にあらかじめ登録されています。メニューから設定名を選択するだけで、印刷方法を指定できます。

「かんたん設定」を使用するには、「かんたん設定一覧：」から、適用したい設定名をクリックします。

設定名を選択するだけで登録されている設定内容が反映されるため、印刷するときに何箇所も設定を変更したり、誤って設定して無駄な印刷をしてしまうミスを防ぐことができます。

「かんたん設定」は任意に追加、変更、削除することができます。また、複数のメンバーで同じかんたん設定を共有して使用することもできます。プリンタードライバーに関する特別な知識がなくても、登録した「かんたん設定」を使うだけで、さまざまな機能を活用することができます。

「かんたん設定」を登録する場合は、以下の手順で操作してください。

1. アプリケーションから印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. 印刷の設定を必要に応じて指定します。

3.「かんたん設定一覧：」に現在の設定を保存する場合は、[かんたん設定に登録...] をクリックします。

設定の名前とコメントを入力して [OK] をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

4. [OK] をクリックします。

補足

- 「かんたん設定」の変更や削除について、詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

よく使う印刷

通常印刷、両面印刷、製本印刷、集約印刷のしかたについて説明します。

ここで説明する機能の一部は、「かんたん設定」と呼ばれる1つの設定にあらかじめ登録されています。「かんたん設定」の設定値を変更するだけで、これらの機能を適用することもできます。

2

補足

- 「かんたん設定」については、P.31「かんたん設定を使う」を参照してください。

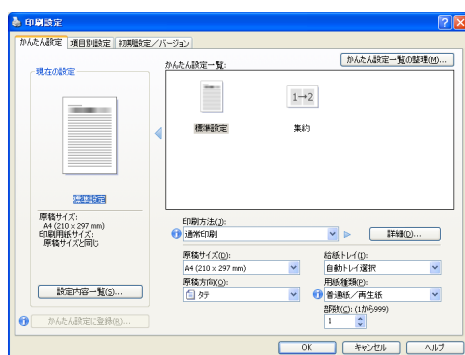
通常印刷する

重要

- **印刷する前に、本機に取り付けたオプションとセットした用紙の情報を必ず設定してください。**

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. [かんたん設定] タブが選択されていることを確認します。選択されていない場合は [かんたん設定] タブをクリックしてください。

3.「かんたん設定一覧：」から [標準設定] を選択します。

複数の部数を印刷する場合は、「部数」ボックスに部数を入力します。

4.「原稿サイズ：」プルダウンメニューから印刷する文書のサイズを選択します。

5.「原稿方向：」プルダウンメニューから文書の印刷方向を選択します。

6.「給紙トレイ：」プルダウンメニューから用紙がセットされている給紙トレイを選択します。

［自動トレイ選択］を選択した場合は、用紙サイズと用紙種類に応じて給紙トレイが自動的に選択されます。

7.「用紙種類：」プルダウンメニューから給紙トレイにセットされている用紙の種類を選択します。

8.「かんたん設定一覧：」に現在の設定を保存する場合は、［かんたん設定に登録...］をクリックします。

設定の名前とコメントを入力して［OK］をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

9.［OK］をクリックし、印刷設定を閉じます。

10.アプリケーションから印刷の指示をします。

補足

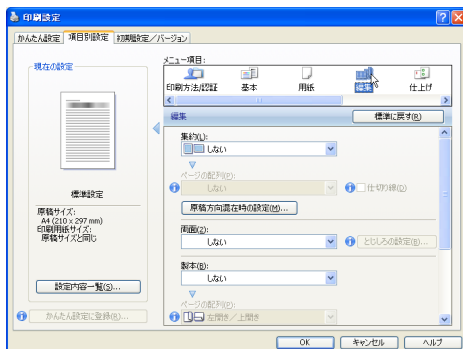
- 給紙トレイにセットされている用紙の種類は、本機の画面で確認できます。プリンタードライバーで選択できる用紙種類の設定値と、本機の画面での用紙種類表示は異なる場合があります。プリンタードライバーで用紙の種類を選択するときは、どのトレイにどの種類の用紙がセットされているかも確認してください。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は、P.77「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

両面／製本印刷する

1.アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2.［項目別設定］タブをクリックします。

3.「メニュー項目：」で［編集］メニューをクリックします。

4. 両面印刷または製本印刷を設定します。

- 両面印刷を設定する場合は、「両面：」プルダウンメニューから用紙のひらきかたを選択します。詳細は P.36「両面印刷の種類」を参照してください。

  両面印刷時にとじしろを付ける場合は、［とじしろの設定...］をクリックして、とじしろの幅を設定できます。

- 製本印刷を設定する場合は、「製本：」プルダウンメニューから用紙のひらきかたを選択した後に、「ページの配列：」プルダウンメニューからページの並べかたを選択します。詳細は P.38「製本印刷の種類」を参照してください。

5. その他の印刷の設定を必要に応じて指定します。

6.「かんたん設定一覧：」に現在の設定を保存する場合は、［かんたん設定に登録...］をクリックします。

設定の名前とコメントを入力して［OK］をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

7.［OK］をクリックし、印刷設定を閉じます。

8. アプリケーションから印刷の指示をします。

補足

- 1 つの文書内に原稿サイズの異なるページがある場合、そのページの前で改ページすることがあります。

両面印刷可能な用紙サイズ、用紙種類

両面印刷可能な用紙サイズ

- A4
- A5
- B5
- $8^1/_2$×14

- $8^1/_2$×11
- $5^1/_2$×$8^1/_2$

両面印刷可能な用紙種類

- 普通紙
- レターヘッド
- 再生紙

2

補足

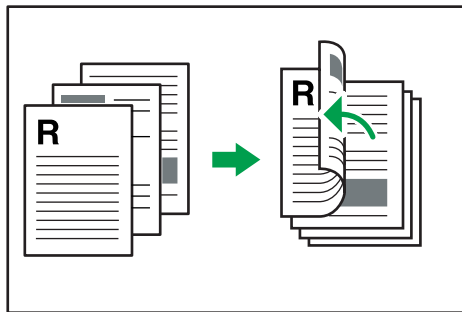
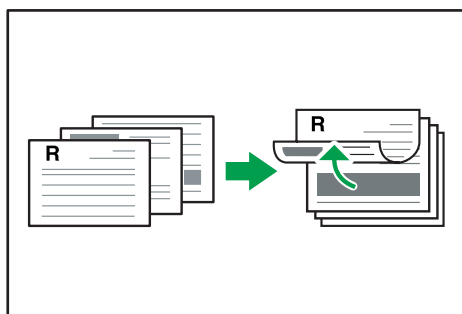
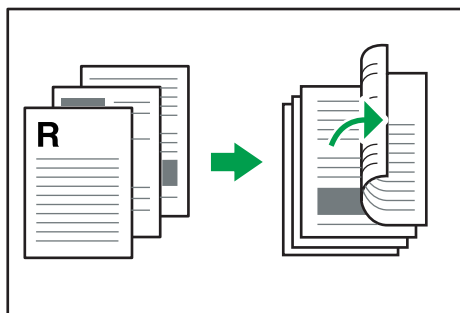
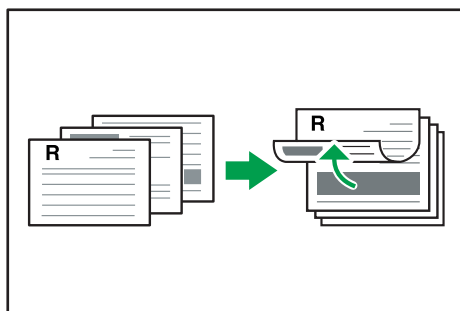
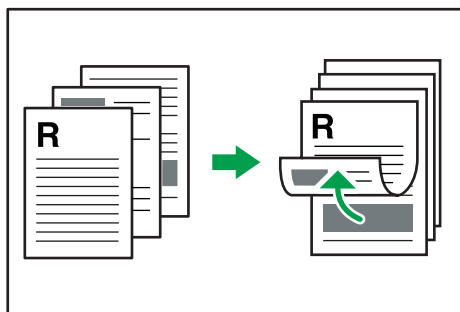
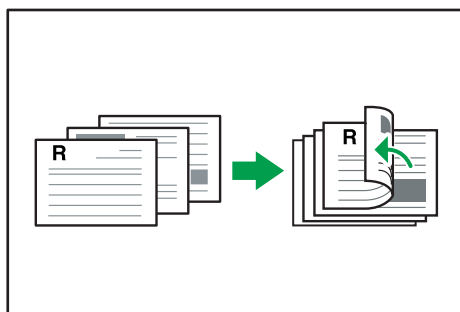
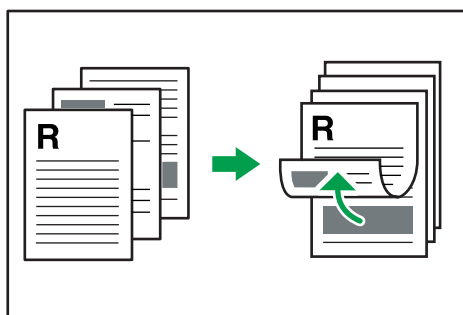
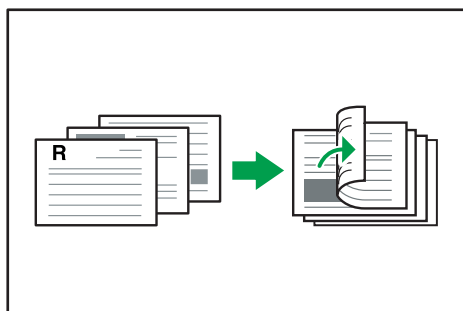
- 不定形サイズは両面印刷に対応していません。
- トレイ 1 と手差しトレイのみ、A5 および $5^1/_2$×$8^1/_2$の両面印刷に対応しています。

両面印刷の種類

両面印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。

用紙の左端、右端または上端でとじるひらきかたが設定できます。

両面：

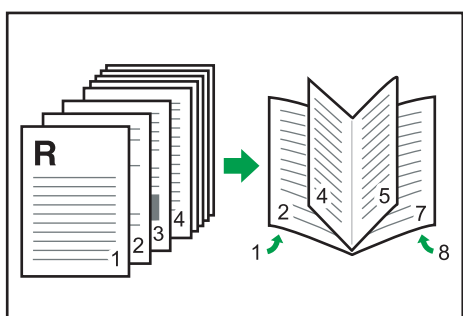
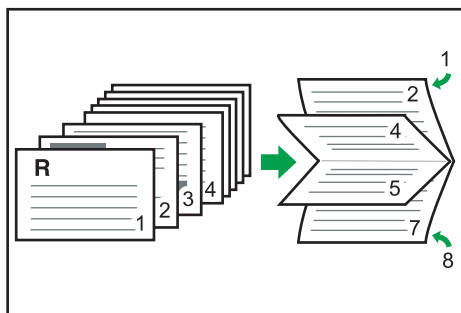
- 長辺とじ（左開き／上開き）

- 長辺とじ（右開き／上開き）

- 短辺とじ（上開き／左開き）

- 短辺とじ（上開き／右開き）

CBK521

CED504

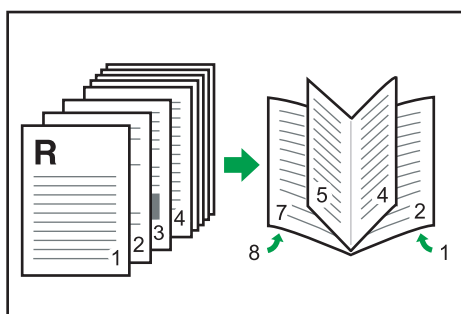
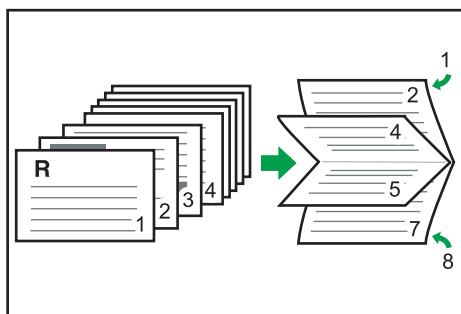
製本印刷の種類

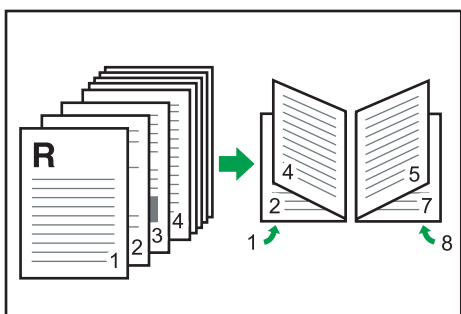
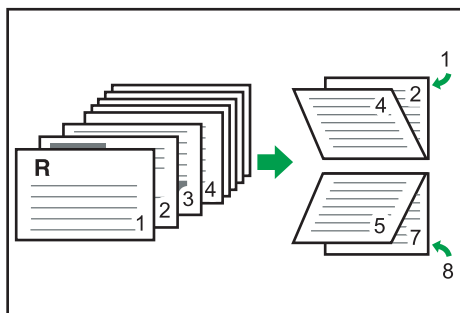
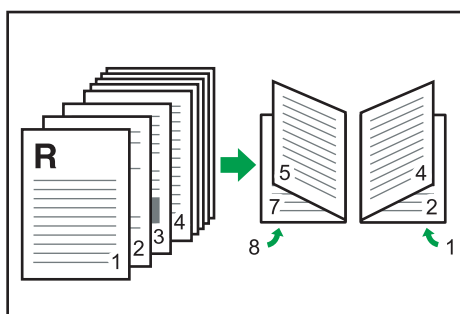
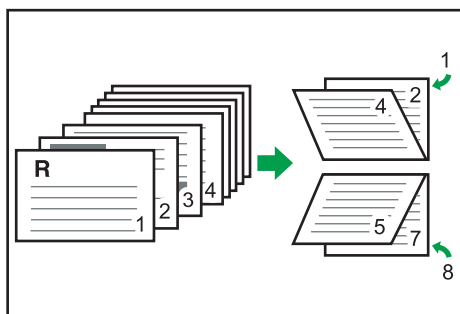
製本印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。

用紙の中央でとじるひらきかたが設定できます。

製本（ページの配列）：

- 週刊誌（左開き／上開き）

CED515

CED517

- 週刊誌（右開き／上開き）

CED516

CED517

- ミニ本（左開き／上開き）

CED518

- ミニ本（右開き／上開き）

補足

- 左開き、右開きは「原稿方向：」が［タテ］の場合のみ指定できます。
- 上開きは「原稿方向：」が［ヨコ］の場合のみ指定できます。

複数のページを集約して印刷する

集約を設定すると、複数のページを縮小して1ページにまとめて印刷することができます。

重要

- **不定形サイズの用紙には集約を設定することができません。定型サイズの用紙を使用してください。**

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. あらかじめ登録されている集約印刷の設定を使用する場合は、［かんたん設定］タブをクリックし、「かんたん設定一覧：」から［集約］をクリックします。

あらかじめ登録されている集約印刷の設定を変更したくない場合は、必要に応じて用紙サイズや給紙トレイなどを設定し、手順 8 へ進んでください。

3. ［項目別設定］タブをクリックします。

4. 「メニュー項目：」で［編集］メニューをクリックします。

5. 「集約：」プルダウンメニューから集約の種類を選択した後に、「ページの配列：」プルダウンメニューからページの並べかたを選択します。詳細は P.42「集約印刷の種類」を参照してください。

仕切り線が必要な場合は、「仕切り線」チェックボックスにチェックを入れてください。

原稿の方向が混在する場合は、［原稿方向混在時の設定...］をクリックし、「印刷結果：」プルダウンメニューから処理のしかたを選択してください。

6. その他の印刷の設定を必要に応じて指定します。

7. 「かんたん設定一覧：」に現在の設定を保存する場合は、［かんたん設定に登録...］をクリックします。

設定の名前とコメントを入力して［OK］をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

8. ［OK］をクリックし、印刷設定を閉じます。

9. アプリケーションから印刷の指示をします。

補足

- 1 つの文書内に原稿方向の異なるページがある場合は、そのページの前で改ページします。
- 同じ機能を設定できるアプリケーションから印刷する場合は、アプリケーション側では機能を設定しないでください。アプリケーション側の設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。
- 縦横が混在する原稿を集約する場合など、詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

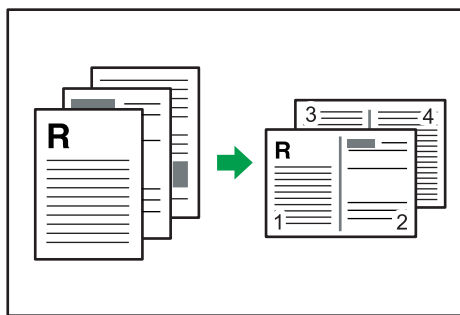
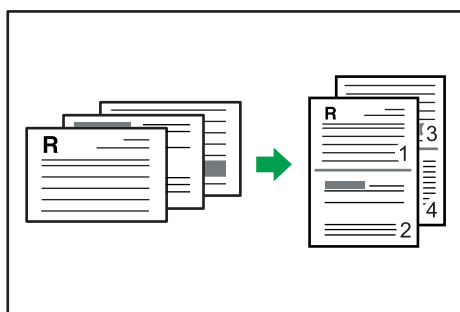
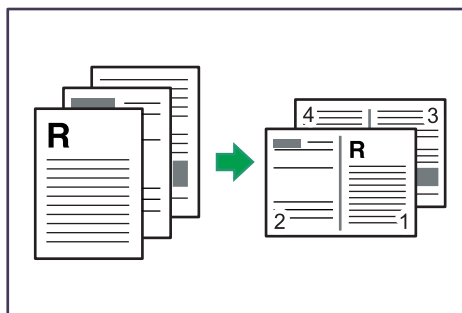
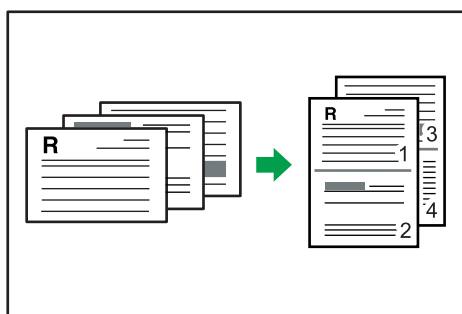
集約印刷の種類

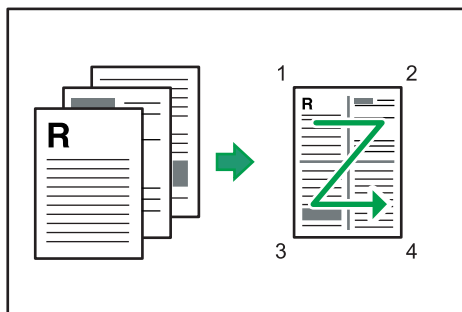
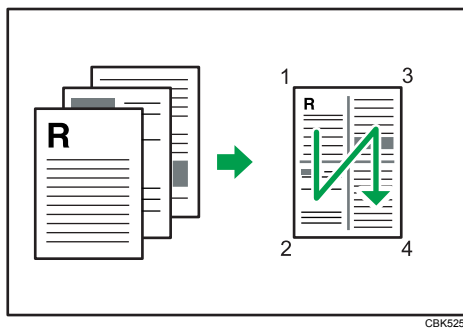
集約印刷で 1 ページにまとめることができるのは、2 ページ、4 ページ、9 ページ、16 ページです。

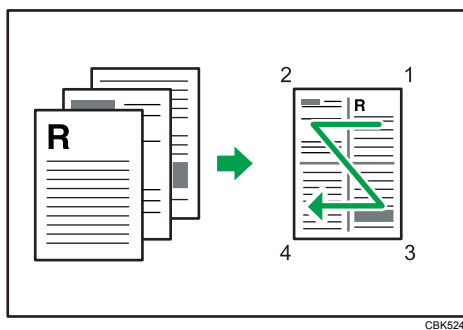
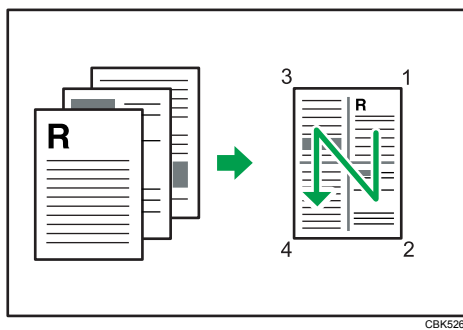
2 ページを 1 ページにまとめる場合は、2 つのパターンからページの並べかたを選択できます。4 ページ以上を 1 ページにまとめる場合は、4 つのパターンからページの並べかたを選択できます。

ここでは 2 ページを 1 ページにまとめる場合と 4 ページを 1 ページにまとめる場合を例に説明します。

2 ページを 1 ページに集約

- 左から右／上から下

- 右から左／上から下

4 ページを 1 ページに集約

- 左上→右上→左下→右下

- 左上→左下→右上→右下

- 右上→左上→右下→左下

- 右上→右下→左上→左下

便利な機能

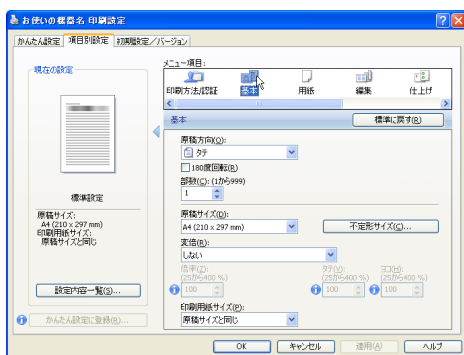
表紙用の用紙への印刷、合紙の挿入などの、便利な印刷機能について説明します。

［かんたん設定］タブで使用する機能のほかにも、［項目別設定］タブの「メニュー項目：」から印刷に関する機能を設定することができます。

プリンタードライバーのおもなメニューについて

「メニュー項目：」の［基本]、［用紙]、［仕上げ]、［効果］メニューから、便利な印刷機能を設定することができます。

［基本］メニュー

原稿方向や原稿サイズ、印刷用紙サイズに関する設定のほかに、印刷の色を設定することができます。

- 原稿サイズ

  印刷ジョブで指定した用紙が本機の給紙トレイにセットされていない場合に、手差しトレイを使って印刷を継続することができます。

  この機能の説明については P.47「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」を参照してください。

［用紙］メニュー

給紙トレイや用紙種類、排紙先に関する設定のほかに、表紙や合紙について設定することができます。

- 用紙種類

  印刷ジョブで指定した用紙が本機の給紙トレイにセットされていない場合に、手差しトレイを使って印刷を継続することができます。

  この機能の説明については P.47「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」を参照してください。

- おもて表紙

  表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

  表紙には両面印刷することもできます。

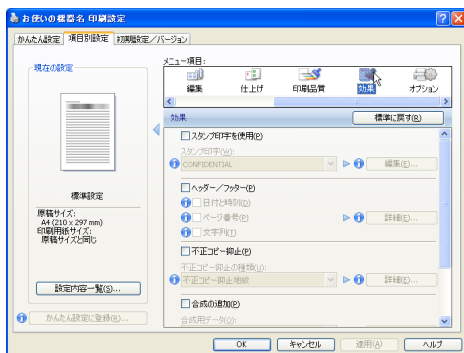
  この機能の説明については P.49「表紙を印刷する」を参照してください。

- 合紙

  ページごとに合紙を挿入します。

  この機能の説明については P.51「合紙を挿入する」を参照してください。

［効果］メニュー

スタンプ印字やイメージスタンプ、不正コピー抑止印刷などを設定することができます。

- スタンプ印字を使用

  作成した文書に文字を重ねて印刷する機能です。

この機能の説明についてはP.52「原稿に文字やイメージをスタンプする」を参照してください。

- イメージスタンプの追加

  作成した文書にイメージデータを重ねて印刷する機能です。

  この機能の説明についてはP.52「原稿に文字やイメージをスタンプする」を参照してください。

- 不正コピー抑止

  機密文書などに不正コピーを抑止するための抑止文字列やマスクパターンを埋め込んで印刷する機能です。

  この機能の説明についてはP.62「文書の複製を抑止する」を参照してください。

補足

- ［項目別設定］タブの「メニュー項目：」から設定できるその他のメニュー項目については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する

本機の操作部を使って、［印刷設定］の［一般設定］で、［トレイ設定選択］の［手差しトレイ］を［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定します。

［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定しておくと、本機の用紙設定をあらかじめ変更、確認することなく、指定した用紙に印刷することができます。

プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙サイズ、用紙種類が、本機のどのトレイとも一致しない場合、指定した用紙サイズ、用紙種類の設定を手差しトレイに適用し、手差しトレイを使って、そのまま印刷を継続することができます。異なる用紙を頻繁に使用する場合や、普段は使用しない用紙に印刷する場合などに、操作部から用紙の設定を変更しておく必要がありません。

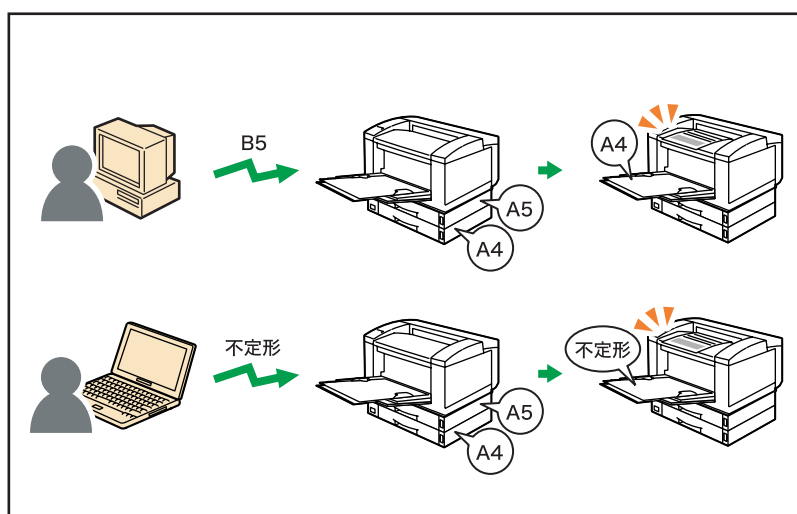
重要

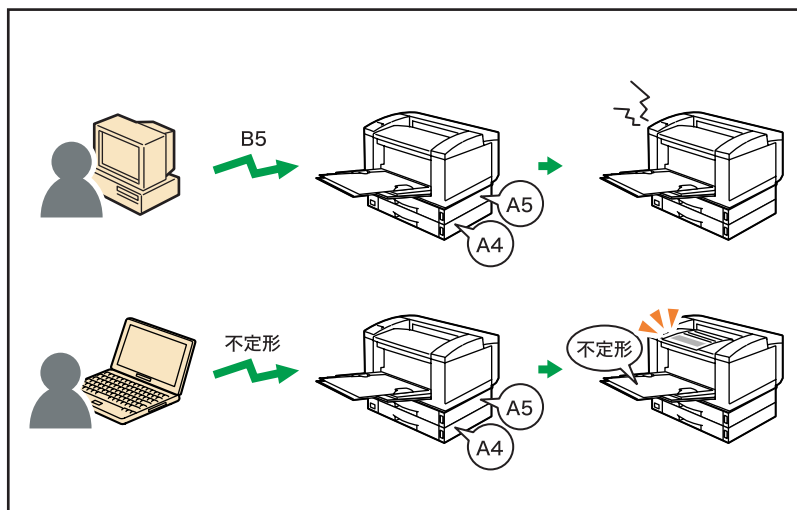
- **すべての用紙サイズで手差しトレイからの印刷継続を許可する場合は、［印刷設定］の［トレイ設定選択］で、［手差しトレイ］を［全用紙サイズ・用紙種類許可］に設定してください。不定形サイズの用紙のみを印刷継続の対象とする場合は、［印刷設定］の［トレイ設定選択］で、［手差しトレイ］を［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定してください。各設定項目については、P.156「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。**
- **プリンタードライバーの印刷設定画面にある［項目別設定］タブの「メニュー項目：」で［用紙］メニューをクリックし、「給紙トレイ：」で［自動トレイ選択］を選択してください。自動トレイ選択でジョブを送ると、［用紙設定］の［優先給紙トレイ］で設定したトレイから順に、ジョブで指定した用紙設定に一致するトレイを検**

出します。［優先給紙トレイ］を［手差しトレイ］に設定すると、手差しトレイに用紙がセットされている場合は、常に手差しトレイから給紙、印刷します。プリンタードライバーの設定については、P.45「プリンタードライバーのおもなメニューについて」を参照してください。［優先給紙トレイ］の設定については、P.133「用紙設定メニューの設定項目」を参照してください。

手差しトレイを［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定しておくと、下記の例のように給紙、印刷します。

［全用紙サイズ・用紙種類許可］の場合

ジョブの用紙設定が本機の用紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定を手差しトレイに適用して印刷できます。

［全不定形サイズ・用紙種類許可］の場合

ジョブの用紙設定が本機の用紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷できます。

補足

- 印刷速度は通常の印刷に比べて遅くなります。
- ジョブを受信したとき、手差しトレイに用紙がセットされていない場合は、用紙の補給を促すメッセージが操作部に表示されます。表示されている用紙サイズ、用紙種類を確認し、印刷したい面を下にして用紙をセットしてください。
- 1 つの文書に用紙サイズの異なるページが混在している場合で、本体トレイに一致する用紙がない場合は、すべてのページを手差しトレイから印刷します。本体トレイに一致するページがある場合は、一致するページのみ本体トレイから印刷します。
- ジョブで指定した用紙サイズと手差しトレイから給紙された用紙サイズが異なるときは、操作部に警告画面が表示されます。対処方法についてはP.79「手差しトレイからの印刷を継続する」を参照してください。

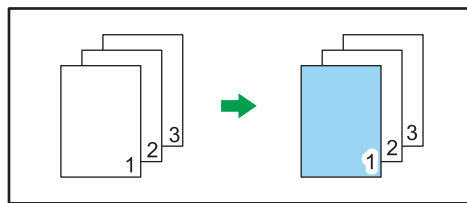
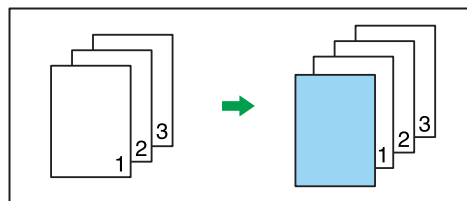
表紙を印刷する

表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

重要

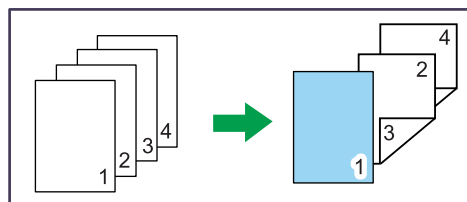
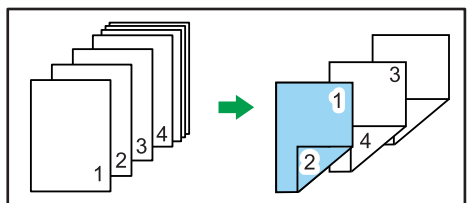
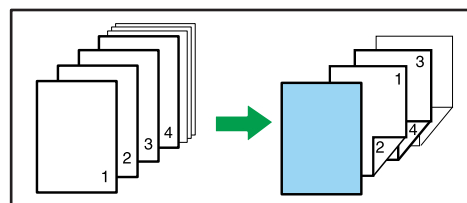
- **ソートの設定が必要です。**
- **表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。**

片面印刷の場合

- 表紙用の用紙に印刷するとき

- 表紙用の用紙に印刷しないとき

両面印刷の場合

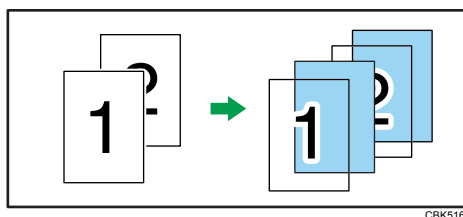
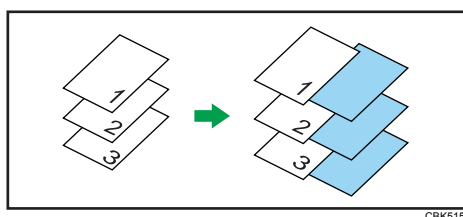
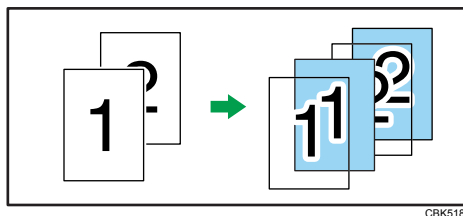
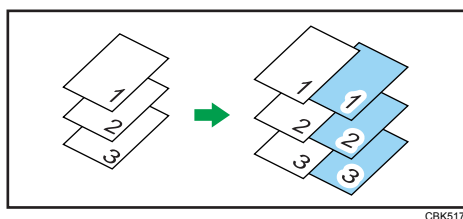
1 ページ目の原稿と最終ページの原稿を表紙用の用紙に印刷します。

- 表紙用の用紙に片面印刷するとき

- 表紙用の用紙に両面印刷するとき

- 表紙用の用紙に印刷しないとき

- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

合紙を挿入する

ページごとに合紙を挿入します。

- **両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。**

印刷しない

合紙に印刷

補足

- 合紙用の用紙は、印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。

原稿に文字やイメージをスタンプする

スタンプを設定すると、作成した文書に文字やイメージデータを重ねて印刷することができます。

スタンプには、文字データを使った「スタンプ印字」と、ビットマップファイル（.bmp）を使った「イメージスタンプ」があります。一度に指定できるスタンプはどちらかのみです。

2

補足

- スタンプ印字を編集したり、新しいスタンプ印字を作成できます。詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

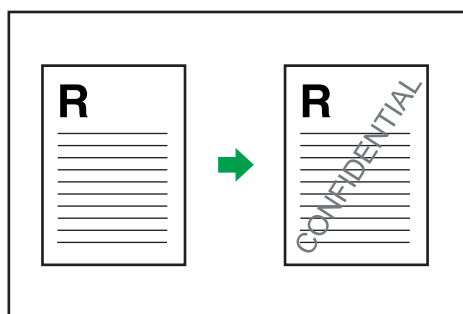
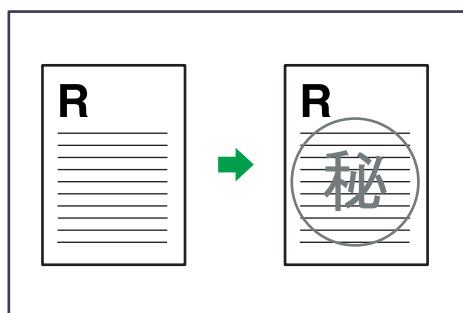
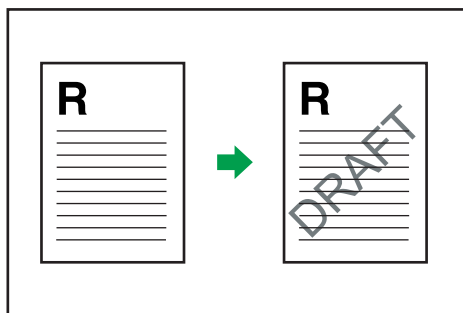
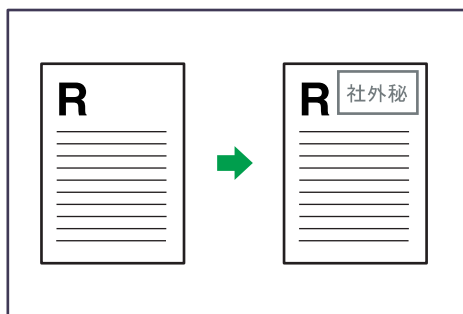
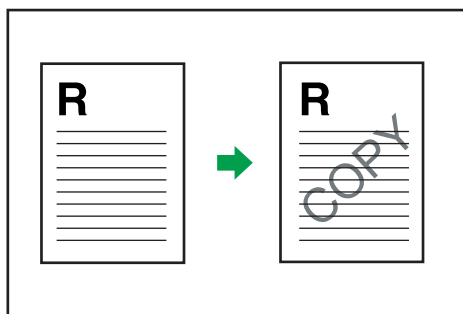
スタンプ印字の種類

本機のプリンタードライバーにはいくつかのスタンプ印字があらかじめ登録されています。利用できるスタンプ印字の種類は次のとおりです。

- CONFIDENTIAL

- マル秘

- DRAFT

- 社外秘

- COPY

部単位で印刷する（ソート）

会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

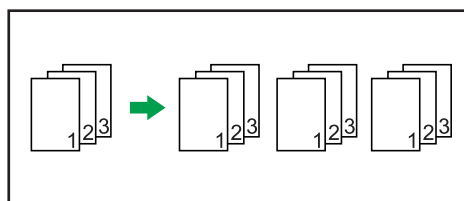
2

重要

- **ソート可能なページ数は、RAM による場合は最大 150 ページ、ハードディスクを増設した場合は最大 1,000 ページです。**
- **1 部目でエラースキップや強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。**

ソートの種類について

- ソート

  1 部ずつそろえて印刷します。

補足

- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スプール印刷をする

スプール印刷とは、パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。スプール印刷をすると、大容量のデータのとき、パソコンが早く印刷処理から開放されます。

重要

- **スプール印刷を行うには、拡張 HDD が必要です。**
- **スプール印刷中は、拡張 HDD へのアクセスが行われ、データインランプが点滅します。スプール印刷中に本機やパソコンの電源を切ると、拡張 HDD が破損するおそれがあります。スプール印刷中は本機やパソコンの電源を切らないでください。**
- **BMLinkS、diprint、ftp、IPP、LPR、SMB（TCP/IP（IPv4））、sftp、WSD（Printer）以外のプロトコルで受信したデータは、スプール印刷できません。**
- **本機の操作部の画面にはスプールジョブの一覧は表示されません。**

補足

- 一度に最大 150 ジョブまでスプールできます。
- スプール印刷をすると、1 ページ目の印刷開始は遅くなります。

スプール印刷を設定する

操作部、Web Image Monitor および telnet で設定できます。

- 操作部の場合

  ［システム設定］メニューの［スプール印刷］を［する］に設定します。詳細はP.148「システム設定メニュー」を参照してください。

- Web Image Monitor の場合

  詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

- telnet の場合

  「spoolsw spool on」で設定します。詳細は『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

Web Image Monitor でスプール印刷を確認・削除する

本機に蓄積されたスプールジョブは、Web Image Monitor で閲覧・削除ができます。削除するには、管理者モードで Web Image Monitor にログインしてください。詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

PDF ファイルを直接印刷する

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。

PDF ファイルを直接印刷するには、Ridoc Desk Navigator から印刷する方法と、コマンドを使って印刷する方法があります。

2

重要

- **この機能は、オプションの PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードを装着しているときに使用できます。**
- **Adobe 純正の PDF のみ可能です。**
- **対応している PDF ファイルのバージョンは 1.7 以前です。**
- **PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter や、8 コンポーネントを超える DeviceN のカラースペースには対応していません。**
- **PDF バージョン 1.6 の固有機能であるウォーターマーク注釈や、バージョン 1.6 で機能拡張されたオプショナルコンテンツには対応していません。**
- **PDF バージョン 1.7 の固有機能である AcroForm を使用している PDF ファイルには対応していません。**
- **透明機能を含むデータを印刷する場合、オプションの SDRAM モジュール 128MB/256MB の増設が必要です。ただし、メモリーの容量を最大まで増設した場合でも、印刷するデータによっては印刷できないことがあります。この場合はプリンタードライバーを使用して印刷してください。**
- **PDF ファイルのサイズが大きい場合は、直接印刷できないことがあります。**

補足

- 不定形サイズの用紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

Ridoc Desk Navigator を使う

個人文書管理ソフト Ridoc Desk Navigator に PDF ファイルを登録し、PDF ファイルを直接本機に送って印刷することができます。

PDF ダイレクトプリントの印刷条件は、PDF ダイレクトプリントのプロパティで設定できます。

Ridoc Desk Navigator は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳細は P.23「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

補足

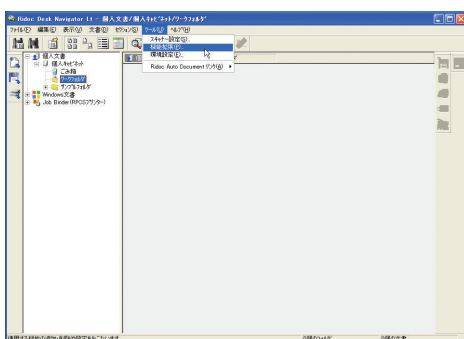
- 操作方法の詳細は Ridoc Desk Navigator のヘルプを参照してください。

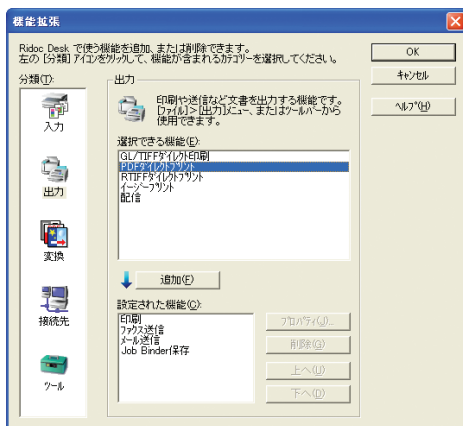
Ridoc Desk Navigator の機能拡張について

Ridoc Desk Navigator では、文書の入力、出力、接続、ツールに関する機能を拡張することができます。PDF ファイルを直接印刷するには、機能拡張から直接印刷の機能を追加してください。

1. Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Desk Navigator］をクリックします。

［機能拡張ウィザード］が起動した場合は［終了］をクリックしてください。

2.［ツール］メニューから［機能拡張］をクリックします。

3.「分類：」のカテゴリーから［出力］を選択します。

4.「選択できる機能：」の欄から拡張したい機能を選択し、［追加］をクリックします。

PDF ダイレクトプリントについては、P.56「PDF ファイルを直接印刷する」を参照してください。

5. 追加する機能によってはプロパティが表示されます。［OK］をクリックします。

PDF ダイレクトプリントを追加するとプロパティが表示されます。［直接指定...］をクリックして、本機の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

6. ［設定された機能］の欄に追加した機能が表示されます。

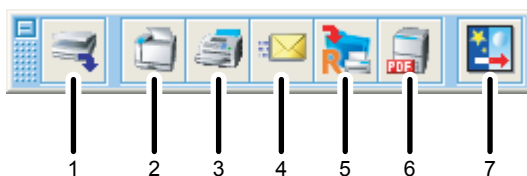
7. 拡張する機能の設定が終了したら［OK］をクリックします。

8. Ridoc Desk Navigator を終了します。

補足

- PDF ダイレクトプリントを使用するには、オプションの PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードが必要です。

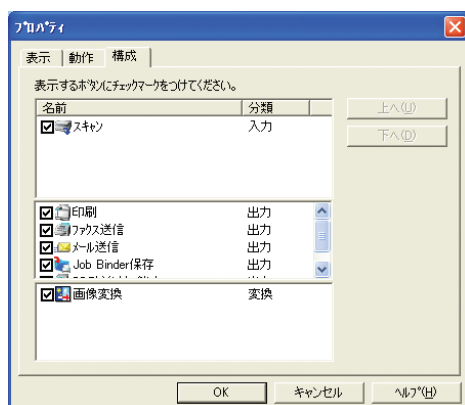
Ridoc Function パレットについて

Ridoc Function パレットとは、Ridoc Desk Navigator の機能拡張で設定した機能をボタン化したものです。Ridoc Desk Navigator を起動することなく、Windows ファイルの印刷、印刷プレビュー、画像変換、文書のスキャナー登録などができます。また、これらの機能はパレットのボタンに対象ファイルをドラッグ＆ドロップするだけで使用することもできます。

1. スキャン（本機のみの環境では使用できません）
2. 印刷
3. ファクス送信（本機のみの環境では使用できません）
4. メール送信（本機のみの環境では使用できません）
5. Job Binder 保存（本機のみの環境では使用できません）
6. PDF ダイレクトプリント
7. 画像変換

機能拡張を設定した場合は、Ridoc Function パレットに自動でボタン表示されます。設定した機能のボタンが表示されない場合や、ボタンを非表示にする場合は以下の操作を行ってください。

1. **Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Function パレット］をクリックします。**

2. **右下のタスクトレイに表示された Ridoc Function パレットを右クリックし、［プロパティ...］をクリックします。**

3. **［構成］タブをクリックし、ボタン表示させる機能にはチェックボックスにチェックを入れ、ボタン表示させない機能にはチェックボックスのチェックを外します。**

4. **［OK］をクリックし、プロパティを閉じます。**

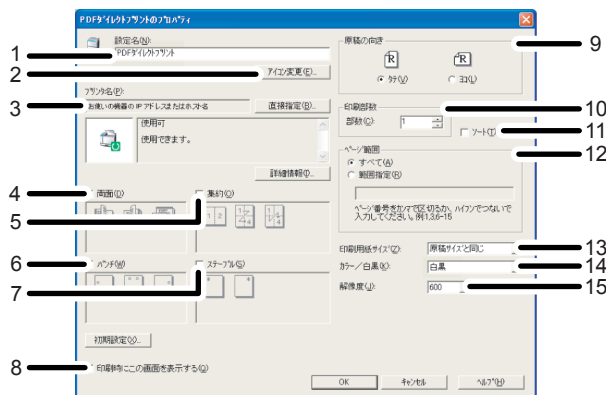
Ridoc Function パレットを使って PDF ファイルを直接印刷する

Ridoc Desk Navigator を起動することなく、Ridoc Function パレットから PDF ファイルを印刷する方法について説明します。

1. **印刷したい PDF ファイルをパレットの PDF ダイレクトプリントのアイコンにドラック＆ドロップします。**

2. **出力したい PDF ファイルを選択し、反転させて［OK］をクリックします。**

2

PDF ダイレクトプリントのプロパティについて

1. 設定名

   プラグインの設定名を表示します（半角英数字 63 文字までです）。

2. アイコン変更

   ツールバーに表示されるアイコンを変更できます。

3. プリンタ名

   お使いの機器の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

4. 両面

   両面印刷をする場合は、ここで指定します。

5. 集約

   集約印刷する場合は、ここで指定します。

6. パンチ

   印刷した用紙にパンチ穴をあける場合は、ここで指定します。本機ではサポートしていません。

7. ステープル

   印刷した用紙をステープラーでとじる場合は、ここで指定します。本機ではサポートしていません。

8. 印刷時にこの画面を表示する

   チェックをつけた場合は、PDF ダイレクト印刷時にこの画面が表示されます。

9. 原稿の向き

   印刷する原稿の向きを指定します。

10. 印刷部数

    印刷部数を指定します。

11. ソート

    ソート印刷をする場合は、ここで指定します。

12. ページ範囲

    印刷する範囲をページ指定します。

13. 印刷用紙サイズ
    印刷する用紙のサイズを選択します。
14. カラー／白黒
    本機では白黒印刷を指定します。
15. 解像度
    印刷の解像度を選択します。

コマンドを使用して印刷する

PDF ファイルを本機に送信して直接印刷するには、lpr、rcp、ftp および sftp コマンドを使用します。

PDF ファイルを送信する

lpr コマンドを使用して PDF ファイルを送信する場合の例は以下のとおりです。

lpr コマンドでは、プリンターの IP アドレスのほか、PDF ファイル名を指定します。書式は次のとおりです。

c:> lpr -S プリンターの **IP** アドレス（またはホスト名） **-P** プリンター名 ¥パス名¥ファイル名

補足

- コマンドによる直接印刷について、詳細は『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

PDF パスワードを設定する

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷する方法について説明します。

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷するには、操作部または Web Image Monitor のいずれかでパスワードを指定します。

操作部を使う

操作部を使用して PDF パスワードを設定するには、［印刷設定］の［PDF 設定］で「PDF パスワード」を設定します。

Web Image Monitor を使う

Web Image Monitor を使用して PDF パスワードを設定するには、メニューエリアで［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの［PDF 一時パスワード］を設定します。

文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の文字列とマスクパターンを埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷には、「不正コピー抑止地紋」と「不正コピーガード」があります。

2

★ 重要

- **不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。**

不正コピー抑止の詳細ウィンドウを表示する

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2.［項目別設定］タブをクリックします。

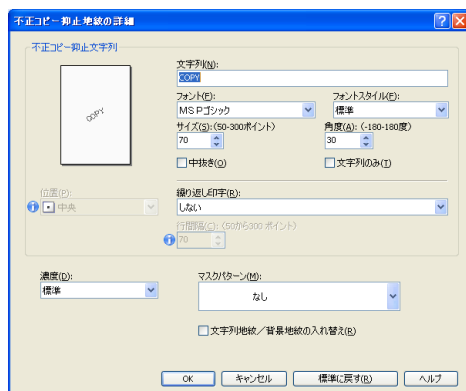
3.「メニュー項目：」で［効果］メニューをクリックします。

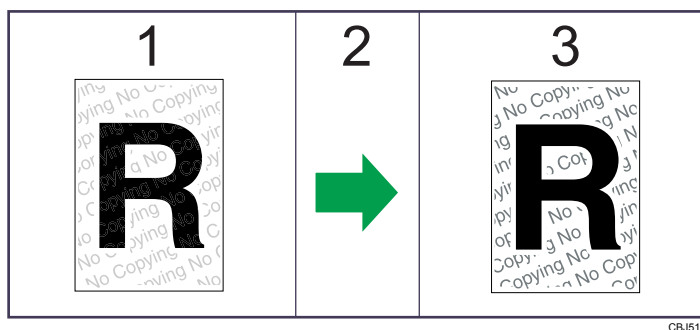
4.「不正コピー抑止」チェックボックスにチェックを入れます。

5.「不正コピー抑止の種類：」プルダウンメニューから［不正コピー抑止地紋］または［不正コピーガード］を選択し、［詳細...］をクリックします。

不正コピー抑止地紋

プリンタードライバーで不正コピー抑止文字列とマスクパターンを設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

必要な設定項目

- 「文字列：」に不正コピー抑止文字列を入力し、「マスクパターン：」プルダウンメニューから使用するマスクパターンを選択します。

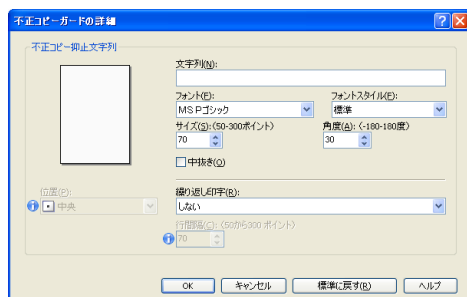
「不正コピー抑止地紋」を設定した文書を印刷すると

1. 不正コピー抑止地紋を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止文字列およびマスクパターンが表示されます。
2. 複写機／複合機を使って、コピーを行います。
3. 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

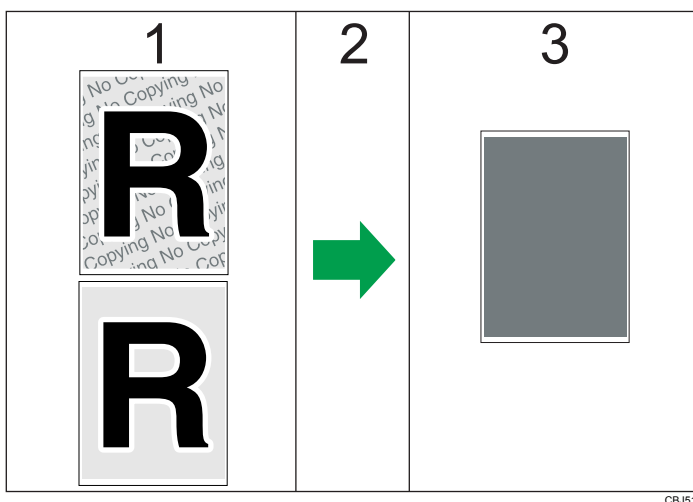
補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- 地紋効果は、コピー、スキャン、ドキュメントボックスへの蓄積結果をすべて保証しているものではありません。また蓄積結果は、使用する機種とその設定条件により異なります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 不正コピー抑止印刷のための文字列地紋を効果的に浮き上がらせるために、文字列サイズは 70～80pt（最低 50pt）、文字列角度は 30～ 40 度の範囲内で設定してください。
- 「不正コピー抑止地紋の詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

不正コピーガード

プリンタードライバーで不正コピーガード用の不正コピー抑止文字列を埋め込んで、印刷することができます。

必要な設定項目

- 「文字列：」に不正コピー抑止文字列を入力します。

不正コピーガードを設定した文書を印刷すると

1. 不正コピーガードを設定すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が埋め込まれて印刷されます。
2. 当社の不正コピーガードモジュールが搭載された複写機／複合機を使って、コピーを行います。
3. 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- 用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- 用紙種類は普通紙、または白色度 70%以上の再生紙をご使用ください。
- 両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。

- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピーガードの詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 不正コピーガードモジュールは当社の複合機／複写機用のオプションです。本機には装着できません。

おことわり

1. 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガードが、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガードが有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
2. 不正コピー抑止地紋および不正コピーガードを使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

プリントジョブに分類コードを入力する

分類コードが必須の環境で印刷するときは、プリントジョブに分類コードを指定して印刷します。

1. **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

   印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. **［項目別設定］タブをクリックします。**
3. **「メニュー項目：」で［印刷方法/認証］メニューをクリックします。**
4. **「分類コード：」ボックスに分類コードを入力します。**

   分類コードは半角英数字と-（ハイフン）を合計 32 文字まで使用することができます。

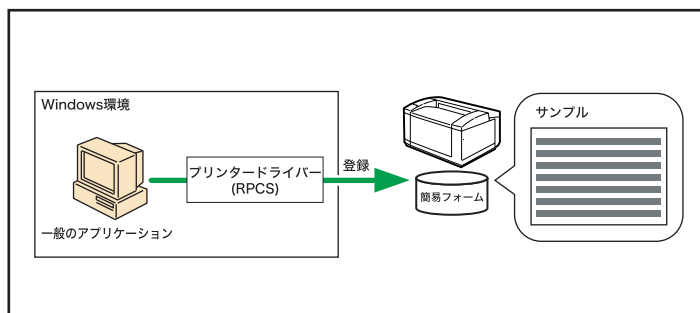
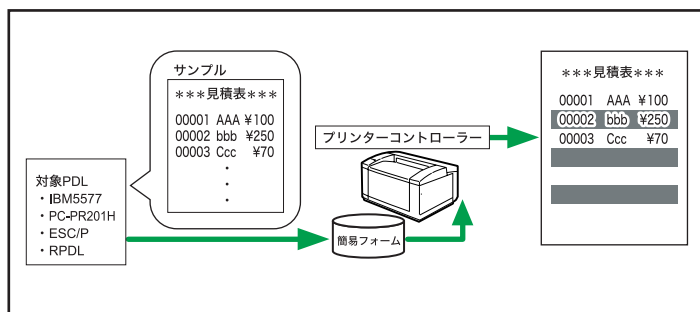
5. **その他の印刷の設定を必要に応じて指定します。**
6. **［OK］をクリックし、印刷設定を閉じます。**
7. **アプリケーションから印刷の指示をします。**

補足

- 入力した分類コードはプリンタードライバーに保持されます。
- 複数の分類コードを切り替えたい場合は、プリンタードライバーを別の名前で複数インストールし、それぞれに個別の分類コードを設定します。

登録したフォームで印刷する（イメージオーバーレイ）

本機に登録したフォームデータと印刷する原稿を合成して、1 枚の原稿として印刷ができます。

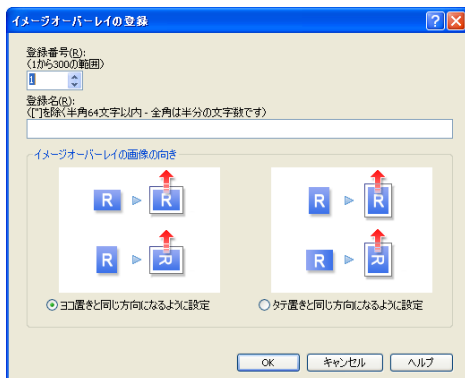
市販の Windows 対応アプリケーションソフトを使用して作成したフォームデータを、RPCS プリンタードライバーを使って本機に登録します。

RPDL、またはエミュレーションの R98、R55、R16 を使用してフォーム実行を行うと、印刷する原稿と登録しておいたフォームを合成して印刷を行います。

フォームデータの登録

重要

- **RPCS プリンタードライバーがインストールされている必要があります。**

1. 市販の Windows 対応アプリケーションソフトでフォームデータを作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. 「印刷方法：」から［イメージオーバーレイ用にプリンターに保存］を選択します。
3. ［詳細...］をクリックします。
4. 必要に応じて項目を設定し、［OK］をクリックします。

5. ［OK］をクリックし、プリンターの印刷設定を閉じます。

補足

- 登録は 300 文書までできます。

登録したフォームを使用して印刷する

基幹系業務アプリケーションやホスト端末エミュレーションの設定にコマンドを追加することによって、イメージオーバーレイ印刷を実現できます。

重要

- **RPDL、またはエミュレーションの R98、R55、R16 が必要です。**

IBM AS/400® Pcomm の PDT ファイルの設定例をあげます。

```
EJC EQU 1B 7E 01 00 00
INZ EQU 1B 7E 0E 00 01 06
RJ1 EOU @ P J L 20 S E T 20 F O R M E X E C U T E 20 = 20 O N
RJ2 EOU @ P J L 20 S E T 20 F O R M E X E C U T E N U M B E R 20 = 20 1
END_MACROS                                    /*イメージオーバーレイ呼び出し
/*****************************************************************************************/
/*                      Session Parameters                      */
/*****************************************************************************************/
MAXIMUM_PAGE_LENGTH=066
MAXIMUM_PRINT_POSITION=132
DEFAULT_CPI?=010
DEFAULT_LPI?=006
COMPRESS_LINE_SPACING?=NO
FORM_FEED_ANY_POSITION?=YES
HORIZONTAL_PEL=120
UNITS_OF_DRAW_LINE=
KANJI_CODE?=SHIFT_JIS
ZENKAKU_SPACE=
PAGE_LENGTH_TYPE?=6INCH
/*****************************************************************************************/
/*                      Control Codes                      */
/*****************************************************************************************/
START JOB=RJ1 RJ2 INZ SEL LL6 P10
END JOB=INZ
BACKSPACE=BAK
BELL=BELL
```

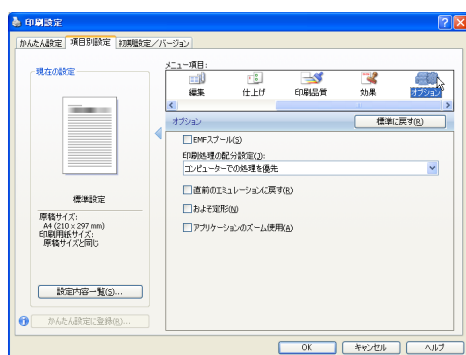
BVB062S

印刷終了後にプリンターのエミュレーションをもとに戻す

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

   印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. [項目別設定] タブをクリックします。

3. 「メニュー項目：」で [オプション] メニューをクリックします。

4. 「直前のエミュレーションに戻す」チェックボックスにチェックを入れます。

5. [OK] をクリックします。

6. アプリケーションから印刷の指示をします。

   印刷後にエミュレーションの設定がもとに戻ります。

仮想プリンターを使う

仮想プリンターとは、ネットワーク上でのみ認識することができる擬似的なプリンターです。仮想プリンターには、印刷に関するさまざまなオプション（給紙トレイの指定や両面印刷の有無など）を設定しておくことができます。また、割り込み印刷を設定することができます。割り込み印刷とは、印刷中や処理中のジョブを一時停止させて、別のジョブを先に印刷することです。この機能を使うには、拡張 HDD が必要です。Unix や Solaris などから印刷するときに仮想プリンターを指定すると、コマンドによる印刷オプションの指示ができない場合でも、さまざまな印刷をすることができます。

仮想プリンターを追加する

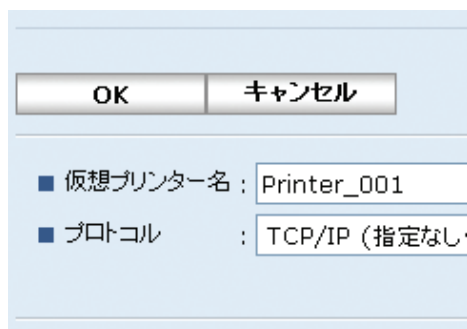
重要

- **仮想プリンターの追加を行うには管理者モードでログインする必要があります。**
- **仮想プリンターで使用可能なプロトコルは、[TCP/IP（指定なし・通常）]、[TCP/IP（指定なし・優先）]、[TCP/IP（RHPP）]、[TCP/IP（DIPRINT）]、[AppleTalk] です。**

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。

2

3. ［追加］をクリックします。

4. ［仮想プリンター名］に任意のプリンター名を入力し、［プロトコル］を選択してください。

5. ［OK］をクリックします。

6. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

補足

- ［AppleTalk］は、PS3 カード装着時に表示されます。
- ［プロトコル］で［AppleTalk］または［TCP/IP（DIPRINT)］を指定した場合、仮想プリンターの名前を任意に設定することはできません。
- 仮想プリンターの名前は、半角英数字と記号で 47 文字まで設定できます。
- 追加できる仮想プリンターの数は 50 個までです。登録されている仮想プリンターが 51 個に達している場合、追加ボタンは表示されません。

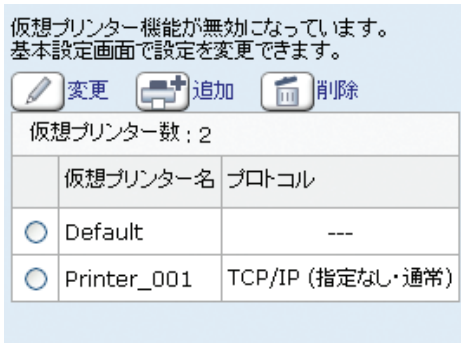
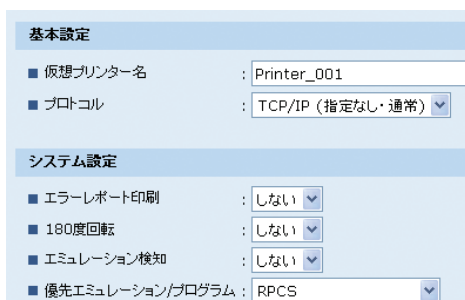
仮想プリンターの設定を変更する

重要

- **仮想プリンターの設定を変更するには管理者モードでログインする必要があります。**

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。

3. 変更したい仮想プリンターを選択し、［変更］をクリックします。

4. 各項目の設定内容を任意に変更し、［OK］をクリックします。

ここで設定した仮想プリンターを割り込み印刷用の仮想プリンターとして設定する場合は、［プロトコル］で［TCP/IP（指定なし：優先)］を選択します。

5. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

- 設定内容の詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

仮想プリンターの設定内容を確認する

1. Web Image Monitor を起動します。

2. **メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。**

3. **確認したい仮想プリンターを選択し、［詳細情報］をクリックします。**

- 管理者モードでログインしている場合、［詳細情報］は表示されません。［変更］で現在の設定内容を確認してください。
- ゲストモードの場合、仮想プリンター機能が無効になっていると仮想プリンターの一覧は表示されません。仮想プリンターを有効にする方法については、P.75「仮想プリンターで印刷する」を参照してください。

仮想プリンターを削除する

- **仮想プリンターを削除するには管理者モードでログインする必要があります。**

1. **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. **メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。**

3. **削除したい仮想プリンターを選択し、［削除］をクリックします。**

4. ［OK］をクリックします。

5. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

補足

- Default の仮想プリンターは削除できません。
- Default の仮想プリンターしか登録されていない場合、［削除］ボタンは表示されません。

仮想プリンターで印刷する

仮想プリンターを使って印刷するには、各コマンドのオプションに［仮想プリンター名］を指定します。割り込み印刷をする場合は、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターの名前を指定します。最初に印刷を行う前に、仮想プリンターを［有効］に設定してください。

重要

- **仮想プリンターを有効にするには、管理者モードでログインする必要があります。**

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［基本設定］をクリックします。

3. ［仮想プリンター］の項目から［有効］を選択し、［OK］をクリックします。

4. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

5. パソコンから印刷の指示をします。

lpr コマンドを使用して印刷する場合の例は以下のとおりです。

c:> lpr -S プリンターの **IP** アドレス（またはホスト名）**-P** 仮想プリンター名 ¥パス名¥ファイル名

補足

- 現在印刷中のジョブが下記の条件を満たしている場合、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターで印刷しても、割り込み印刷できません。現在のジョブの印刷が終了してから割り込んだジョブの処理が開始されます。
    - 手差しトレイから印刷されている場合
    - 現在のジョブが表紙や合紙の機能を使用している場合
- 現在のジョブで大量のメモリーを消費していたり、大量の印刷をしている場合、割り込んだジョブを処理するメモリーが不足したり、すべてのページが印刷できなかったりします。この場合、蓄積が解除されたり、通常の最大枚数より少ない枚数でソートされる場合があります。

- コマンドによる直接印刷について、詳細は『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

設定が無効になる項目について

選択しているエミュレーションによっては、「システム設定」の設定項目が無効になります。詳細は以下のとおりです。

無効になる「システム設定」の設定項目	選択しているエミュレーション
180 度回転	RPCS
補助用紙サイズ	RTIFF
給紙トレイ	RPCS、RPDL、RTIFF、R98、R55、R16
用紙種類	RPCS、RTIFF

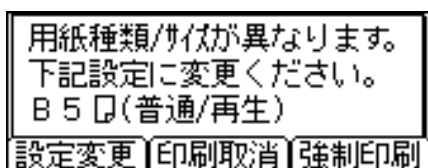
用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき

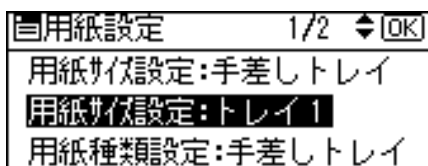
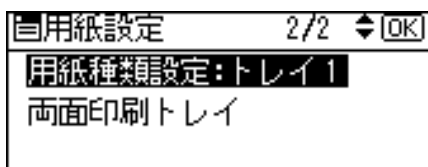
印刷時に指定した用紙サイズや用紙種類と給紙トレイにセットされた用紙が異なる場合、操作部に警告画面が表示されます。

2

トレイの用紙設定を変更して印刷する

1. 警告画面で［設定変更］を押します。

用紙種類/ｻｲｽﾞが異なります。
下記設定に変更ください。
Ｂ５(普通/再生)
設定変更 | 印刷取消 | 強制印刷

2. ［▼］［▲］キーを押して用紙サイズを変更したいトレイを選択し、［OK］キーを押します。

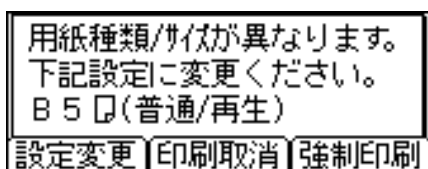
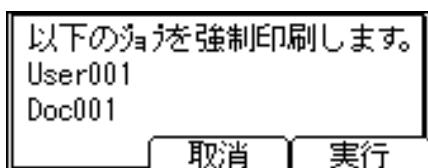
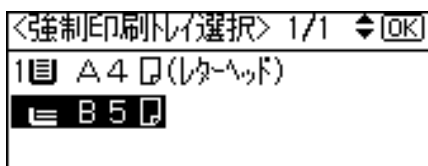
用紙設定 1/2 OK
用紙ｻｲｽﾞ設定:手差しトレイ
用紙ｻｲｽﾞ設定:トレイ 1
用紙種類設定:手差しトレイ

3. ［▼］［▲］キーを押して使用する用紙サイズを選択し、［OK］キーを押します。
4. ［▼］［▲］キーを押して用紙種類を変更したいトレイを選択し、［OK］キーを押します。

5. ［▼］［▲］キーを押して使用する用紙種類を選択し、［OK］キーを押します。
6. ［キャンセル］キーを押します。

強制印刷する

1. 警告画面で［強制印刷］を押します。

用紙種類/サイズが異なります。
下記設定に変更ください。
B5 (普通/再生)
設定変更 | 印刷取消 | 強制印刷

2. ［実行］を押します。

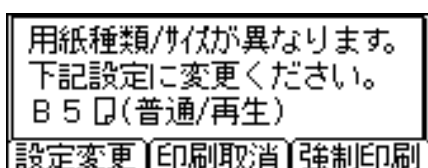
以下のジョブを強制印刷します。
User001
Doc001
取消 | 実行

3. ［▼］［▲］キーを押して使用するトレイを選択し、［OK］キーを押します。

用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

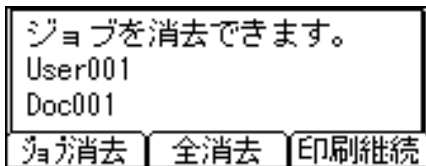
補足

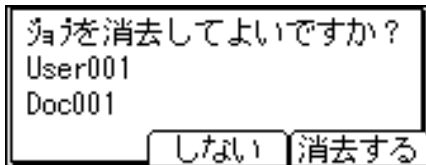
- 用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。
- ソート印刷の 1 部目で強制印刷を実行した場合、1 部のみ指定した給紙トレイから印刷し、ソート印刷は解除されます。
- ソート印刷の 2 部目以降で強制印刷を実行した場合、実行中の部のみ印刷を行います。

印刷を中止する

1. 警告画面で［印刷取消］を押します。

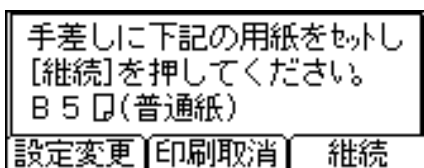
用紙種類/サイズが異なります。
下記設定に変更ください。
B5 (普通/再生)
設定変更 | 印刷取消 | 強制印刷

2. 現在のジョブを中止する場合は、［ジョブ消去］を押します。すべてのジョブを中止する場合は、［全消去］を押します。

ジョブを消去できます。
User001
Doc001
ジョブ消去　全消去　印刷継続

3. ［消去する］を押します。

補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切替時間］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］を押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

手差しトレイからの印刷を継続する

手差しトレイが［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定されている場合、ジョブで指定した用紙サイズと異なる用紙が給紙されたときには警告画面が表示されます。

手差しに下記の用紙をセットし
［継続］を押してください。
Ｂ５（普通紙）
設定変更　印刷取消　継続

この画面が表示されたときは、セットした用紙のサイズを確認してください。

1. 画面に表示されている用紙を手差しトレイにセットします。

2. ［継続］を押します。

エラーが発生したページから印刷が再開されます。

補足

- ［設定変更］から用紙サイズや用紙種類を変更しても、実行中のジョブに対しては適用されません。用紙設定を変更する場合は、ジョブリセットしてから、再度、印刷を実行してください。

- ［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］については、P.47「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」およびP.156「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

試し印刷、機密印刷、保留文書印刷、保存文書印刷や印刷の中止などの注意事項について説明します。

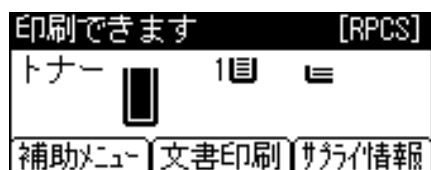
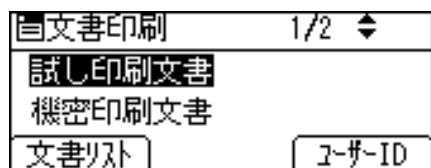
ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合を例に説明します。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 編』、PCL 6 プリンタードライバーを使用した場合は、『PCL 編』を参照してください。

文書印刷機能を使う

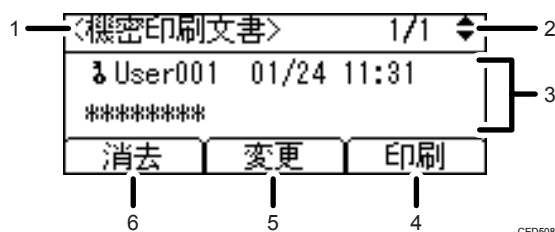
文書印刷機能では、あらかじめプリンタードライバーからの印刷指示で本機の拡張 HDD に蓄積された、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書および保存文書の印刷、または削除ができます。

試し印刷文書、機密印刷文書および保留文書は、文書印刷機能で指示された印刷が終了すると蓄積されていた文書は消去されます。保存文書は、印刷が終了しても消去されません。文書印刷機能を使うためには、拡張 HDD が必要です。

文書印刷画面を表示する

本機に拡張 HDD が装着されている場合、電源を入れたときに以下の初期画面が表示されます。

初期画面で［文書印刷］を押すと、文書印刷の種類を選択する画面が表示されます。

文書を選択する画面は、［文書リスト］を押したときに表示される文書一覧画面と、［ユーザー ID］を押したときに表示されるユーザー ID 一覧画面の 2 種類があります。

文書一覧画面

プリンター初期画面で［文書印刷］を押して文書印刷の種類を選択し、［文書リスト］を押すと、次の画面が表示されます。

1. **文書印刷機能表示**

   選択した文書印刷の種類を表示します。

2. **画面ページ数表示**

   蓄積されている文書を表示します。[▼][▲]キーを押すごとに選択した種類の印刷文書を1画面ずつ表示します。

3. **ユーザーID/日時/文書名表示**

   - ユーザーIDには、プリンタードライバーで設定したユーザーIDが表示されます。
   - 日時には、パソコンから印刷を指示した時刻が表示されます。
   - 文書名には文書名が表示されますが、機密印刷文書は文書名が「******」と表示されます。

4. **[印刷]**

   選択している文書を印刷します。

5. **[変更]**

   パスワードを設定した文書からパスワードを変更または削除できます。機密印刷文書または保存文書のパスワードを変更する場合は、[変更]を押して最初に設定したパスワードを入力した後、確認画面で新しいパスワードを入力して[OK]キーを押します。保存文書のパスワードを削除する場合は、[変更]を押して最初に設定したパスワードを入力した後、確認画面で何も入力せずに[OK]キーを押します。

   また、パスワードを設定していない保存文書に対して、パスワードを追加することもできます。

6. **[消去]**

   選択している文書を消去します。

補足

- パスワードの変更、削除に関しては、最初に設定したパスワードを正しく入力してください。パスワードが一致しない場合、パスワードの変更、削除はできません。
- [変更]を押してパスワードを追加、削除する機能は保存文書が本機に蓄積されている場合に使用できます。

ユーザーID一覧画面

プリンター初期画面で[文書印刷]を押して文書印刷の種類を選択し、[ユーザーID]を押すと、次の画面が表示されます。

1. **文書印刷機能表示**

   選択した文書印刷の種類を表示します。

2. **画面ページ数表示**

   現在のページ番号を表示します。[▼][▲]キーを押すごとに画面を切り替えます。

3. **ユーザー ID**

   - 選択した種類の文書を蓄積しているユーザーの ID が表示されます。
   - プリンタードライバーで設定したユーザー ID が表示されます。

4. **[全印刷]**

   選択した ID のユーザーが蓄積した文書をすべて印刷します。

5. **[文書リスト]**

   文書一覧画面の表示に切り替えます。ここでは、ユーザー ID 画面で選択したユーザーのジョブのみが表示されます。

補足

- 文書一覧やユーザー ID 一覧を表示しているときに新たに文書が蓄積された場合、表示は更新されません。表示を更新するには、いったん[メニュー]キーまたは[キャンセル]キーを初期画面に戻るまで押し、もう一度[文書印刷]を押してください。
- 本機に多くの文書を蓄積・保存している場合は、お使いの機能によっては機器の反応が一時的に遅くなることがあります。

文書一覧画面から文書を印刷する

試し印刷、機密印刷、保留印刷文書、保存文書について説明します。

試し印刷する

複数部数印刷する場合など、最初に 1 部だけ印刷し、その結果を確認した後に操作部を使用して残り部数を印刷できます。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。内容や印刷の指定を間違えたときなどに大量のミスプリントを防ぐことができます。

3

重要

- **以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.182「エラー履歴を確認する」を参照してください。**
    - **拡張 HDD が装着されていない場合**
    - **本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**
    - **1 文書あたり 1,000 ページを超える文書**
    - **送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**

試し印刷文書をプリンターに送る

1. **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

   印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. **「印刷方法：」から［試し印刷］を選択します。**
3. **［詳細...］をクリックします。**
4. **「ユーザー ID：」を半角英数字 8 文字以内で入力します。**

   ユーザー ID の代わりに［Windows ログイン名］を設定することもできます。

5. **［OK］をクリックします。**
6. **印刷の指示をします。**

7. 印刷結果を確認し、操作部から 2 部目以降を印刷するか消去するかを指示します。

- 本機の電源を切っても、蓄積された試し印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.137「調整/管理メニュー」を参照してください。

操作部を使って試し印刷する

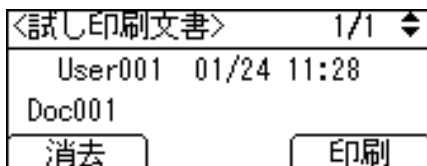
- **印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。**

1. ［文書印刷］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［試し印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

［ユーザー ID］を押すことによっても印刷できます。詳細は P.96「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

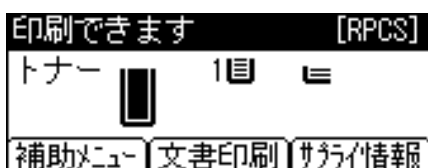
3. ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。

印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、部数を入力します。最大 999 部が印刷できます。

4. ［印刷］を押します。

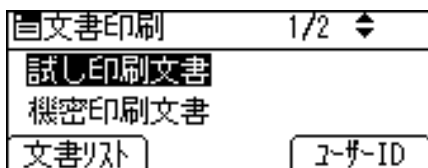
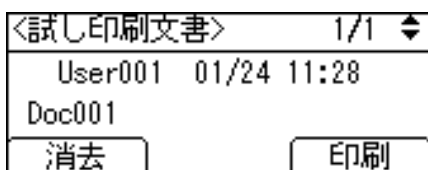
補足

- 他のジョブがある場合は、そのジョブの終了後に印刷されます。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は P.77「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

試し印刷文書を消去する

試し印刷の内容を確認し、2 部目以降を印刷しない場合は、本機に蓄積されている文書を消去します。

1. ［文書印刷］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［試し印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。

4. ［消去］を押します。

機密印刷する

ネットワークでプリンターを共有している場合など、他人に見られたくない文書を印刷するときなどに有効な機能です。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。機密印刷を使うと本機の操作部からパスワードを入力しないと印刷できなくなりますので、他人に見られる心配がありません。

重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.182「エラー履歴を確認する」を参照してください。
    - 拡張 HDD が装着されていない場合
    - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
    - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
    - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）

機密印刷文書をプリンターに送る

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

   印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. 「印刷方法：」から［機密印刷］を選択します。
3. ［詳細...］をクリックします。
4. 「ユーザー ID：」を半角英数字 8 文字以内で入力します。

   ユーザー ID の代わりに［Windows ログイン名］を設定することもできます。

5. 「パスワード：」を半角数字 4 文字以上 8 文字以内で入力します。
6. ［OK］をクリックします。
7. 印刷の指示をします。

   本機に文書が蓄積されます。

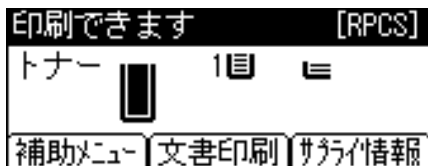
8. 操作部でパスワードを入力し、印刷するか消去するかを指示します。

補足

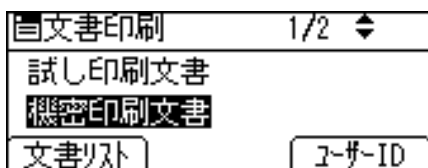
- 本機の電源を切っても、蓄積された機密印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.137「調整/管理メニュー」を参照してください。

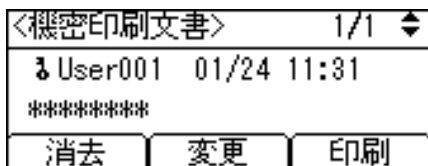
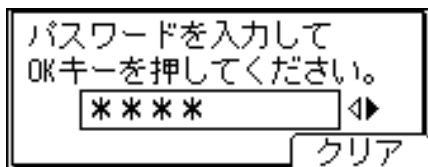
操作部を使って機密印刷する

重要

- **印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。**

1.［文書印刷］を押します。

2.［▼］［▲］キーを押して［機密印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

［ユーザー ID］を押すことによっても印刷できます。詳細は P.96「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3.［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。

4. パスワードを入力し、［OK］キーを押します。

入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されますので［確認］を押して、再度入力します。

パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

5.［印刷］を押します。

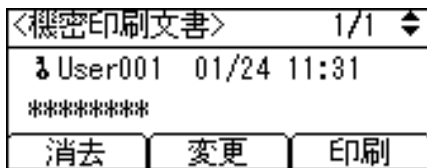
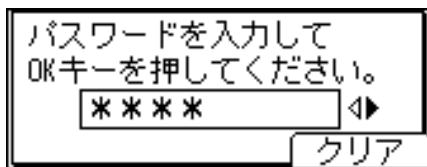
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は P.77「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

機密印刷文書を消去する

1. ［文書印刷］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［機密印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。

4. パスワードを入力し、［OK］キーを押します。

入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されます。［確認］を押して、再度入力します。 パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

5. ［消去］を押します。

保留文書を印刷する

本機に文書を一時的に蓄積し、必要に応じて印刷を行います。複数の文書をまとめて印刷するときなどに有効です。

重要

- **以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.182「エラー履歴を確認する」を参照してください。**
  - **拡張 HDD が装着されていない場合**
  - **本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**
  - **1 文書あたり 1,000 ページを超える文書**
  - **送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**

保留文書をプリンターに送る

1. **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

   印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. **「印刷方法：」から［保留印刷］を選択します。**
3. **［詳細...］をクリックします。**
4. **「ユーザー ID：」を半角英数字 8 文字以内で入力します。**

   ユーザー ID の代わりに［Windows ログイン名］を設定することもできます。

5. **［OK］をクリックします。**
6. **印刷の指示をします。**

補足

- 本機の電源を切っても、蓄積された保留印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.137「調整/管理メニュー」を参照してください。
- 保留文書には「ファイル名：」を半角 16 文字（全角 8 文字）以内で設定できます。ただし、必須ではありません。

操作部を使って保留文書を印刷する

重要

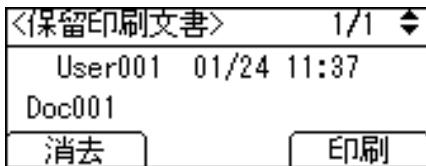
- **印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。**

1. ［文書印刷］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［保留印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

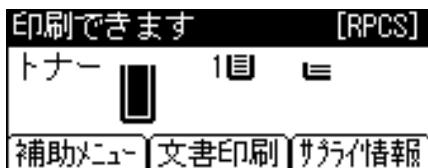
［ユーザー ID］を押すことによっても印刷できます。詳細は P.96「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

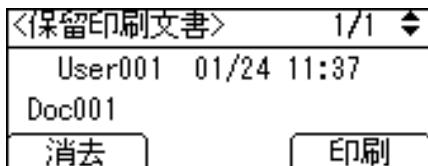
3. ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。

4. ［印刷］を押します。

- 保留印刷文書として蓄積された文書を印刷するときに、部数の変更はできません。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は P.77「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

保留印刷文書を消去する

1. ［文書印刷］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［保留印刷文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。

4. ［消去］を押します。

保存文書を印刷する

本機に文書を蓄積し、必要に応じて印刷を行います。印刷終了後にも文書が消去されないので、繰り返し印刷するときなどに有効です。

重要

- **以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。エラー履歴の確認方法については、P.182「エラー履歴を確認する」を参照してください。**
    - **拡張 HDD が装着されていない場合**
    - **本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**
    - **1 文書あたり 1,000 ページを超える文書**

- **送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）**

保存文書をプリンターに送る

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.30「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2.「印刷方法：」から［プリンターに保存］または［保存して印刷］を選択します。

- ［プリンターに保存］を選択した場合は、本機に蓄積のみを行い、後から本機の操作部で印刷します。
- ［保存して印刷］を選択した場合は、1 部目をすぐに印刷し、本機にも文書を蓄積します。

3.［詳細...］をクリックします。

4.「ユーザー ID：」を半角英数字 8 文字以内で入力します。

ユーザー ID の代わりに［Windows ログイン名］を設定することもできます。

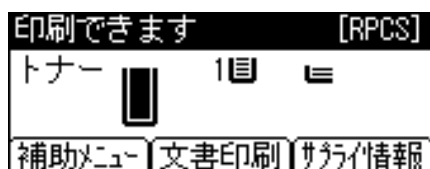
5.［OK］をクリックします。

6. 印刷の指示をします。

補足

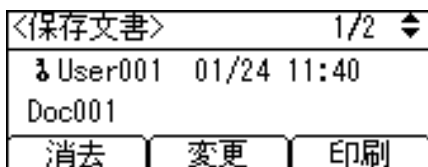
- 本機の電源を切っても、蓄積された保存印刷文書は消去されずに残りますが、［一時置き文書自動消去設定］や［保存文書自動消去設定］が優先されます。設定については、P.137「調整/管理メニュー」を参照してください。
- 保存文書には「ファイル名：」を半角 16 文字（全角 8 文字）以内で、「パスワード：」を 4 桁以上 8 桁以内の数字で設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

操作部を使って保存文書を印刷する

1.［文書印刷］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［保存文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。

<保存文書> 1/2
User001 01/24 11:40
Doc001
消去 変更 印刷

印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、部数を入力します。最大 999 部が印刷できます。

文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。

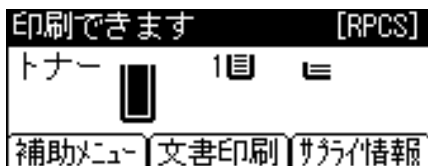
パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

4. ［印刷］を押します。

補足

- 文書にパスワードを追加または変更するには、文書一覧画面で［変更］を押して、パスワードを設定します。
- 文書に設定したパスワードを削除するには、文書一覧画面で［変更］を押して、設定したパスワードを入力して［OK］キーを押し、新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに［OK］キーを押します。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は P.77「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

保存文書を消去する

1. ［文書印刷］を押します。

2.［▼］［▲］キーを押して［保存文書］を選択し、［文書リスト］を押します。

文書印刷　2/2
保留印刷文書
保存文書
文書リスト　ユーザーID

セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3.［▼］［▲］キーを押して消去したい文書を選択し、［消去］を押します。

<保存文書>　1/2
User001　01/24 11:40
Doc001
消去　変更　印刷

文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

4.［消去］を押します。

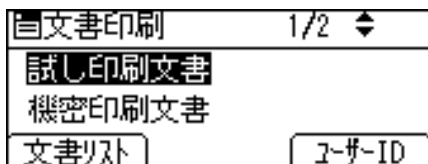
ユーザー ID 一覧から文書を印刷する

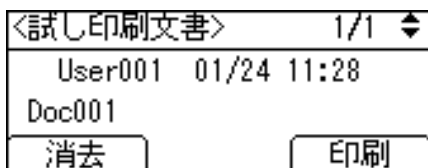
文書を個別に選択して印刷する方法と、選択したユーザー ID の文書をすべて印刷する方法があります。

文書を選択して印刷するとき

- 印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。

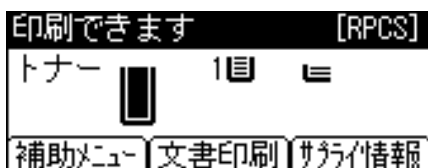
1. ［文書印刷］を押します。

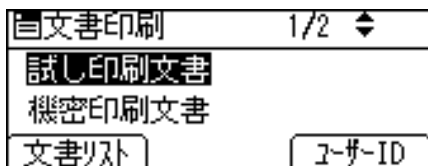
2. ［▼］［▲］キーを押して選択したい文書の種類を選択し、［ユーザー ID］を押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、［文書リスト］を押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して印刷したい文書を選択し、［印刷］を押します。

5. ［印刷］を押します。

文書をすべて印刷するとき

重要

- **印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。**

1. ［文書印刷］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、［ユーザー ID］を押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、［全印刷］を押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して印刷部数を設定します。

5. ［印刷］を押します。

補足

- 蓄積されていない種類の文書を選択することはできません。
- 保存文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。保存文書として蓄積されたすべての文書が、指定した部数で印刷されます。部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定してある部数中もっとも少ない部数で、すべての文書が印刷されます。

3

- 複数の文書がある試し印刷文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。試し印刷として蓄積されたすべての文書が、指定した部数で印刷されます。確認画面で部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定した中でもっとも少ない部数より 1 部少ない部数で、選択したすべての文書が印刷されます。設定した部数の中でもっとも少ない部数が1 の場合は、すべての文書が 1 部ずつ印刷されます。
- 機密印刷文書を選択した場合は、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書だけが印刷の対象になります。
- 保存文書を選択した場合、蓄積されている保存文書にパスワードが設定されているときは、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書と、パスワードが設定されていない文書だけが印刷の対象になります。

印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機またはパソコンから行います。中止する方法は印刷データの状態によって異なります。

中止したいデータが印刷されていない場合

パソコンから操作します。

1. **Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。**

   印刷を中止する文書の状態を確認します。

2. **印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。**
3. **［ドキュメント］メニューの［キャンセル］をクリックします。**
4. **［はい］をクリックします。**

補足

- ［プリンタ］メニューの［すべてのドキュメントの取り消し］をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、［すべてのドキュメントの取り消し］を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。

中止したいデータが印刷されている場合

本機の操作部から操作します。

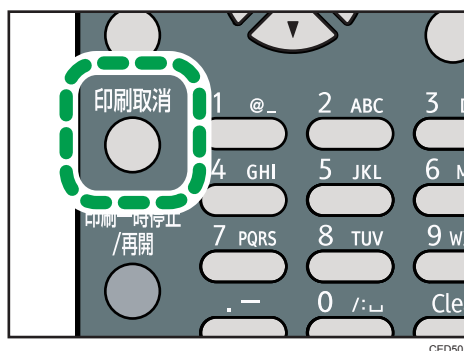
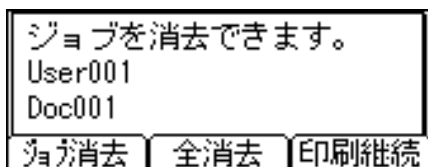
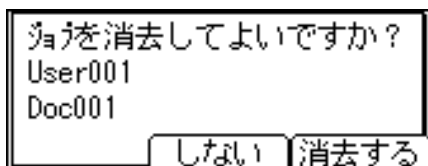
1. **［印刷取消］キーを押します。**

2. ［ジョブ消去］を押します。

```
ジョブを消去できます。
User001
Doc001
ジョブ消去 | 全消去 | 印刷継続
```

3. ［消去する］を押します。

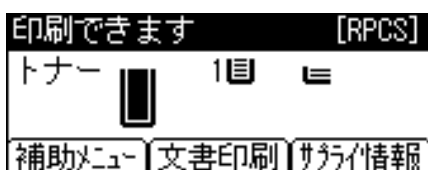
```
ジョブを消去してよいですか？
User001
Doc001
しない | 消去する
```

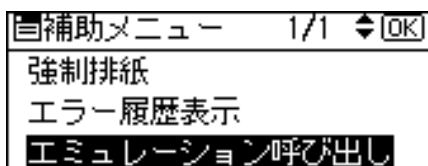
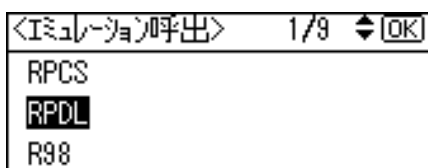
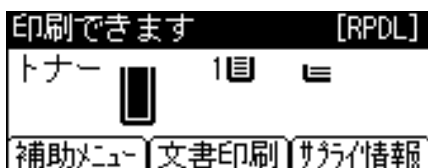
補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切り替え時間］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

4. 印刷条件の設定

ここでは、MS-DOS アプリケーションから印刷する場合に必要な印刷条件の設定方法について説明します。

印刷データを正しく印刷するには、アプリケーションやパソコンに合わせた印刷条件を設定する必要があります。正しい印刷条件を設定しないと、思いどおりの印刷結果が得られません。印刷条件の設定は、本機の操作部を使用して行います。なお Windows でプリンタードライバーを使用して印刷する場合は、プリンタードライバーで印刷条件を設定するため、本機で設定する必要はありません。ここでは RPDL を例に説明します。

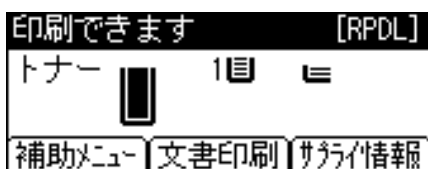
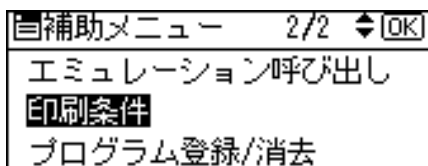
エミュレーションを切り替える

1. ［補助メニュー］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［エミュレーション呼び出し］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［RPDL］を選択し、［OK］キーを押します。

エミュレーションが切り替わり、次の画面が表示されます。

印刷条件を設定する

重要

- **この操作で設定した「印刷条件」は、次の条件で初期値に戻ります。**
    - **プリンターの電源を切ったとき**
    - **ほかのエミュレーションに切り替わったとき**

1. エミュレーションを RPDL に切り替えます。

2. ［補助メニュー］を押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［印刷条件］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して項目を選択し、［OK］キーを押して印刷条件を設定します。

5. 初期画面に戻るまで［メニュー］キーを押します。

参照

- 使用頻度が高いアプリケーションの環境は、プログラム登録しておくことをお勧めします。プログラムを登録しておくと、エミュレーションが切り替わったり、プリンターの電源を切っても、プログラムを呼び出せば、同じ条件で印刷することができます。プログラムを登録する方法については、P.120「プログラムを登録する」を参照してください。
- 印刷条件の設定項目については、P.105「RPDL の印刷条件の設定項目」を参照してください。
- 設定した印刷条件は、印刷条件リストで内容を確認できます。P.117「印刷条件リストを印刷する」を参照してください。

RPDL の印刷条件設定項目一覧表

重要

- 接続したオプションによっては、表示されない項目もあります。
- 「✱」マークが付いた設定値は、各項目の初期値になります。

項目	設定値					
	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
1.給紙トレイ	トレイ 2/手差し	トレイ 1	✱システムデフォルト	トレイ 2	トレイ 3	
	手差し（マルチ）					
2.印刷方向	✱単票・縦	単票・横	帳票・縦	帳票・横		
3.CR,LF,FF機能	CR,LF,FF	CR +LF,LF,FF	✱CR,LF・FF+CR	CR +LF,LF・FF +CR		
4.自動改行	する	✱しない				
5.行ピッチ	✱6LPI	3LPI	8LPI	フォントサイズ		
6.文字ピッチ	✱10CPI	12CPI	15CPI	フォントサイズ		
7.ANK フォント	✱クーリエ 10	プレステージエリート 12	レターゴシック 15	ボールドフェイス PS	ラインプリンタ	明朝半角
89.国別指定	アメリカ	イギリス	ドイツ 1	ドイツ 2	フランス	スウェーデン
	フィンランド	スイス	✱日本 1	日本 2	日本 3	
A.キャンセルコード	✱CR	クリア				
B.印刷領域	✱標準	最大	センタリング			
D.リミットレス給紙	しない	✱する				

項目	設定値					
	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
I.スペーシングユニット	*H=1/120, V=1/48	H=1/180, V=1/120	H=1/160, V=1/120	H=1/160, V=1/160	H=1/240, V=1/120	H=1/240, V=1/240
	H=1/400, V=1/400	H=1/600, V=1/600				
J.漢字コード	*新 JIS／JIS	旧 JIS／JIS	新 JIS／シフト JIS	旧 JIS／シフト JIS	JIS X0213／JIS	JIS X0213／シフト JIS
K.左余白	0mm	（範囲 0 〜 50mm、1mm 単位で設定可能）				
L.上余白	0mm	（範囲 0 〜 50mm、1mm 単位で設定可能）				
M.変倍率	*100%（等倍）	88%（11×14→B4）	80%（B4→A4）	75%（B4→A4）	70%（11×14→A4）	67%（A3→A4）
	115%（B4→A3）		122%（A4→B4）	141%（A4→A3）	200%（A5→A3）	50%（A3→A5）
O.半角ピッチ	*1/2	2/3				
Q.ページ長	*11 インチ	最大長				
R.イメージ濃度	*うすく	中間	こく			
T.漢字フォント	*明朝	ゴシック				
U.ANK サイズ	1200 センチポイント		（範囲 600 〜 2100 センチポイント、10 センチポイント単位で設定可能）			
V.漢字サイズ	960 センチポイント		（範囲 600 〜 1800 センチポイント、10 センチポイント単位で設定可能）			
W.グラフィックスユニット	1/400 インチ	*1/240 インチ	1/600 インチ			
Y.文字ストリング	する	*しない				
Z.外字文字数	*256 文字	512 文字	768 文字	1034 文字		
A02.印字モード	トナーセーブモード 2	*スムージングオン	トナーセーブモード 1	スムージングオフ		
A03.両面とじ方向	上とじ	*左とじ	右とじ			

項目	設定値					
	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
A04.エンジン解像度	400dpi	(400dpi)	*600dpi			
A06.両面印刷	*しない	する				

補足

- 「1.給紙トレイ」の「トレイ 2/手差し」は、プリンターの操作部には表示されません。トレイ 2 が装着されているときは、トレイ 2 を選択します。トレイ 2 が装着されていないときは、手差しトレイを選択します。
- 「A03.両面とじ方向」と「A06.両面印刷」は、両面印刷ユニットが装着されているときに表示されます。

RPDL の印刷条件の設定項目

給紙トレイ

使用する給紙トレイを選択します。

「システムデフォルト」に設定すると、現在の給紙トレイを選択します。

補足

- 給紙トレイが「システムデフォルト」に設定されているプログラムやエミュレーションに切り替わった場合、用紙設定の「優先給紙トレイ」またはシステム初期設定「給紙トレイ優先設定：プリンター」で設定されている給紙トレイが選択されます。

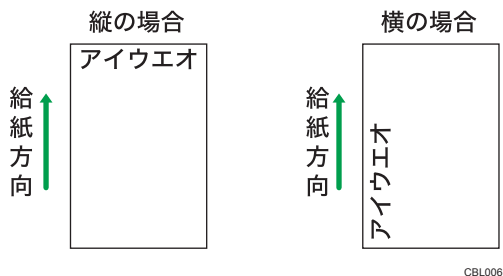
印刷方向

印刷方向（縦または横）と、印刷する用紙（単票または帳票）を設定します。

- 単票・縦
- 単票・横
- 帳票・縦
- 帳票・横

工場出荷時の設定：**単票・縦**

「縦」に設定すると、給紙方向に対して垂直に文字が印刷されます。

「横」に設定すると、給紙方向に対して平行に文字が印刷されます。

補足

- 実際に印刷できる用紙は単票だけです。「帳票」に設定すると、複数分のデータを 1 枚の用紙に印刷することができます。

4

CR、LF、FF 機能

CR（復帰）、LF（改行）、FF（改ページ）コードを受信したときの本機の動作を設定します。

- CR,LF,FF
- CR+LF,LF,FF
- CR,LF・FF+CR
- CR+LF,LF・FF+CR

工場出荷時の設定：**CR,LF・FF+CR**

「CR,LF･FF+CR」は「CR,LF+CR,FF+CR」を表します。「CR+LF,LF･FF+CR」は「CR+LF,LF+CR,FF+CR」を表します。

CR、LF、FF に対してそれぞれ「CR」、「LF」、「FF」を設定した場合は、コードの意味のままの動作となります。その他の動作は次のとおりです。組み合わせを考えて設定してください。

CR+LF に設定したときは、復帰の後に改行が行われます。

LF+CR に設定したときは、改行の後に復帰が行われます。

FF+CR に設定したときは、改ページの後に復帰が行われます。

自動改行

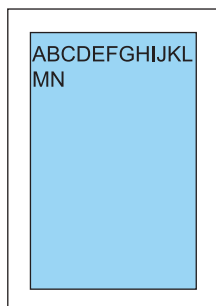
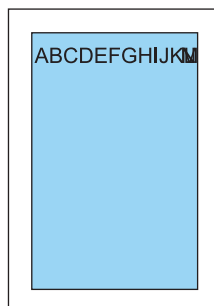
データが用紙の幅を超える場合に、自動的に改行するかどうかを選択します。

- する

  印刷領域の幅で自動的に改行されます。

- しない

  印刷領域から超えたデータは、右端に重なって印刷されます。

工場出荷時の設定：**しない**

補足

- 実際に印刷した場合、「ページ幅」での設定値と実際の用紙サイズによって印刷結果が異なります。

行ピッチ

1 インチ（約 25.4mm）あたりに印刷する行数を選択します。

- 6LPI
- 3LPI
- 8LPI
- フォントサイズ

工場出荷時の設定：**6LPI**

補足

- 「LPI」は Line Per Inch の略で、1 インチあたりの行数を表します。たとえば、「8LPI」に設定すると、1 インチ（約 25.4mm）あたり 8 行印刷することになります。

文字ピッチ

1 インチ（約 25.4mm）あたりに印刷する ANK フォント（英数カナ文字）の文字数を選択します。

- 10CPI
- 12CPI
- 15CPI
- フォントサイズ

工場出荷時の設定：**10CPI**

補足

- 「CPI」は Character Per Inch の略で、1 インチあたりの文字数を表します。たとえば、「10CPI」に設定すると、 1 インチ（約 25.4mm）あたり 10 文字になります。
- 「フォントサイズ」に設定すると、文字ピッチはフォントの文字幅になります。アプリケーションで文字幅を設定できる場合は、アプリケーションの設定が優先されます。

ANK フォント

ANK フォントを設定します。

- クーリエ 10
- プレステージエリート 12
- レターゴシック 15
- ボールドフェイス PS
- ラインプリンタ
- 明朝半角

工場出荷時の設定：**クーリエ 10**

補足

- 「明朝半角」は、全角文字の中の半角文字を使って ANK 文字（アルファベット、数字、カナ）を印刷します。書体は、「明朝」と同じです。

国別指定

ANK フォントの一部は、国によって異なります。どの国のフォントにするかを選択します。

- アメリカ
- イギリス
- ドイツ 1
- ドイツ 2
- フランス
- スウェーデン
- フィンランド
- スイス
- 日本 1
- 日本 2
- 日本 3

工場出荷時の設定：**日本１**

補足

- ANK フォントで「明朝半角」を設定すると「日本１」固定となります。

キャンセルコード

キャンセルコード(CAN 18h)を受信したときの動作を選択します。

- CR

  「CR 機能」「CR,LF,FF 機能」で設定した動作になります。

- クリア

  データがクリアされ、印刷位置がホームポジションに戻ります。

工場出荷時の設定：**CR**

印刷領域

用紙上の印刷領域を選択します。

- 標準

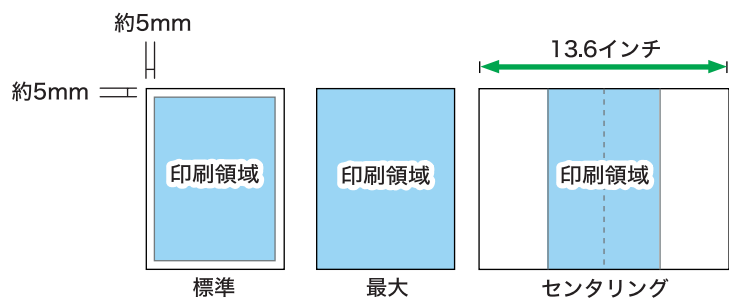
  印刷領域の上下左右に約 5mm ずつの余白ができます。

- 最大

  用紙サイズいっぱいに印刷できますが、上下左右 5mm の領域は正常に印刷できない場合があります。

- センタリング

  用紙の中央に印刷領域を配置します。

工場出荷時の設定：**標準**

リミットレス給紙

印刷中に給紙トレイの用紙がなくなった場合、他の給紙トレイに自動的に切り替えて印刷するかどうかを設定します。

- しない

  トレイは切り替わりません。用紙がなくなったら停止しますので、トレイに用紙を補給してください。

- する

  自動的に同じ条件のトレイに切り替わり、印刷を継続します。ただし、手差しへは切り替わりません。

工場出荷時の設定：**する**

スペーシングユニット

1 ドットの仮想の大きさを選択します。

- H=1/120,V=1/48
- H=1/180,V=1/120
- H=1/160,V=1/120
- H=1/160,V=1/160
- H=1/240,V=1/120
- H=1/240,V=1/240
- H=1/400,V=1/400
- H=1/600,V=1/600

工場出荷時の設定：**H=1/120,V=1/48**

補足

- 「H」は横方向、「V」は縦方向です。単位は dpi です。たとえば、「H=1/180,V=1/120」に設定した場合は、横方向が 180dpi、縦方向が 120dpi になります。
- 実際の印刷では、「エンジン解像度」の設定値に合った値に換算されて印刷されます。

漢字コード

漢字コード「新 JIS」「旧 JIS」「JIS X0213」と「JIS コード」「シフト JIS コード」の組み合わせを設定します。

- 新 JIS/JIS
- 旧 JIS/JIS
- 新 JIS/シフト JIS
- 旧 JIS/シフト JIS

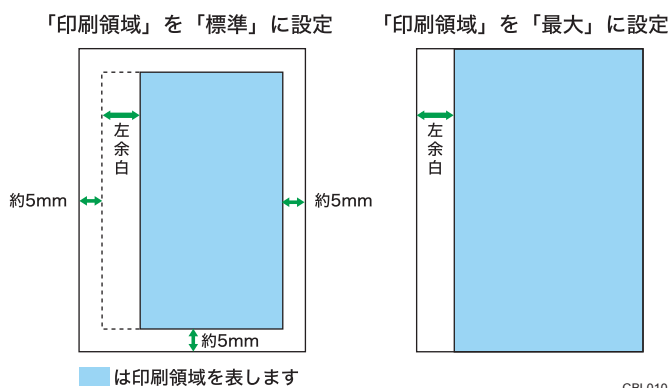
- JIS X0213/JIS
- JIS X0213/シフト JIS

工場出荷時の設定：**新 JIS/JIS**

左余白

用紙の左余白を 0 ～ 50mm の範囲で、1mm 単位で設定できます（工場出荷時は 0mm）。

補足

- 余白は、「印刷領域」で設定されている印字領域の内側に設定されます。したがって、設定した余白の分だけ印字開始位置が右にずれます。ただし、実際の印刷では多少の誤差が生じることがあります。

上余白

用紙の上余白を 0 ～ 50mm の範囲で、1mm 単位で設定できます（工場出荷時は 0mm）。

補足

- 余白は、「印刷領域」で設定されている印字領域の内側に設定されます。したがって、設定した余白の分だけ印字開始位置が下がります。ただし、実際の印刷では多少の誤差が生じることがあります。

変倍率

変倍率を設定して、拡大または縮小して印刷できます。

- 100%（等倍）
- 88%（11×14→B4）
- 80%（B4→A4）
- 75%（B4→A4）

- 70%（11×14→A4）
- 67%（A3→A4）
- 115%（B4→A3）
- 122%（A4→B4）
- 141%（A4→A3）
- 200%（A5→A3）
- 50%（A3→A5）

工場出荷時の設定：**100%（等倍）**

設定した変倍率により、文字ピッチと行ピッチが変更されます。このとき、文字は変倍率に応じた適当なサイズが選択されます。イメージデータは変倍率に応じて変倍されます。したがって、イメージデータと文字データが混在する場合、変倍率を設定するとイメージが多少ずれることがあります。このときのフォントサイズは、変倍率によって異なります。

補足

- アプリケーションで縮小印刷を指定できる場合、この設定が無効になることがあります。
- アプリケーションで縮小が行われている場合、この変倍率の設定によりさらに拡大、縮小されることがあります。アプリケーションで縮小が行われている場合は、本機は等倍で印刷して、印刷結果を確認してください。

半角ピッチ

全角文字に対する半角文字のピッチを設定します。半角文字ピッチの初期値が変わるだけで、全角文字のピッチは変わりません。

- 1/2

  全角 1 文字分が半角 2 文字分になります。
- 2/3

  全角 2 文字分が半角 3 文字分になります。

工場出荷時の設定：**1/2**

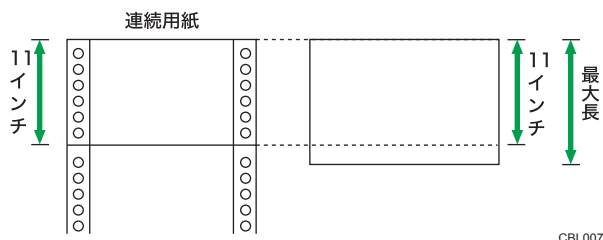
ページ長

ページの長さを設定します。ページ長は、実際の用紙の 1 ページの長さではなく、用紙の印刷可能領域に印刷するデータの長さです。設定したページ長まで印刷されると、排紙されます。

- 11 インチ

  連続用紙（帳票）に印刷する場合と同じ形式で印刷できます。

- 最大長
  印刷可能領域とページ長が同じになります。

工場出荷時の設定：**11 インチ**

補足

- 「11 インチ」の設定は、次の用紙サイズ、印刷方向、変倍率の場合だけに有効です。この条件に合わない場合は、「最大長」に設定したときと同じ動作をします。

用紙サイズ	印刷方向	変倍率
A3	ヨコ	100%
A4	タテ	100%
B4	ヨコ	88%
B5	タテ	88%
A4	ヨコ	70%
A5	タテ	70%

イメージ濃度

イメージデータの印刷濃度を設定します。変倍して印刷したときに、ここでの設定が有効になります。

- うすく
- 中間
- こく

工場出荷時の設定：**うすく**

補足

- 中間に設定した場合は、イメージデータの横方向が濃いめに、縦方向が薄めに印刷されます。
- 簡易グラフィックスの 1 ドットラインは、「こく」「中間」に設定すると太めに印刷されます。

漢字フォント

漢字フォントの書体と大きさを設定します。ソフトウェアによっては、漢字フォントの設定は無効となります。

漢字の書体のみ選択できます。

- 明朝
- ゴシック

工場出荷時の設定：**明朝**

ANK サイズ

ANK フォントの縦方向のサイズを 600 〜 2100 センチポイントの範囲で、10 センチポイント単位で設定できます（工場出荷時は 1200 センチポイント）。

漢字サイズ

漢字フォントの縦方向のサイズを 600 〜 1800 センチポイントの範囲で、10 センチポイント単位で設定できます（工場出荷時は 960 センチポイント）。

補足

- 1 センチポイントは 1/7200 インチです。

グラフィックスユニット

イメージ印刷のドットの単位、および簡易グラフィックスの単位を設定します。たとえば、「1/240 インチ」に設定すると、簡易グラフィックスの 1 ドットは 1/240 インチ（1 インチ＝約 25.4mm）になります。

- 1/400 インチ
- 1/240 インチ
- 1/600 インチ

工場出荷時の設定：**1/240 インチ**

文字ストリング

文字ストリングコマンドを受信した後に受信する文字コードを 16 進コードとして解釈するかどうかを設定します。16 進コードを送信できないときに有効な手段となります。

- する

  文字形式の制御コマンドが有効になります。
- しない

通常の文字列として扱われます。

工場出荷時の設定：**しない**

外字文字数

本機に登録できる外字フォントの文字数を設定します。外字は、外字フォントの登録コマンドで登録可能です。

- 256 文字
- 512 文字
- 768 文字
- 1,034 文字

工場出荷時の設定：**256 文字**

印字モード

印字モードでは、スムージング機能を使用するかどうか、また、トナーをセーブして印刷するかどうかの設定を行います。 スムージング機能とは、文字や図形の輪郭を自動的になめらかにして印刷する機能です。この機能を有効にすることで、本機の解像度を越えた高品質な印刷ができます。

- トナーセーブモード 2

  トナーを節約するときに選択します。薄めに印刷されます。
- スムージングオン
- トナーセーブモード 1

  トナーを節約するときに選択します。薄めに印刷されます。
- スムージングオフ

  写真やハーフトーンのデータを印刷するときに選択します。

工場出荷時の設定：**スムージングオン**

補足

- トナーセーブモード 1 とトナーセーブモード 2 は、どちらを選択しても同じ動作になります。
- トナーセーブモード 1 またはトナーセーブモード 2 を選択した場合、細い線が消える、網掛けパターンが出ない、網掛けパターンの濃淡の差がはっきりしなくなるなどの現象が起こることがあります。

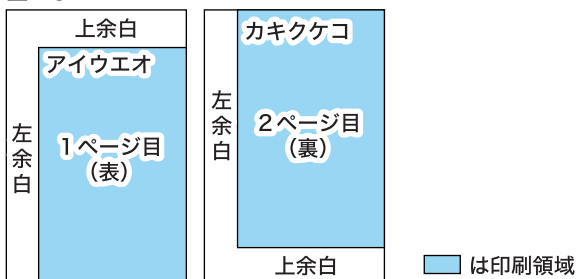
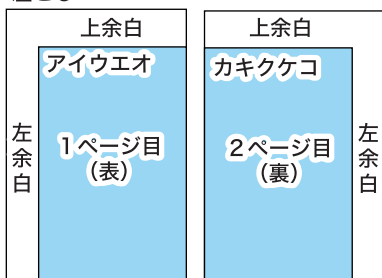
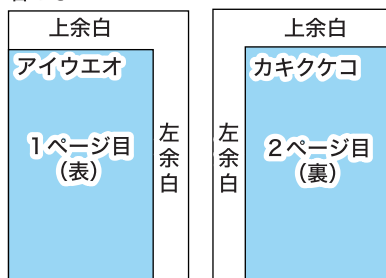
両面とじ方向

両面印刷時のとじ代の位置を選択します。「上とじ」は「上余白」、「左とじ」と「右とじ」は「左余白」で設定した値が、とじ代の幅になります。

- 上とじ
- 左とじ
- 右とじ

工場出荷時の設定：**左とじ**

上とじ

は印刷領域

左とじ

右とじ

CDC900

エンジン解像度

本機内部での実際の解像度を設定します。

- 400dpi
- 600dpi

工場出荷時の設定：**600dpi**

補足

- 「dpi」は Dot Per Inch の略で、1 インチあたりの描画ドット数を表します。たとえば、「600dpi」の設定では、1 インチ（約 25.4mm）あたり 600 個の点で描画することになります。

両面印刷

両面印刷するかどうかを設定します。

- しない
- する

工場出荷時の設定：**しない**

印刷条件リストを印刷する

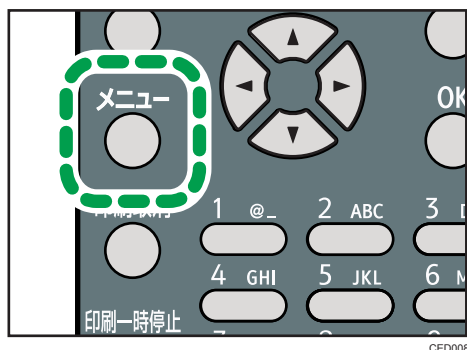
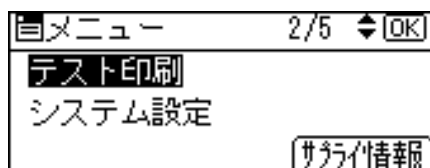
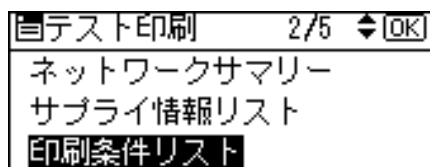
現在設定されている印刷条件の一覧を印刷して確認できます。

エミュレーションが RPDL になっていることを確認してから、操作してください。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

CED008

2. ［▼］［▲］キーを押して［テスト印刷］を選択し、［OK］キーを押します。

メニュー 2/5 OK
テスト印刷
システム設定
サプライ情報

3. ［▼］［▲］キーを押して［印刷条件リスト］を選択し、［OK］キーを押します。

4. 初期画面に戻るまで［メニュー］キーを押します。

- 印刷条件リストを印刷するときは、A4 サイズの用紙を選択することをお勧めします。

4

印刷条件リストの見かた

ご使用のプリンターの設定や状態により、ここに示す例と異なる結果が出る場合があります。

RPDLⅣ印刷条件一覧

システム構成

バージョン	RPDLⅣ		システム			
メモリ	トータル	262144KB	フリー	19664KB	受信バッファ	128KB
特殊印刷	しない					
紙サイズ	トレイ1	A4R	手差し	A4R		

印刷条件

1．給紙トレイ	システム　デフォルト	L．上余白	0 mm
2．印刷方向	単票　縦	M．変倍率	100%
3．CR，LF，FF機能	CR, LF・FF+CR	O．半角ピッチ	1/2
4．自動改行	しない	Q．ページ長	11インチ
5．行ピッチ	6LPI	R．イメージ濃度	うすく
6．文字ピッチ	10CPI	T．漢字フォント	明朝
7．ANKフォント	クーリエ　10	U．ANKサイズ	1200　センチポイント
89. 国別指定	日本1	V．漢字サイズ	960　センチポイント
A．キャンセルコード	CR	W．ｸﾞﾗﾌｨｯｸｽﾕﾆｯﾄ	1/240インチ
B．印刷領域	標準	Y．文字ストリング	しない
D．リミットレス給紙	する	Z．外字文字数	256文字
I．スペーシングユニット	1/120, 1/48	A02. 印字モード	スムージング　オン
J．漢字コード	新JIS／JISコード	A04. エンジン解像度	600dpi
K．左余白	0 mm		

プログラムキー登録状況

NO. 1	未登録	NO. 5	未登録	NO. 9	未登録	NO. 13	未登録
NO. 2	未登録	NO. 6	未登録	NO. 10	未登録	NO. 14	未登録
NO. 3	未登録	NO. 7	未登録	NO. 11	未登録	NO. 15	未登録
NO. 4	未登録	NO. 8	未登録	NO. 12	未登録	NO. 16	未登録

アサイン　フォント

(0)	COURIER 10	ABCDEFGHIJKLMNOPQRST
(1)	COURIER 10	ABCDEFGHIJKLMNOPQRST
(2)	PRESTIGE ELITE 12	ABCDEFGHIJKLMNOPQRST
(3)	LETTER GOTHIC 15	ABCDEFGHIJKLMNOPQRST
(4)	BOLD FACE PS	ABCDEFGHIJKLMNOPQRST
(5)	CHUMINCYO	ABCDEFGHIJKLMNOPQRST

エラー履歴

エラーなし。

1. **システム構成**

   プリンター内部の情報です。バージョン、メモリー、システム、受信バッファ、特殊印刷、給紙トレイにセットされている用紙サイズが印刷されます。

2. **印刷条件**

   印刷条件の各設定項目に設定されている値が印刷されます。

3. プログラムキー登録状況

プログラムの登録状況が印刷されます。

4. アサインフォント

使用できるフォントの一覧です。

5. エラー履歴

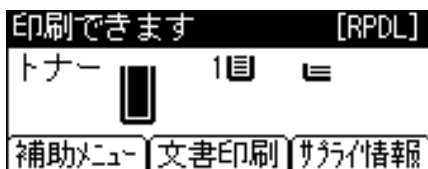
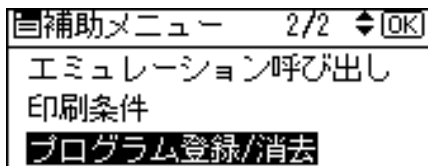
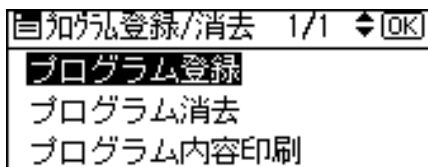
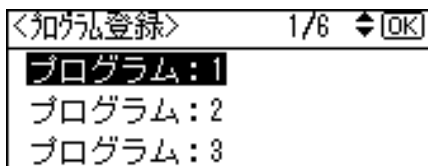
エラーの有無が表示されます。

よく使う印刷条件を登録する

プログラムを登録する

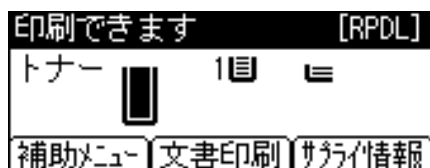
プリンターで設定したエミュレーションモードや印刷条件は、電源を切ったり、エミュレーションを切り替えるとすべて工場出荷時の設定に戻ります。毎回設定し直さなくてもよいように、印刷条件をプログラムとしてプリンターに記憶させることができます。これをプログラム登録といいます。プログラムは16個まで登録でき、電源を切っても保存されます。

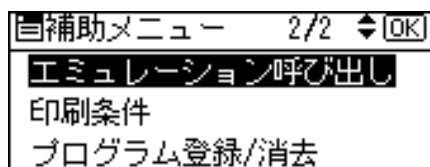
4

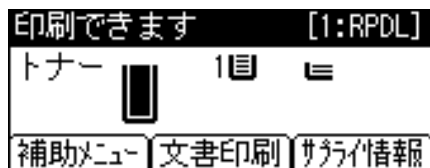
1. 必要な印刷条件を設定します。
2. ［補助メニュー］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［プログラム登録/消去］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して［プログラム登録］を選択し、［OK］キーを押します。

5. ［▼］［▲］キーを押して登録先のプログラム番号を選択し、［OK］キーを押します。

6. 初期画面に戻るまで［メニュー］キーを押します。

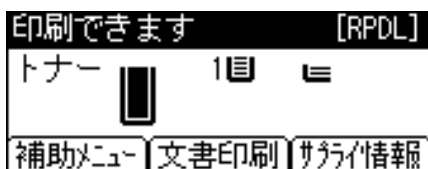
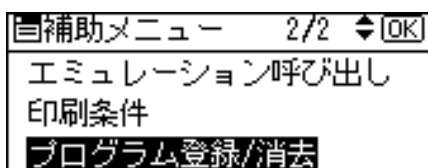
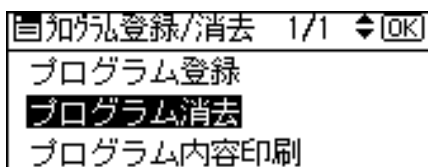
参照

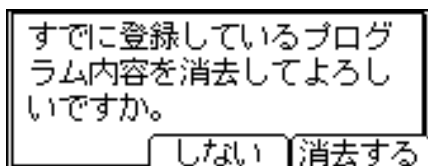
- すでに登録してあるプログラムを利用して、少し異なるプログラムを登録することもできます。元になるプログラムを呼び出し、印刷条件を設定し直してプログラムを登録します。プログラムを呼び出す方法については、P.121「プログラムを呼び出す」を参照してください。
- 印刷条件の設定方法については、P.102「印刷条件を設定する」を参照してください。
- 印刷条件の設定項目については、P.117「印刷条件リストを印刷する」を参照してください。

プログラムを呼び出す

1. ［補助メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［エミュレーション呼び出し］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して目的のプログラムを選択し、［OK］キーを押します。

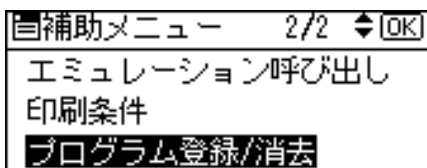
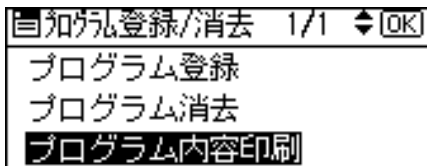
プログラムが呼び出され、プログラム番号が画面に表示されます。

プログラムを削除する

1. ［補助メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［プログラム登録/消去］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［プログラム消去］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して削除するプログラムを選択し、［OK］キーを押します。

5. ［消去する］キーを押します。

6. 初期画面に戻るまで［メニュー］キーを押します。

プログラム内容を印刷する

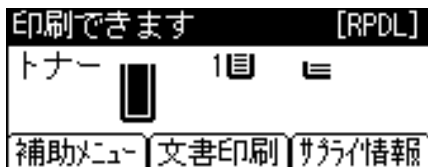
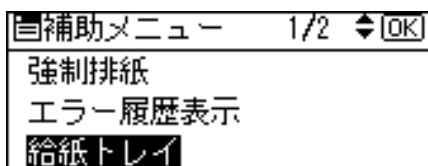
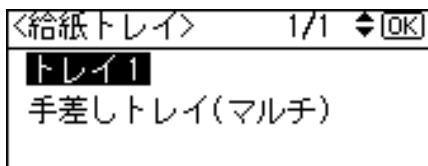
1. ［補助メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［プログラム登録/消去］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［プログラム内容印刷］を選択し、［OK］キーを押します。

4. 初期画面に戻るまで［メニュー］キーを押します。

補足

- プログラムが 1 つも登録されていない場合は、印刷されません。

給紙トレイを選択する

1. エミュレーションを RPDL に切り替えます。
2. ［補助メニュー］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［給紙トレイ］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して選択するトレイを選択し、［OK］キーを押します。

5. 初期画面に戻るまで［メニュー］キーを押します。

5. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目について説明します。

［メニュー］キー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

メモリー内残存データ状態確認

メモリー内のデータ状態を確認します。詳細は P.132「メモリー内残存データ状態確認メニュー」を参照してください。

メモリー内残存データ状態確認を画面に表示するには、以下の条件が必要です。

- 拡張 HDD および拡張 HDD に付属の SD カードが装着されている
- セキュリティー管理メニューでメモリー自動消去設定が［する］に設定されている

用紙設定

設定項目
用紙サイズ設定：手差しトレイ
用紙サイズ設定：トレイ 1
用紙サイズ設定：トレイ 2
用紙サイズ設定：トレイ 3
用紙種類設定：手差しトレイ
用紙種類設定：トレイ 1
用紙種類設定：トレイ 2
用紙種類設定：トレイ 3
両面印刷トレイ
自動トレイ選択
優先給紙トレイ

補足

- 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

参照

- P.133「用紙設定メニュー」

調整/管理

設定項目
品質調整
一般管理
時刻タイマー設定
ハードディスク管理
機器設定値エクスポート

補足

- ［ハードディスク管理］は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。

参照

- P.137「調整/管理メニュー」

テスト印刷

設定項目
一括リスト印刷
システム設定リスト
エラー履歴
ネットワークサマリー
サプライ情報リスト
印刷条件リスト
メニューリスト
登録フォームリスト
全文字印刷
フォントリスト
PCL 情報リスト
PS 情報リスト
PDF 情報リスト
ヘキサダンプ

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されない項目があります。

参照

• P.143「テスト印刷メニュー」

システム設定

設定項目
エラーレポート印刷
エラースキップ
画像エラー処理
エラー表示設定
補助用紙サイズ
オートオフ時間設定
オートオフスケジューラー
明るさ検知オートオフ
最大消費電力低減
エミュレーション検知
圧縮データの解凍印刷
優先エミュレーション/プログラム
優先メモリー
スプール印刷
RAM ディスク
自動メール通知

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されない項目があります。
- ［スプール印刷］は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。
- ［RAM ディスク］は、拡張 HDD を装着していないときに表示されます。

参照

• P.148「システム設定メニュー」

印刷設定

設定項目
一般設定
システム設定（EM）
PCL 設定

設定項目
PS 設定
PDF 設定

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されない項目があります。

参照

- P.156「印刷設定メニュー」

セキュリティー管理

設定項目
拡張認証管理
セキュリティー強化
サービスモード移行禁止設定
ファームウェアバージョン表示
ネットワークセキュリティーレベル
メモリー自動消去設定
メモリー全消去
ログ転送設定
機器データ暗号化設定

補足

- ［サービスモード移行禁止設定］は、機器管理者としてログインしているときのみ表示されます。
- ［メモリー自動消去設定］と［メモリー全消去］は、拡張 HDD および拡張 HDD に付属の SD カードを装着しているときに表示されます。
- ［機器データ暗号化設定］は、拡張 HDD および拡張 HDD に付属の SD カードを装着し、機器管理者でログインしたときに表示されます。
- ［拡張認証管理］は、個人認証システムを装着しているときに表示されます。

参照

- P.167「セキュリティー管理メニュー」

インターフェース設定

設定項目
受信バッファ

設定項目
インターフェース切り替え時間
ネットワーク設定
パラレルインターフェース設定
無線 LAN
USB 設定

補足

- 無線 LAN は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。
- パラレルインターフェース設定は、拡張 1284 ボードを装着しているときに表示されます。

参照

- P.173「インターフェース設定メニュー」

シャットダウン

本機の電源スイッチを切るための準備をします。HDD やメモリーが破損し、誤作動を起こすのを避けるため、操作部からシャットダウンを行った後に電源スイッチを切ってください。

補足

- シャットダウンの方法は、『ハードウェアガイド』「電源を切る」を参照してください。

表示言語切替

設定項目
日本語
English

補足

- RPDL、R55、R98、R16、RTIFF は英語表示には対応しておりません。

本機での設定内容を他のプリンターで使う

機器設定値エクスポート機能とは

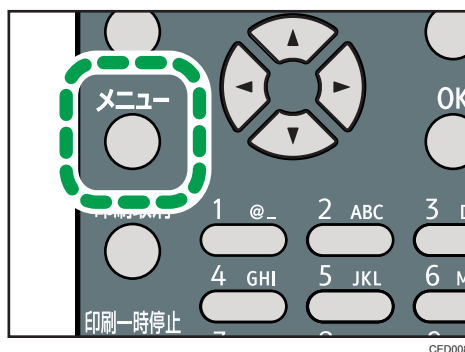
本体操作部を使って設定した内容をSDカードに保存し、同じ機種や他の弊社製プリンターに設定内容を引き継がせることができます。引き継ぎができる設定内容は、下記のとおりです。

- ［システム設定］の各項目
- ［印刷設定］の各項目
- ［インターフェース設定］の［ネットワーク設定］(本体IPv4アドレスのみ)
- ［インターフェース設定］の［USB設定］(USBポート固定のみ)

設定内容をSDカードに保存する

1. **本機の電源が入っていないことを確認します。**
2. **本機の拡張SDカード用スロットにSDカードを取り付けます。**

   取り付け方法は『ハードウェアガイド』「拡張SDカードを取り付ける」を参照してください。
3. **本機の電源を入れます。**
4. **操作部の［メニュー］キーを押します。**

CED008

5. **［▼］［▲］キーを押して［調整/管理］を選択し、［OK］キーを押します。**
6. **［▼］［▲］キーを押して［機器設定値エクスポート］を選択し、［OK］キーを押します。**
7. **確認のメッセージが表示されたら、［エクスポート］を押します。**
8. **保存成功のメッセージが表示されていることを確認し、［確認］を押します。**

9. 本機の電源を切り、設定内容を保存した SD カードを取り外します。

SD カードに保存した設定内容を他のプリンターにコピーする

1. 設定を引き継ぐプリンターの電源が入っていないことを確認します。
2. 拡張 SD カード用スロットに設定内容を保存した SD カードを取り付けます。

   SD カードの取り付け方法や SD カードスロットの位置は、お使いの機種によって異なります。

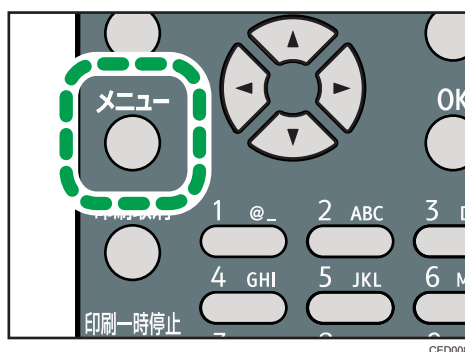
3. 操作部の［ジョブリセット］キーを押し、押したままの状態で電源を入れます。
4. 確認のメッセージが表示されたら、［インポート］を押します。
5. インポート完了のメッセージが表示されたら、プリンターの電源を切ります。
6. SD カードを取り外します。
7. プリンターの電源を入れます。
8. 設定内容が引き継がれていることを確認し、必要に応じて設定内容を変更します。

メモリー内残存データ状態確認メニュー

本機能を画面に表示するには、以下の条件が必要です。

- 拡張 HDD および拡張 HDD に付属の SD カードが装着されている
- セキュリティー管理メニューでメモリー自動消去設定が［する］に設定されている

メモリー内のデータ状態を確認する

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［メモリー内残存データ状態確認］を選択し、［OK］キーを押します。
3. メモリー内にデータが残っている場合は「消去対象残存データあり」、データが残っていない場合は「消去対象残存データなし」と表示されます。
4. ［メニュー］キーを押します。

用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

- **「用紙サイズ設定」と「用紙種類設定」は、本機に装着されているトレイのみ画面に表示されます。**

用紙サイズ設定：手差しトレイ

手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。

工場出荷時の設定：**A4▯**

用紙サイズ設定：トレイ 1～3

トレイ 1～3 にセットする用紙サイズを設定します。

工場出荷時の設定：**A4▯**

用紙種類設定：手差しトレイ

手差しトレイにセットする用紙の種類を設定します。

工場出荷時の設定：**表示しない（普通紙）**

用紙種類設定：トレイ 1～3

トレイ 1～3 にセットする用紙の種類を設定します。

工場出荷時の設定：**表示しない（普通紙）**

両面印刷トレイ

[対象にする］を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。

- トレイ 1～3、手差しトレイ
    - 対象にする
    - 対象にしない

  工場出荷時の設定：**対象にする**

自動トレイ選択

[対象にする］を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。

- トレイ 1～3、手差しトレイ

- 対象にする
- 対象にしない

工場出荷時の設定：**対象にする**

優先給紙トレイ

「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択や拡張リミットレス給紙機能を有効にしたときに一番最初に対象となるトレイです。

- トレイ 1
- トレイ 2
- トレイ 3
- 手差しトレイ

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

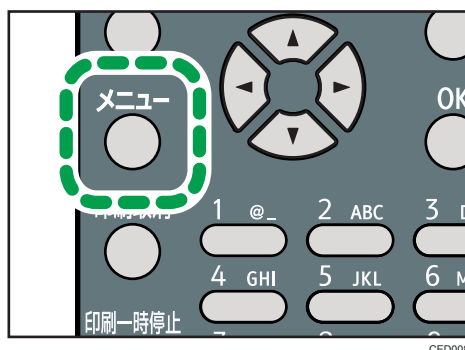
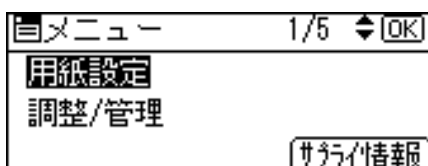
補足

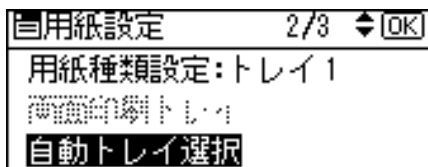
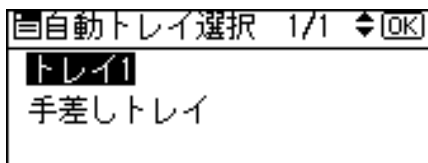
- 設定できる用紙サイズおよび用紙種類については、『ハードウェアガイド』「使用できる用紙の種類とサイズ」を参照してください。

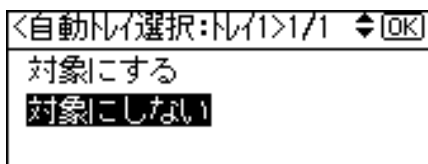
用紙設定メニューの設定を変更する

自動トレイ選択の対象から特定トレイを外す

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

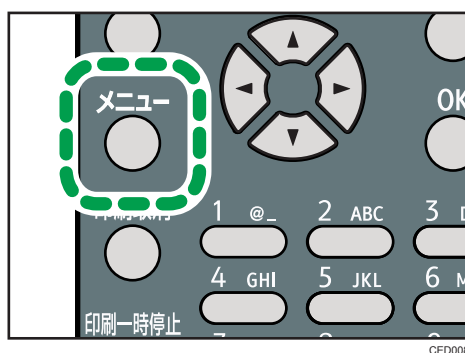
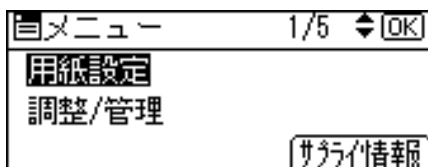
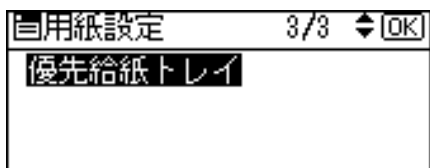
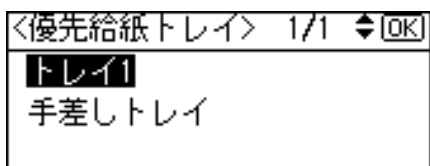
CED008

2. ［▼］［▲］キーを押して［用紙設定］を選択し、［OK］キーを押します。

3. [▼] [▲] キーを押して [自動トレイ選択] を選択し、[OK] キーを押します。

用紙設定 2/3 OK
用紙種類設定:トレイ 1
自動トレイ選択

4. [▼] [▲] キーを押して自動トレイ選択の対象としないトレイを選択し、[OK] キーを押します。

5. [▼] [▲] キーを押して [対象にしない] を選択し、[OK] キーを押します。

<自動トレイ選択:トレイ1>1/1 OK
対象にする
対象にしない

6. [メニュー] キーを押します。

優先給紙トレイを設定する

1. 操作部の [メニュー] キーを押します。

CED008

2. [▼] [▲] キーを押して [用紙設定] を選択し、[OK] キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［優先給紙トレイ］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して目的のトレイを選択し、［OK］キーを押します。

5. ［メニュー］キーを押します。

調整/管理メニュー

調整/管理メニューでは、階調や濃度など印刷時の設定調整や、HDD のフォーマットなど本機の管理についての設定ができます。

調整/管理メニューの設定項目

品質調整

濃度調整

印刷面にかすれや汚れが出たときなどに印刷濃度を調整します。濃度調整の手順については、『ハードウェアガイド』「印刷濃度を調整する」を参照してください。

−6 から+3 の範囲で設定できますが、できるだけ工場出荷時の設定でお使いください。

工場出荷時の設定：**0**

印刷位置調整

トレイごとの印刷位置をあわせるために印刷位置を調整することができます。通常は特に設定する必要はありませんが、オプションの増設給紙トレイを取り付けたときに調整します。印刷位置の調整方法については、『ハードウェアガイド』「印刷位置を調整する」を参照してください。

カール低減

印刷後の用紙の反りを減らしたいときに設定します。設定の手順については、『ハードウェアガイド』「用紙の反りを低減する」を参照してください。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

一般管理

サプライ残量表示

待機画面に、トナー残量を表示させるかさせないかを選択します。

- 待機画面に表示する
- 表示しない

工場出荷時の設定：**待機画面に表示する**

メニュープロテクト

メニュープロテクトをするかしないかを設定できます。する場合はそのレベルを選択します。プロテクトの強さを弱めたい場合は、［レベル 1］を選択します。

機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。

- レベル 1
- レベル 2
- しない

工場出荷時の設定：**レベル 2**

テスト印刷禁止

テスト印刷を禁止するかしないかを設定できます。

機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

ブザー音

パネルのキーを押したときやプリンターに異状が発生した場合に、音を出すか出さないかを選択します。

- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**ON**

ウォームアップ通知音

ウォームアップを音で知らせるかどうかを選択します。

［ブザー音］の設定が［ON］の場合にのみ有効です。

- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**OFF**

画面コントラスト調整

画面のコントラストを 7 段階に調整できます。

キーリピート設定

スクロールキーの長押しで、画面のスクロール、数値を入力するときの数値の増減、文字を選択するときの左右の移動をさせるかさせないかの設定をします。また、させる場合はその長押しの時間を設定できます。

- リピートしない
- 通常
- リピート時間：中
- リピート時間：長

工場出荷時の設定：**通常**

優先機能設定

本機の電源を入れた直後やオートオフモードから復帰したときに、優先的に使用する機能を設定します。

［機能切替］キーを押したときに表示される順番で、各機能が拡張機能 1～3 に割り当てられます。

- プリンター
- 拡張機能 1
- 拡張機能 2
- 拡張機能 3

工場出荷時の設定：**プリンター**

時刻タイマー設定

オートリセット時間設定

一定時間操作をしないとき自動的に初期画面へ戻るまでの時間を設定します。この機能が働くのは次のような場合です。

- 通常のメニュー操作時
- 認証に関する警告画面の表示時

［印刷停止/再開］キーを押してジョブを一時停止させた場合は、ここで設定した時間が経過すると、自動的に印刷を再開します。

- する

  オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を 10～999 秒（1 秒単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **60 秒**に設定されています。

- しない

工場出荷時の設定：**する**

年月日設定

年月日を設定します。

時刻設定

時刻を設定します。

ハードディスク管理

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

一時置き文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書（試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書）をすべて消去します。

保存文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている保存文書をすべて消去します。

一時置き文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書（試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書）を自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

- する

  自動消去する場合は、自動消去する時間を 1～200 時間（1 時間単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **8 時間**に設定されています。

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

保存文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている保存文書を自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

- する

  自動消去する場合は、自動消去する時間を 1～180 日（1 日単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **3 日間**に設定されています。

- しない

工場出荷時の設定：**する**

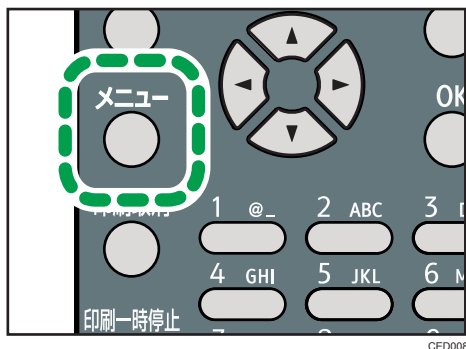
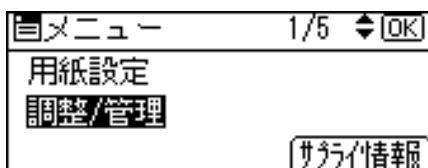
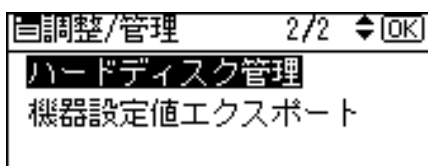
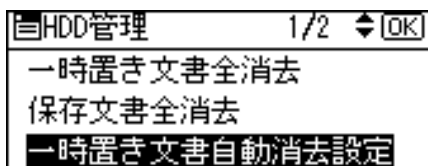
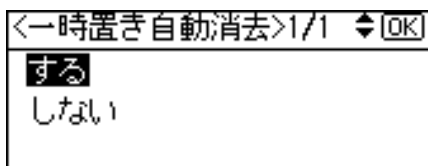
機器設定値エクスポート

SD カードに本機の設定内容を保存します。保存した内容は、本機や他の弊社製プリンター機に設定を引き継ぐことができます。詳細は P.130「本機での設定内容を他のプリンターで使う」を参照してください。

調整/管理メニューの設定を変更する

調整/管理メニュー「一時置き文書自動消去設定」を例に説明します。

一時置き文書自動消去設定を変更する

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［調整/管理］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［ハードディスク管理］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して［一時置き文書自動消去設定］を選択し、［OK］キーを押します。

5. ［▼］［▲］キーを押して［する］を選択し、［OK］キーを押します。

6. [▼] [▲] キーを押して自動消去するまでの時間を設定し、[OK] キーを押します。

7. [メニュー] キーを押します。

テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。

また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

テスト印刷メニューの項目

一括リスト印刷

システム設定リストとエラー履歴、ネットワークサマリー、サプライ情報リストが印刷されます。

選択されているすべてのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

システム設定リスト

本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。

選択されているすべてのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

詳細は P.146「システム設定リストの見かた」を参照してください。

エラー履歴

エラーになったジョブの履歴が印刷されます。

選択されているすべてのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

ネットワークサマリー

ネットワークの設定内容が印刷されます。

サプライ情報リスト

サプライ情報が印刷されます。

印刷条件リスト

印刷条件の設定内容が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、RTIFF、R98、R55、R16 が対象となります。

メニューリスト

設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。

選択されているすべてのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

登録フォームリスト

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

登録されているフォームの一覧が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、R55 が対象となります。

全文字印刷

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できるすべての文字が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、R98、R55、R16 が対象となります。

フォントリスト

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できるフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの RPDL、R98、R55、R16 が対象となります。

PCL 情報リスト

PCL カードが装着されているときのメニュー項目です。PCL のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの PCL、PCLXL が対象となります。詳細は『PCL 編』を参照してください。

PS 情報リスト

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳細は『PostScript 3 編』を参照してください。

PDF 情報リスト

PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときのメニュー項目です。PDF の情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの PDF が対象となります。

ヘキサダンプ

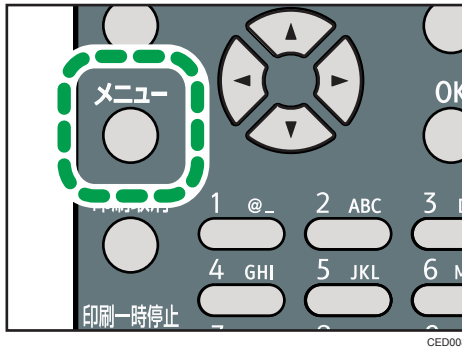
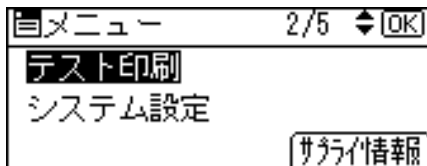
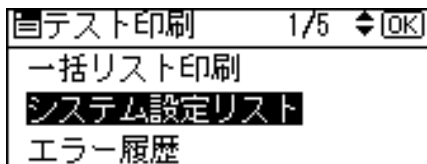
印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。

選択されているすべてのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

テスト印刷をする

ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法は他のリストを印刷する場合も同じです。

システム設定リストを印刷する

1. ［メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［テスト印刷］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［システム設定リスト］を選択し、［OK］キーを押します。

4. 印刷終了後、［メニュー］キーを押します。

- システム設定リストは A4 または Letter（8 $^{1}/_{2}$” ×11”）で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイに A4 または Letter（8 $^{1}/_{2}$” ×11”）の用紙をセットしてください。

5

システム設定リストの見かた

システム設定リスト

■システム構成情報 [illegible]年[illegible]月[illegible]日 [illegible]時[illegible]分[illegible]秒

機番	[illegible]	搭載メモリ	256 MB
トータルカウンター	39		
ファームウェアバージョン	[illegible]		
接続デバイス	ハードディスク		
HDD：フォント/マクロ	空き容量 2043550 KB , 最大容量 2043886 KB		
搭載エミュレーション	R98 [5.22c], R16 [5.24b], R55 [5.22b], RTIFF [12.09.16], RPDL [7.39a], BMLinkS [1.09.04], Adobe PostScript 3 [0.03], Adobe PDF [0.03], RPCS [3.10.17], PCL 5e Emulation [0.05], PCL XL Emulation [0.05], MSIS [7.50.06], KAN-G [1.03.00]		
接続機器	−		

■用紙設定

優先給紙トレイ	手差しトレイ
手差しトレイ	A4R 210.0 x 297.0mm 普通紙
トレイ1	A4R 210.0 x 297.0mm 普通紙 自動トレイ選択対象外

■調整/管理

濃度調整	0	印刷位置調整−ヨコ：トレイ1	0.0
印刷位置調整−ヨコ：手差しトレイ	0.0	印刷位置調整−タテ：標準装備給紙トレイ	0.0
印刷位置調整−タテ：手差しトレイ	0.0	カール低減	しない
サプライ残量表示	待機画面に表示する	ブザー音	*OFF
ウォームアップ通知音	OFF	画面コントラスト調整	4
キーリピート設定	通常	優先機能設定	プリンター
オートリセット時間設定	する	リセットまでの時間	60
一時置き文書自動消去設定	しない	消去までの時間	8
保存文書自動消去設定	する	消去までの日数	3

＊マークは設定値が初期値と異なる項目です。

■システム設定

エラーレポート印刷	しない	エラースキップ	しない
画像エラー処理	印刷取消	エラー表示設定	すべて表示
補助用紙サイズ	しない	オートオフ設定	移行する
オートオフ時間	1分	オートオフスケジューラー	使用しない
明るさ検知オートオフ設定	無効	明るさ検知ｵｰﾄｵﾌ移行時間	30分
センサー感度	レベル3(暗い)	最大消費電力低減	しない
エミュレーション検知	する	圧縮ﾃﾞｰﾀの解凍印刷	しない
優先ｴﾐｭﾚｰｼｮﾝ/ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	RPCS	優先メモリー	ページメモリー
スプール印刷	しない	自動メール通知	する

■一般設定

印刷枚数	1	180度回転	しない
スムージング	する	トナーセーブ	しない
レターヘッド紙使用設定	使用する(自動判定)	手差しトレイ	ドライバー/コマンド優先
トレイ1	機器側設定優先	トレイ指定時動作切り替え	しない
拡張リミットレス給紙	しない		

■EM設定

白紙排紙	しない	用紙なしエラー	印刷実行時
自動排紙時間	自動排紙しない	マクロキャッシュ	マクロ無し

■登録プログラム一覧

プログラム番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
エミュレーション名	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

■PCL設定

用紙サイズ	A4	最大領域印刷	しない
印刷方向	タテ	行数	64
フォントソース	内蔵メモリー	フォント番号	0
ポイントサイズ	12.00	フォントピッチ	10.00
シンボルセット	PC-8	クーリエフォント	レギュラー
A4サイズ最大幅印刷	しない	LF設定	LF=LF
解像度	600dpi	白紙排紙	する

■PS設定

ジョブタイムアウト	*機器側設定優先	ジョブタイムアウト時間(秒)	0
ウェイトタイムアウト	*機器側設定優先	ウェイトタイムアウト時間(秒)	300
白紙排紙	する	データ形式	バイナリデータ
解像度	600dpi(2階調)	最大領域印刷	しない
印刷方向自動検知	する		

■PDF設定

白紙排紙	する	最終ページから印刷	しない
解像度	600dpi(2階調)	最大領域印刷	しない
印刷方向自動検知	する		

■インターフェース設定

受信バッファ	128KB	I/F切り替え時間	15秒
DHCP	Off	IPv4アドレス	[illegible]
サブネットマスク	255.255.255. 0	IPv4ｹﾞｰﾄｳｪｲｱﾄﾞﾚｽ	[illegible]
IPv6ステートレス設定	有効	IPsec	無効
IPv4	有効	IPv6	無効
SMB	有効	AppleTalk	有効
イーサネット速度	自動選択	イーサネット用IEEE 802.1X認証	無効
SSL/TLS通信許可設定	暗号文優先	USB速度	自動設定

■インターフェース情報

物理アドレス	[illegible]	ホスト名	[illegible]
ワークグループ名(SMB)	WORKGROUP	ネットワークパス名(SMB)	[illegible]
無効インターフェース	なし		

■ユーザー用紙種類

1: +ハガキ	普通紙	2: +Custom 2	普通紙
3: +Custom 3	普通紙	4: +Custom 4	普通紙
5: +Custom 5	普通紙	6: +Custom 6	普通紙
7: +Custom 7	普通紙	8: +Custom 8	普通紙

CED511

1. システム構成情報

本機のカウンター情報やバージョン情報、オプションの装着状況、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。

2. 用紙設定

現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。

3. 調整／管理

濃度調整や印刷位置設定など、調整／管理メニューの設定項目が印刷されます。

4. システム設定

システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

5. 一般設定

一般設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

6. EM 設定

エミュレーションカードが装着されているときの項目と設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

7. 登録プログラム一覧

登録されているプログラムのエミュレーションが印刷されます。

8. PCL 設定

PCL カードが装着されているときの項目と設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

9. PS 設定

PS3 カードが装着されているときの項目と設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

10. PDF 設定

PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときの設定値です。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

11. インターフェース設定

インターフェース設定の項目と設定値です。

12. インターフェース情報

動作モードやプリンター名など、インターフェース設定の情報です。

13. ユーザー用紙種類

ユーザー用紙種類に登録されている用紙名称と用紙種類が印刷されます。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上で基本的な動作に関わる設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

システム設定メニューの設定項目

エラーレポート印刷

エミュレーションが RPCS、PS3、PDF または PCLXL のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

エラースキップ

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

- しない

  プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。

- 即時

  用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。

- 1 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。

- 5 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。

- 10 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。

- 15 分

  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

工場出荷時の設定：**しない**

画像エラー処理

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

- 印刷取り消し

  エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。

- エラーシート印刷

  エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大16ページ分印刷します。

工場出荷時の設定：**印刷取り消し**

エラー表示設定

プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定できます。

- 簡易表示
- すべて表示

工場出荷時の設定：**すべて表示**

補助用紙サイズ

指定した用紙サイズが給紙トレイにない場合に、用紙サイズの切り替えをするかどうかを設定します。

本機能はA4、Letter（8 1/2" × 11"）間の用紙サイズ切り替えのみに対応しています。

切り替えを行った場合、A4とLetter（8 1/2" × 11"）では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れたり、正常に印刷されなかったりします。

- 自動
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

オートオフ時間設定

オートオフとは、本機の消費電力を節約する機能です。

- オートオフ設定

  オートオフモードに移行するかしないかを選択できます。

  - 移行する
  - 移行しない

  工場出荷時の設定：**移行する**

- オートオフ時間

オートオフモードへの移行時間を設定します。移行時間の間に本機を使用しないと、オートオフモードに切り替わります。オートオフモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。

- 1 分
- 5 分
- 15 分
- 30 分
- 45 分
- 60 分

工場出荷時の設定：**1 分**

オートオフスケジューラー

オートオフモードに移行するタイミングを時刻や曜日で指定できます。

オートオフモードの移行開始/終了の時刻は、1 日のうち 2 回指定できます。昼休みや夜間など、本機を使用しない時間帯を指定することで、定期的に消費電力を節約できます。

この機能でオートオフモードに移行後は、印刷ジョブを送った場合、印刷の終了後にオートオフモードに戻ります。またキーの入力が行われた場合、操作の終了後 1 分でオートオフモードに戻ります。

この機能の有効/無効は、Web Image Monitor からも指定できます。詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

- 毎日同時刻（Web 設定時刻）

  曜日を問わず、オートオフモードに移行する時刻を指定します。時刻の指定は Web Image Monitor で行います。詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

- 曜日ごと（Web 設定時刻）

  曜日ごとに、オートオフモードに移行する時刻を指定します。曜日と時刻の指定は Web Image Monitor で行います。詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用しない**

明るさ検知オートオフ

室内が暗くなったのを検知して、自動的にオートオフモードに移行します。

- 明るさ検知オートオフ設定

  明るさ検知オートオフを有効にするか、無効にするかを選択できます。

  - 有効
  - 無効

工場出荷時の設定：**無効**

- 明るさ検知オートオフ移行時間

  室内が暗くなったのを検知してから オートオフモードに移行するまでの時間を設定します。

  設定した時間になる前に室内が明るくなった場合や、印刷やキーの入力が行われた場合に、タイマーはリセットされます。

  - 5 分
  - 15 分
  - 30 分
  - 60 分
  - 120 分

  工場出荷時の設定：**30 分**

- センサー感度

  光量センサーの感度を 5 段階に設定できます。光量センサーの感度は、［レベル 5（やや暗い）］が一番明るい状態に反応します。

  明るさの目安は、次のとおりです。

  - レベル 1（非常に暗い）

    月明かり程度（およそ 0.4lx）

  - レベル 2
  - レベル 3（暗い）

    上映中の映画館程度（およそ 2.4lx）

  - レベル 4
  - レベル 5（やや暗い）

    日が沈んだ夕刻の室内程度（およそ 75.0lx）

  工場出荷時の設定：**レベル 3（暗い）**

最大消費電力低減

本機の電源を入れたときやオートオフモードから復帰したときは、通常よりも大きな電力がかかります。この機能を有効にすることで、本機の起動時の電力を低減し、お使いの環境での電力容量オーバーによるブレーカーの作動を起こりにくくします。

この機能を有効にすると、お使いの環境によっては、厚紙印刷時の品質が低下することがあります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

エミュレーション検知

本機に送られたデータを自動的に判断して、エミュレーションを決定することができます。対象となるのは RPDL、PS3、PDF、PCL、RTIFF、R55、R16 です。これら対象エミュレーションのいずれかが搭載されている場合に表示されます。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

[エミュレーション検知] を [する] に設定しても、エミュレーション切り替えコマンドを受信した場合は、エミュレーション切り替えコマンドが優先されます。[する] のときの各エミュレーションの動作については、各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

転送されたデータの種類によっては、正しいエミュレーションに切り替わらない場合があります。

連続してデータを送信する場合、[エミュレーション検知] が機能しないことがあります。その場合はデータを送信する間隔をあけてください。

圧縮データの解凍印刷

本機に送られた圧縮データを扱うか扱わないかを選択します。対応している圧縮形式は GZIP 形式です。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

優先エミュレーション/プログラム

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

「プログラム 1」~「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。

- RPCS
- RPDL
- R98
- R16
- R55
- RTIFF
- PCL
- PCLXL

- PS3
- PDF
- BMLinkS
- プログラム 1〜16

工場出荷時の設定：**RPCS**

優先メモリー

優先的に使用するメモリー内容を設定します。印刷する用紙サイズ、解像度、エミュレーションなどによって選択してください。

- ユーザーメモリー

  PDL のワークメモリーに多くのメモリー領域を割り当てる設定です。メモリー不足で印刷できないときに設定します。

- ページメモリー

  画像メモリーに多くのメモリー領域を割り当てる設定です。印刷物によっては印刷速度を上げることができます。

工場出荷時の設定：**ページメモリー**

スプール印刷

スプール印刷をするかどうかを設定します。スプール印刷とは、パソコンから転送されるプリントジョブを一時的に本機に蓄積し、印刷する機能です。

拡張 HDD を装着時にのみ表示されます。

［する］を選択すると、最初の印刷に時間がかかります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

RAM ディスク

拡張 HDD を装着していないときのみ表示されます。

PDF ダイレクトプリントをする場合で、拡張 HDD を装着していないときに指定します。2MB 以上の値を指定してください。

設定を変更したときは、いったん本機の電源を切り、あらためて電源を入れなおしてください。

- 0MB
- 2MB
- 4MB
- 8MB

工場出荷時の設定：**4MB**

自動メール通知

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかを指定します。

設定を変更したときは、いったん本機の電源を切り、あらためて電源を入れなおしてください。

- する
- しない

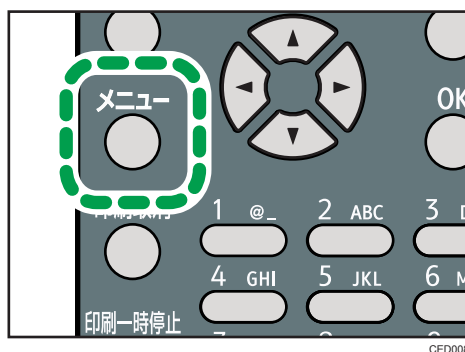
工場出荷時の設定：**する**

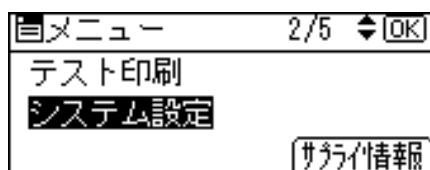
システム設定メニューの設定を変更する

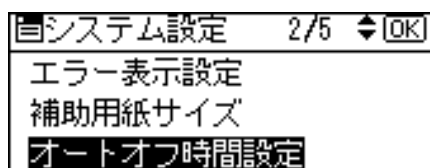
システム設定メニュー「オートオフ時間」の変更方法を例に説明します。

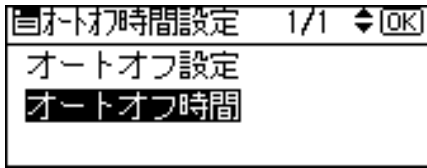
5

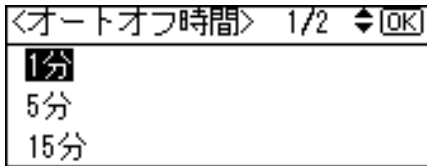
1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

CED008

2. ［▼］［▲］キーを押して［システム設定］を選択し、［OK］キーを押します。

メニュー 2/5 OK
テスト印刷
システム設定
サプライ情報

3. ［▼］［▲］キーを押して［オートオフ時間設定］を選択し、［OK］キーを押します。

システム設定 2/5 OK
エラー表示設定
補助用紙サイズ
オートオフ時間設定

4. [▼][▲]キーを押して[オートオフ時間]を選択し、[OK]キーを押します。

目オートオフ時間設定 1/1 ⬍ OK
オートオフ設定
オートオフ時間

5. [▼][▲]キーを押して変更する設定値を選択し、[OK]キーを押します。

<オートオフ時間> 1/2 ⬍ OK
1分
5分
15分

6. [メニュー]キーを押します。

印刷設定メニュー

印刷を行うときの印刷条件を設定します。

印刷設定メニューの設定項目

一般設定

印刷枚数設定

PCL カード、 PS3 カード、 PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。印刷枚数を 1～999 枚の間で設定できます。プリンタードライバーで印刷部数を指定した場合は、プリンタードライバーの設定が有効になります。

工場出荷時の設定：**1**

180 度回転

180 度回転印刷をするかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

スムージング

PCL カード、PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。文字や図形の輪郭のギザギザを自動的になめらかにして印刷するかどうかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

トナーセーブ

PCL カード、PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。薄めに印刷することで、トナーを節約するかどうかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

レターヘッド紙使用設定

レターヘッド紙のように印刷方向や印刷面が決まっている用紙を正しく印刷するために設定します。

この機能を有効にして両面印刷を行うと、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。

両面印刷を許可しているトレイからソート印刷をすると、1 部目と 2 部目以降で印刷面が異なる場合があります。印刷する面をすべて同一にしたいときは、両面印刷を禁止しているトレイから給紙してください。

この機能を使用するときは、用紙のセット方向に注意が必要です。詳細は『ハードウェアガイド』「天地の向き、表裏のある用紙に印刷する」を参照してください。

- 使用しない

  レターヘッド紙印刷を行いません。

- 使用する（自動判定）

  印刷方向や印刷面が決まっている用紙が 1 ページ目に指定された場合に、レターヘッド紙印刷を行います。

- 使用する（常時）

  常にレターヘッド紙印刷を行います。

工場出荷時の設定：**使用する（自動判定）**

トレイ設定選択

用紙設定（用紙サイズ、用紙種類）を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

手差しトレイ

手差しトレイの用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

[全用紙サイズ・用紙種類許可］および［全不定形サイズ・用紙種類許可］を設定して蓄積された文書の場合、蓄積後に設定を変更しても蓄積したときの設定で印刷されます。

[全用紙サイズ・用紙種類許可］および［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定した場合、手差しトレイも、拡張リミットレス給紙機能の対象となります。

- ドライバー/コマンド優先

  給紙トレイを指定して印刷する場合、本機に設定されている用紙設定にかかわらず、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を適用して印刷します。

- 機器側設定優先

5

本機に設定されている用紙設定で印刷します。プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定と本機の用紙設定が一致しない場合は、エラーになります。

- 全用紙サイズ・用紙種類許可

  プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を手差しトレイに適用し、印刷を継続することができます。対象となるのは RPCS、PS3、PDF、PCL です。

- 全不定形サイズ・用紙種類許可

  プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷を継続することができます。対象となるのは RPCS、PS3、PDF、PCL です。

工場出荷時の設定：**ドライバー/コマンド優先**

トレイ 1~3

トレイ 1~3 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー/コマンド優先
- 機器側設定優先

工場出荷時の設定：**機器側設定優先**

トレイ指定時動作切り替え

プリンタードライバーから給紙トレイを指定して用紙サイズ・用紙種類を指示した際に、指定した給紙トレイに指示した条件の用紙がなかった場合、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

PCL カード、 PS3 カード、 PDF ダイレクトプリントカードのいずれかが装着されているときのメニュー項目です。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

拡張リミットレス給紙

自動用紙選択ではなく、給紙トレイ指定時でもリミットレス給紙をするように設定します。リミットレス給紙とは、印刷中に給紙トレイの用紙がなくなった場合、他の給紙トレイに自動的に切り替えて印刷する機能です。

- する

  ［する］を選択したときは、プリンタードライバーや印刷条件の［リミットレス給紙］の設定に関係なく、リミットレス給紙機能が有効になります。

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

システム設定（EM）

エミュレーションカードが装着されているときのメニュー項目です。

RPDL、R98、R55、R16 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- する
- スペース

  排紙コマンドの前にスペースコード（20H、A0H、8140H）があるときは排紙します。
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

用紙なしエラー

現在選択されているトレイに用紙がセットされていないときのデータ受信を停止するタイミングを設定します。[印刷実行時] に設定すると用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。[用紙なし時] に設定すると用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

- 印刷実行時

  用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。
- 用紙なし時

  用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

工場出荷時の設定：**印刷実行時**

自動排紙時間

一定時間パソコンからデータが送信されない場合に本機内にあるデータを強制的に印刷するかどうかを設定します。「自動排紙しない」に設定するとデータは自動的には印刷されません。自動的に印刷させる場合は、データが送信されなくなってから強制的に印刷するまでの時間を設定します。設定された時間が経過すると送信されてきたデータが 1 ページの途中までであっても強制的に印刷されるため、適切な時間を設定することが重要です。

- 自動排紙しない
- 10 秒
- 15 秒
- 20 秒

- 25 秒
- 60 秒
- 300 秒

工場出荷時の設定：**自動排紙しない**

マクロキャッシュ

プリンター言語モジュールがマクロキャッシュとして使用するメモリーの上限を設定します。

- マクロ無し
- マクロ 2.1MB
- マクロ 4.3MB
- マクロ 8.4MB

工場出荷時の設定：**マクロ無し**

PCL 設定

PCL カードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PCL］または［PCLXL］を呼び出しているときのみ設定できます。

用紙サイズ

- A4
- B5
- A5
- B6
- A6
- 8 $^{1}/_{2}$×14
- 8 $^{1}/_{2}$×11
- 5 $^{1}/_{2}$×8$^{1}/_{2}$
- ハガキ
- 往復ハガキ
- 長形 3 号封筒
- 洋長 3 号
- 不定形サイズ

工場出荷時の設定：**A4**

最大領域印刷

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

両面印刷

両面印刷をするかしないかを設定できます。両面印刷をする場合はその方向を設定します。オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。

- しない
- 長辺
- 短辺

工場出荷時の設定：**しない**

印刷方向

- タテ
- ヨコ

工場出荷時の設定：**タテ**

行数

5 ～ 128 行まで 1 行ごとに設定できます。

工場出荷時の設定：**64**

フォントソース

- 内蔵メモリー
- RAM
- HDD
- SD Font Download

工場出荷時の設定：**内蔵メモリー**

フォント番号

フォント読込先のフォント番号を指定します。フォントソースが内蔵メモリーのときは 0 ～ 63 の間で設定できます。

フォントソースが内蔵メモリーのときの初期値は 0 で、その他のときの初期値は 1 です。

工場出荷時の設定：**0**

ポイントサイズ

フォントサイズを設定します。4.00 ～999.75（0.25 ごと）の間で設定できます。

工場出荷時の設定：**12.00**

フォントピッチ

文字間を設定します。0.44～ 99.99（0.01 ごと）の間で設定できます。

工場出荷時の設定：**10.00**

シンボルセット

Roman-8、Roman-9、ISO L1、ISO L2、ISO L5、ISO L6、ISO L9、PC-775、PC-8、PC-8 D/N、PC-850、PC-852、PC-858、PC8-TK、PC-1004、Win L1、Win L2、Win L5、Win Baltic、Desktop、PS Text、MS Publ、Math-8、PS Math、Pifont、Legal、ISO 4、ISO 6、ISO 11、ISO 15、ISO 17、ISO 21、ISO 60、ISO 69、Win 3.0、MC Text、UCS-2、PC-864、Arabic-8、Win Arabic、PC-866、PC-866U、ISO Cyrillic、Win Cyrillic、PC-851、Greek-8、ISO Greek、PC-8 Greek、Win Greek、PC-862、Hebrew-7、Hebrew-8、ISO Hebrew

工場出荷時の設定：**PC-8**

クーリエフォント

- レギュラー
- ダーク

工場出荷時の設定：**レギュラー**

A4 サイズ最大幅印刷

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

LF 設定

- LF=CR+LF
- LF=LF

工場出荷時の設定：**LF=LF**

解像度

- 300dpi
- 600dpi

工場出荷時の設定：**600dpi**

白紙排紙

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

PS 設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PS3］を呼び出しているときのみ設定できます。

ジョブタイムアウト

ジョブが中断した場合に、現在のジョブを中止するまでの本機の待機時間を設定します（秒単位)。[0］に設定した場合、ジョブタイムアウトは行われません。

［機器側設定優先］を選択した場合、0〜999 の値を入力します。工場出荷時は、0 に設定されています。

- ドライバー/コマンド優先
- 機器側設定優先

工場出荷時の設定：**ドライバー/コマンド優先**

ウェイトタイムアウト

本機がジョブ終了を検知できない場合に、ジョブ受信を中止するまでの本機の待機時間を設定します（秒単位）。［0］に設定した場合、ウェイトタイムアウトは行われません。

［機器側設定優先］を選択した場合、0〜999 の値を入力します。工場出荷時は、300 に設定されています。

- ドライバー/コマンド優先
- 機器側設定優先

工場出荷時の設定：**ドライバー/コマンド優先**

両面印刷

両面印刷をするかしないかを設定できます。両面印刷をする場合はその方向を設定します。オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。

- しない
- 長辺
- 短辺

工場出荷時の設定：**しない**

白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

データ形式

データ形式を設定します。

- バイナリデータ
- TBCP

工場出荷時の設定：**バイナリデータ**

解像度

解像度を設定します。

- 300dpi
- 600dpi 2階調
- 600dpi 標準

工場出荷時の設定：**600dpi 2階調**

最大領域印刷

用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

印刷方向自動検知

データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

PDF 設定

PS3 カード、または PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PDF］を呼び出しているときのみ設定できます。

PDF パスワード変更

印刷する PDF ファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

PDF グループパスワード

この機能は本機では使用できません。

両面印刷

両面印刷をするかしないかを設定できます。両面印刷をする場合はその方向を設定します。オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。

- しない
- 長辺
- 短辺

工場出荷時の設定：**しない**

白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

最終ページから印刷

ページ順を逆にし、最終ページから印刷することができます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

解像度

解像度を設定します。

- 300dpi
- 600dpi ２階調
- 600dpi 標準

工場出荷時の設定：**600dpi ２階調**

最大領域印刷

用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

印刷方向自動検知

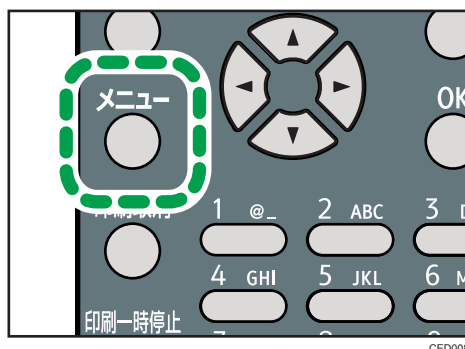
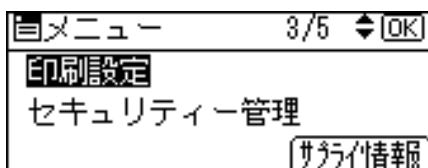
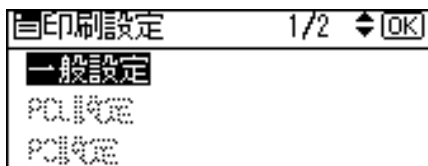
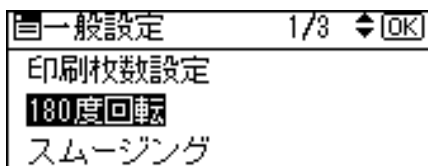
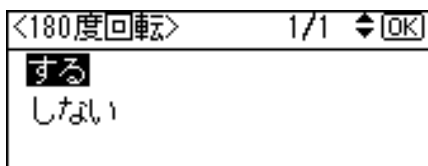
データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

印刷設定メニューの設定を変更する

印刷設定メニュー「180 度回転」の設定方法を例に説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［印刷設定］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［一般設定］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して［180 度回転］を選択し、［OK］キーを押します。

5. ［▼］［▲］キーを押して［する］を選択し、［OK］キーを押します。

6. ［メニュー］キーを押します。

セキュリティー管理メニュー

セキュリティーに関する設定を行います。表示条件や操作権限など、詳細は管理者にお問い合わせください。

セキュリティー管理メニューの設定項目

拡張認証管理

個人認証システム装着時に表示されます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

セキュリティー強化

ドライバー暗号鍵

ユーザー認証を設定しているときに送信するパスワードの暗号化を行います。ドライバー暗号鍵を設定する場合は本機で設定した暗号鍵を印刷するドライバーに入力してください。パスワードの暗号化を行います。

アドレス帳暗号化

本機のアドレス帳情報を暗号化します。内部の部品が流出したときにも暗号化によりアドレス帳の情報を読み取ることはできません。暗号化する場合は暗号鍵を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

個人情報表示制限

ユーザー認証を設定しているときに設定することができます。

個人認証ができない接続方法でジョブ履歴を確認する際に、個人情報をすべて「********」表示にすることができます。登録者の情報がわからないため、不特定のユーザーに登録した文書の情報が漏れることを防ぐことができます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

文書保護強化

パスワード設定によって、文書の印刷や消去などの操作が制限され、不特定の人による文書アクセスが避けられます。文書保護強化を設定した場合、誤ったパスワードを 10 回入力すると文書はロックされ、アクセスできなくなります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

SNMPv1, v2による設定

SNMPv1、v2を使った設定を禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

簡易暗号化使用制限

高度な暗号化が設定できないときに、簡易暗号化処理（利用制限）を行います。

- 制限する
- 制限しない

工場出荷時の設定：**制限しない**

実行中ジョブへの認証の実施

ジョブキャンセル等の操作に認証を必要とするかしないかを設定できます。

[ログイン権限]に設定すると認証の許可があるユーザーおよび機器管理者が操作可能です。

[アクセス権限]に設定すると印刷を行ったユーザーおよび機器管理者が操作可能です。

- ログイン権限
- アクセス権限
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

パスワードポリシー

ベーシック認証が設定されている場合に設定できます。

- 複雑さ設定

  複雑度1：英大文字、英小文字、10進数の数字、記号（#など）から2種類以上を組み合わせてパスワードを設定します。

  複雑度2：英大文字、英小文字、10進数の数字、記号（#など）から3種類以上を組み合わせてパスワードを設定します。

  工場出荷時の設定：**制限しない**

- 最小文字数（0～32）

  文字数を制限しない場合は［0］を入力します。

@Remote サービス

@Remote サービスのための HTTPS 通信を禁止するかしないかを設定できます。禁止する場合は、サービス実施店にご相談ください。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

ファームウェアアップデート

ファームウェアのアップデートを禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

構成変更

ファームウェアの構成変更を禁止するかしないかを設定できます。

- 禁止する
- 禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

サービスモード移行禁止設定

サービスモードへの移行を禁止するかしないかを設定できます。機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

ファームウェアバージョン表示

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワークセキュリティーレベル

ネットワークセキュリティーのレベルを選択します。

- レベル 0
- レベル 1
- レベル 2

工場出荷時の設定：**レベル 0**

メモリー自動消去設定

拡張 HDD および拡張 HDD に付属の SD カードが装着されているときのメニュー項目です。メモリーの自動消去をするかしないかを設定できます。上書き回数を設定する場合は、［乱数方式］を選択してください。

- する

  消去方式

  - NSA 方式
  - DoD 方式
  - 乱数方式

    上書き回数（1~9 回の範囲で設定）

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

メモリー全消去

拡張 HDD および拡張 HDD に付属の SD カードが装着されているときのメニュー項目です。メモリー内のデータをすべて消去します。上書き回数を設定する場合は、[乱数方式] を選択してください。

- 消去方式
  - NSA 方式
  - DoD 方式
  - 乱数方式

    上書き回数（1~9 回の範囲で設定）

工場出荷時の設定：**乱数方式**

ログ転送設定

ログの転送をするかしないかを設定できます。

- する（ログ収集サーバーからのみ設定可能）
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

機器データ暗号化設定

拡張 HDD および拡張 HDD に付属の SD カードが装着されているときのメニュー項目です。拡張 HDD のデータを暗号化します。データを暗号化した場合、操作部の画面に以下のメニューが表示されます。

- 機器データ暗号鍵更新

  暗号鍵を更新します。

- 暗号化解除

  暗号設定を解除します。

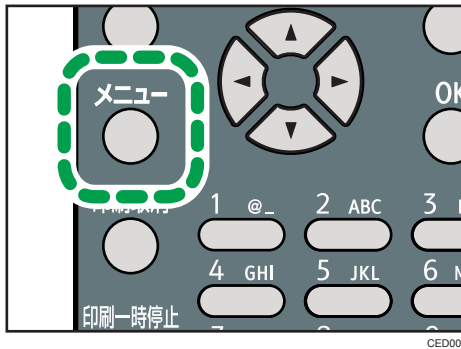
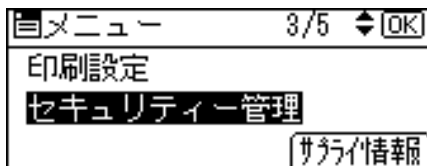
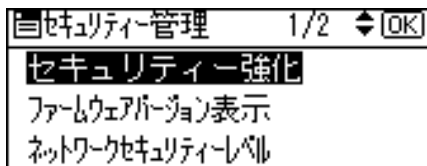
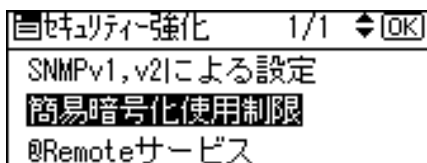
- 機器データ暗号鍵印刷

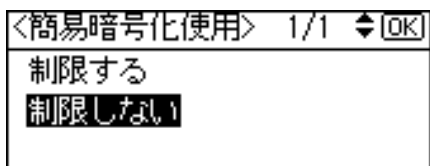
  暗号鍵を印刷します。

5

セキュリティー管理メニューの設定を変更する

セキュリティー管理メニュー「簡易暗号化使用制限」の初回設定方法を例に説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［セキュリティー管理］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［セキュリティー強化］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して［簡易暗号化使用制限］を選択し、［OK］キーを押します。

5. [▼] [▲] キーを押して [制限する] または [制限しない] を選択し、[OK] キーを押します。

<簡易暗号化使用>　1/1 ⬍ OK
制限する
制限しない

6. [メニュー] キーを押します。

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定とパソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

インターフェース設定メニューの設定項目

受信バッファ

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 128KB
- 256KB

工場出荷時の設定：**128KB**

インターフェース切り替え時間

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効にしておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると 1 つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

- 10 秒
- 15 秒
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒

工場出荷時の設定：**15 秒**

ネットワーク設定

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するための設定をします。詳しい各項目の設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

- 本体 IPv4 アドレス
  - 自動的に取得（DHCP）

    この項目を選択すると、DHCP が有効になります。
  - 指定
    - IP アドレス

工場出荷時の設定：11.22.33.44

    - サブネットマスク

      工場出荷時の設定：0.0.0.0

    - ゲートウェイ

      工場出荷時の設定：0.0.0.0

  工場出荷時の設定：**指定**

- IPv6 ステートレス設定

  IPv6 ステートレスアドレス設定の有効/無効を切り替えます。

  - 有効
  - 無効

  工場出荷時の設定：**有効**

- IPsec

  - 有効
  - 無効

  工場出荷時の設定：**無効**

- 有効プロトコル

  - IPv4

    - 有効
    - 無効

    工場出荷時の設定：**有効**

  - IPv6

    - 有効
    - 無効

    工場出荷時の設定：**無効**

  - SMB

    - 有効
    - 無効

    工場出荷時の設定：**有効**

  - AppleTalk

    [AppleTalk] は、PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードを装着しているときに表示されます。

    - 有効
    - 無効

    工場出荷時の設定：**有効**

- イーサネット速度

  イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を選択することができます。

  - 自動設定
  - 10Mbps 半二重固定
  - 10Mbps 全二重固定
  - 100Mbps 半二重固定
  - 100Mbps 全二重固定

  工場出荷時の設定：**自動設定**

- イーサネット用 IEEE 802.1X 認証

  イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。

  IEEE 802.1X 認証については『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

  - 有効
  - 無効

  工場出荷時の設定：**無効**

- IEEE 802.1X 認証初期化

  IEEE 802.1X 認証の設定値を初期化します。

- インターフェース選択

  インターフェース選択は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

  - イーサネット
  - 無線 LAN

  工場出荷時の設定：**イーサネット**

- SSL/TLS 通信許可設定

  SSL/TLS の暗号化通信を設定します。[暗号文のみ]を設定する場合、本機にサーバー証明書が導入されている必要があります。

  - 暗号文のみ
  - 暗号文優先
  - 暗号文/平文

  工場出荷時の設定：**暗号文優先**

パラレルインターフェース設定

パソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。拡張 1284 ボード装着時に表示されます。

- パラレルタイミング

パラレルインターフェースのタイミングを設定します。

- ACK inside
- ACK outside
- STB down

工場出荷時の設定：**ACK outside**

- パラレル通信速度

パラレル通信で DMA 転送を使用して受信を行うかどうかを設定します。

- 高速
- 標準

工場出荷時の設定：**高速**

- セレクト状態

パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。

- HIGH
- LOW

工場出荷時の設定：**HIGH**

- インプットプライム

インプットプライム信号が送られてきたとき、プライム信号を有効にするかどうかを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**無効**

- 双方向通信

パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。市販のプリントボックスなどに接続して問題が発生したときは、[OFF]に設定します。

- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**ON**

無線 LAN 設定

無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。拡張無線 LAN ボード装着時に表示されます。

通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。

通信モードは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- 802.11 アドホックモード
- インフラストラクチャーモード

工場出荷時の設定：**インフラストラクチャーモード**

SSID 設定

SSID を設定します。設定した SSID を確認することもできます。

SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 文字列 0x20～0x7e）で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。

SSID は、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

アドホックチャネル

802.11 アドホックモードを選択したときに使用するチャンネル（チャネル）を設定します。 使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。使用できるチャンネルは以下のとおりです。

- IEEE 802.11g（2.4GHz）を使用する場合

  1～14

- IEEE 802.11a（5GHz）を使用する場合

  36、40、44、48

工場出荷時の設定：**11**

セキュリティー方式選択

無線 LAN の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合はその方式を選択し、キーを設定します。

- しない
- WEP

  ［詳細設定］キーを押し、WEP キーを入力します。WEP キーは、16 進数または ASCII 文字列で入力します。

  64bit WEP を使用する場合、16 進数では 10 桁、ASCII 文字列では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、ASCII 文字列では 13 桁の文字列が使用できます。

  WEP キーは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- WPA

  WPA は、［通信モード］で［インフラストラクチャーモード］を選択したときに設定できます。

  ［詳細設定］キーを押し、暗号方式または認証方式を選択します。

  - 暗号方式：TKIP/CCMP（AES）
  - 認証方式：WPA-PSK/WPA/WPA2-PSK/WPA2

    ［WPA-PSK］または［WPA2-PSK］を選択した場合は、PSK を半角英数字 8-63 文字の範囲で入力します。

［WPA］または［WPA2］を選択した場合は、認証方式や機器証明書の導入などの設定が必要です。詳細は『ハードウェアガイド』「IEEE 802.1X を設定する」を参照してください。

工場出荷時の設定：**しない**

電波状態

無線 LAN の電波状態を確認します。

設定値初期化

無線 LAN の設定を初期化します。

USB 設定

本機とパソコンを USB で接続する場合の通信に関する設定を行います。

- USB 速度
    - 自動選択
    - フルスピード

  工場出荷時の設定：**自動選択**

- USB ポート固定
    - レベル 1
    - レベル 2
    - しない

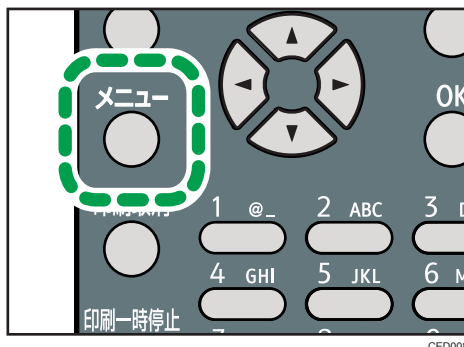
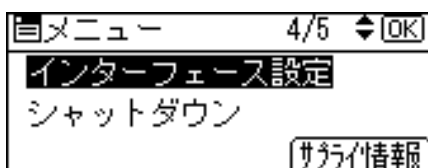
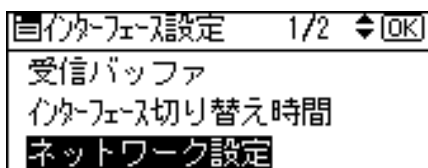
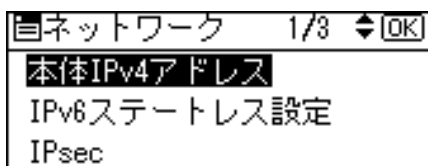
  工場出荷時の設定：**しない**

補足

- Web Image Monitor からの設定方法について、詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

インターフェース設定メニューの設定を変更する

インターフェース設定メニュー「ネットワーク設定」で、IPv4 アドレスを自動的に取得する方法を例に説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［インターフェース設定］を選択し、［OK］キーを押します。

3. ［▼］［▲］キーを押して［ネットワーク設定］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して［本体 IPv4 アドレス］を選択し、［OK］キーを押します。

5. ［▼］［▲］キーを押して［自動的に取得（DHCP）］を選択し、［OK］キーを押します。

6. ［メニュー］キーを押します。

表示言語切替メニュー

表示言語切替メニューの設定項目

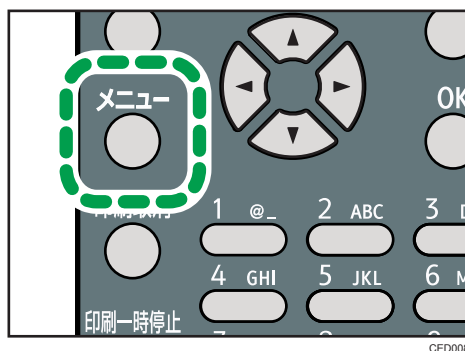
操作部の画面に表示する言語として、日本語と英語を選択できます。

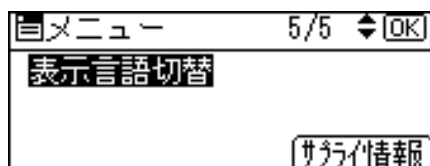
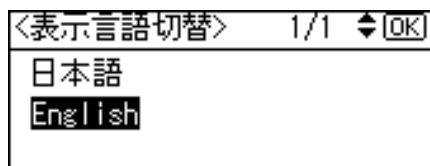
工場出荷時は、**日本語**に設定されています。

表示言語切替メニューの設定を変更する

ここでは、日本語から英語に切り替える場合を例に説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

CED008

2. ［▼］［▲］キーを押して［表示言語切替］を選択し、［OK］キーを押します。

メニュー 5/5 OK
表示言語切替
サプライ情報

3. ［▼］［▲］キーを押して［English］を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［メニュー］キーを押します。

補助メニュー

補助メニューでは、強制排紙やエラー履歴、エミュレーションの設定などを行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目の一覧を説明します。

補助メニューの項目

強制排紙

改行コードがないなどの理由で印刷できないデータを印刷します。

エラー履歴表示

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラーの履歴が残り、操作部で確認することができます。

- すべて
- 試し印刷文書
- 機密印刷文書
- 保留印刷文書
- 保存文書

給紙トレイ

印刷する給紙トレイを切り替えます。本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

RPDL、RTIFF、R98、R55、R16 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。詳細は各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

- トレイ 1
- トレイ 2
- トレイ 3
- 手差しトレイ（マルチ）

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

エミュレーション呼び出し

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

搭載されているエミュレーションか登録されているプログラムを選択できます。詳細は各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

- RPCS
- RPDL
- R98

- R16
- R55
- RTIFF
- PCL
- PCLXL
- PS3
- PDF
- BMLinkS
- プログラム 1～16

工場出荷時の設定：**RPCS**

印刷条件

アプリケーションやパソコンに合わせて印刷条件を設定します。

RPDL、RTIFF、R98、R55、R16 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。詳細は各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

印刷部数

印刷部数を設定します。

RTIFF をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。詳細はエミュレーションの使用説明書を参照してください。

プログラム登録/消去

設定した印刷条件を登録します。プログラムを登録すると、登録した順にユーザーメモリースイッチ番号が設定されます。ユーザーメモリースイッチ番号は、エミュレーションごとに、登録された順番で「1」から自動的に採番されます。ユーザーメモリースイッチ番号は、印刷条件リストの「プログラムキー登録状況」で確認できます。

RPDL、RTIFF、R98、R55、R16 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。詳細は各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

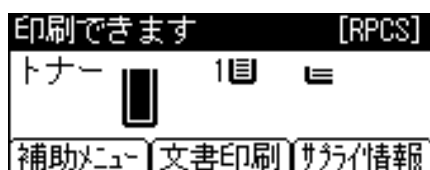
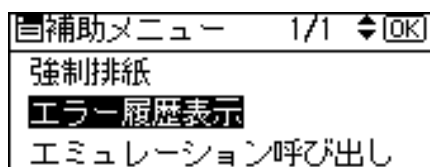
- プログラム登録
- プログラム消去
- プログラム内容印刷

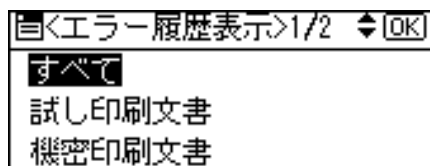
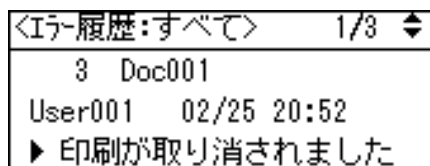
エラー履歴を確認する

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラー履歴が残り、操作部で確認することができます。

重要

- エラー履歴には最新の 30 件が蓄積されます。すでに 30 件が蓄積されているときに新たなエラーが加わると、最も古い履歴が消去されます。ただし最も古い履歴が次の文書の場合は消去されずに、蓄積エラーとして 30 件まで別に蓄積されます。エラー履歴として、どちらの履歴も確認することができます。
    - 試し印刷文書
    - 機密印刷文書
    - 保留印刷文書
    - 保存文書
- 本体の電源を切ると、それまでの履歴は消去されます。

1. ［補助メニュー］を押します。

2. ［▼］［▲］キーを押して［エラー履歴表示］を選択し、［OK］キーを押します。

セキュリティーの設定によっては、すべてのエラー履歴が表示されない場合があります。

3. ［▼］［▲］キーを押してエラー履歴の種類を選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押してエラー履歴を確認します。

確認し終わったら［メニュー］キーを押します。

6. 機器の管理

Web ブラウザーやソフトウェアを使った、機器の監視や設定について説明します。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

Web Image Monitor について

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更をネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

どんなことができるのか？

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- メール通知機能の設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定

本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

推奨ブラウザー

- Windows 環境：

  Internet Explorer 5.5 SP2 以降

  Firefox 1.0 以降

- Macintosh 環境：

  Firefox 1.0 以降

  Safari 1.0、1.2、2.0（412.2）以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダに対応しています。 推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 推奨するアプリケーション

  95Reader Ver.6.0 (XPReader) 以降

- 動作環境

  Windows 環境：Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

補足

- Mac OS X 10.4.1 の Safari には対応しておりません。
- 使用するブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳細は管理者にお問い合わせください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- Internet Explorer 8 を使用しているとき、ダウンロードに時間がかかることがあります。本体の URL を［インターネットオプション］から信頼済みサイトとして登録し、サイトの SmartScreen フィルター機能を無効にしてください。Internet Explorer 8 の設定について詳細は Internet Explorer 8 のヘルプを参照してください。
- Web ブラウザーに表示される URL をブックマーク登録すると、Web Image Monitor 画面をすぐに呼び出すことができます。登録する際は、ログイン前のトップページ画面で行ってください。ログイン後のトップページ画面で登録した場合は、正しく表示されません。

トップページを表示する

1. Web ブラウザーを起動します。

2. Webブラウザーのアドレスバーに「http://（本機のIPアドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

DNSサーバー、WINSサーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

サーバー証明を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機のIPアドレス、またはホスト名）/」と入力します。

CED512

1. **ヘッダーエリア**

   ヘルプ、RICOH Homepageへのリンクや、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

2. **メニューエリア**

   ゲストモードと管理者モードとの切り替えのためのログイン/ログアウトボタンが表示され、それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。

   メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

3. **ヘルプ**

   ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

4. **ワークエリア**

   トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

   また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

   ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の［最新の情報に更新］をクリックしてください。なお、Webブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの［更新］をクリックしてください。

補足

- IPv6環境下のWindows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2でホスト名をご使用の場合は、外部のDNSサーバーでホスト名の解決を行ってください。hostsファイルはご使用になれません。

ユーザー認証が設定されているとき

Web Image Monitor からログインする方法については P.27「Web Image Monitor からログインする」を参照してください。

Web Image Monitor からログアウトする方法については P.27「Web Image Monitor からログアウトする」を参照してください。

メニュー構成とモードについて

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、お使いの機種により表示される項目が異なります。

ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

CED513

1. ホーム

［状態］、［構成］、［カウンター］の各タブが表示され、ワークエリアに詳細情報が表示されます。

2. プリンター文書印刷

試し文書／機密文書／保留文書／保存文書の一覧が表示されます。

3. プリンターフォーム一覧

イメージジオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4. ジョブ

印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴などの一覧表示ができます。

5. 設定

本機のシステム、インターフェースおよびネットワークの設定内容が表示されます。

また、ヘルプファイルをダウンロードできます。

管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

CED514

1. ホーム

[状態]、[構成]、[カウンター] の各タブが表示され、ワークエリアに詳細情報が表示されます。

2. プリンター文書印刷

試し文書／機密文書／保留文書／保存文書の一覧が表示されます。

3. プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4. ジョブ

印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴などの一覧表示ができます。

5. アドレス帳

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

6. 設定

本機のシステム、インターフェース、ネットワーク、セキュリティーおよびヘルプの設定ができます。

7. リセット

トップページの［リセット］ボタンをクリックすると、本機のジョブ履歴をリセットできます。ジョブを実行中はリセットできません。

8. 印刷取消

トップページの［印刷取消］ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

6

補足

- 表示や設定項目の詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

管理者モードにアクセスする

1. Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。

6

2. ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

お使いのブラウザーの設定により、ログインユーザー名、ログインパスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログインユーザー名、ログインパスワードを保存しないように設定してください。

Web Image Monitor のヘルプを表示する

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘッダーエリアに表示された?、またはワークエリアに表示された?をクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る

最新の Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る

Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクへダウンロードして見ることができます。ヘルプの URL にローカルディスクのパスを指定すると、インターネットへ接続せずにヘルプを見ることができます。

補足

- ヘッダーエリアに表示された?をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示された?をクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

ヘルプをダウンロードする

1. 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。

2. 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。

3. [ダウンロード] をクリックします。

4. 表示されるメッセージに従って、ヘルプファイルをダウンロードします。

5. ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。

ダウンロードした Web Image Monitor のヘルプを見る場合は、解凍した場所のパスを設定してください。

ヘルプへのアドレス（URL）リンクを設定する

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された?のアドレス（URL）を次の手順でリンクすることができます。

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. メニューエリアの［設定］をクリックします。

3.「Webpage」カテゴリーの中の［Webpage 設定］をクリックします。

4.［ヘルプリンク先設定］の［URL］にヘルプファイルへのパスを入力します。

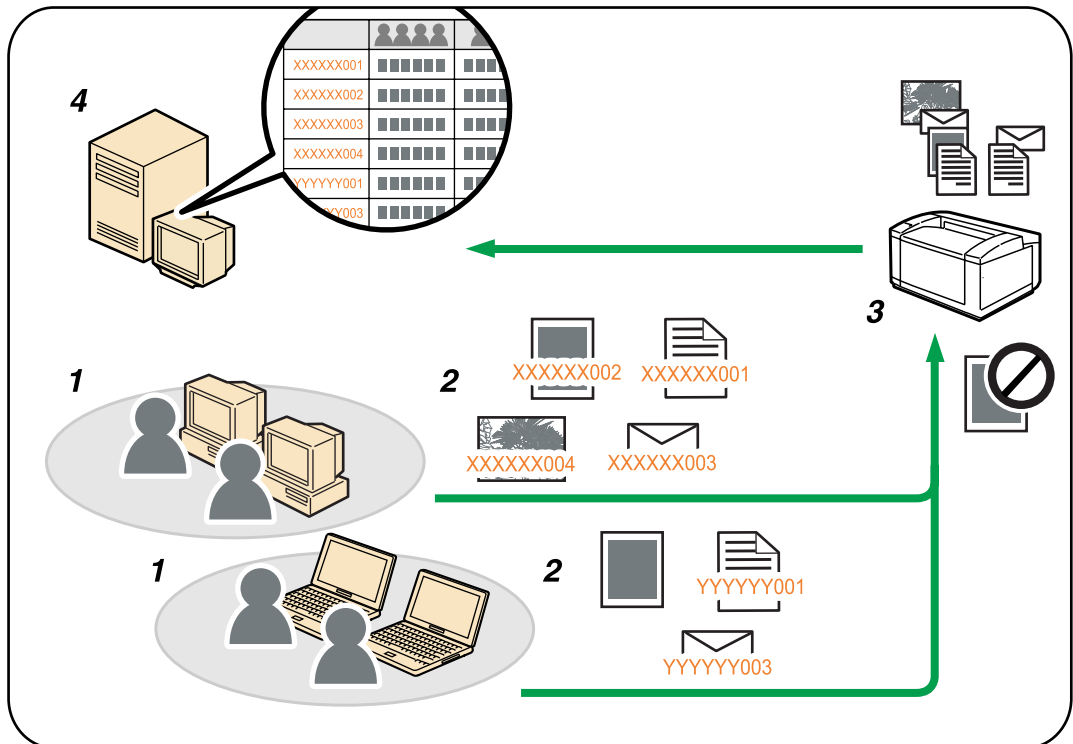
例えば、C:¥HELP¥JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file://C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーしていて URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

5.［OK］をクリックします。

6. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

分類コードを登録する

分類コードを登録しておくと、分類コードごとの印刷枚数がプリンターに記録されます。

この機能を使い、たとえば利用目的や個人ごとに分類コードを設定しておくと、印刷枚数を利用目的や個人ごとに確認することができます。勘定科目ごとの収集やクライアントごとの課金管理などに適しています。

1. 管理する部や課、プロジェクトチーム、ユーザーなど
2. 利用目的に応じて、分類コードをプリントジョブに入力
3. 印刷
4. 外部ログ収集システムで分類コードを収集、管理

補足

- 分類コードを入力する方法については、P.66「プリントジョブに分類コードを入力する」を参照してください。
- 分類コードが必須の環境では、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷されません。詳細はP.194「分類コードを設定する」を参照してください。

分類コードを設定する

プリントジョブに分類コードを必須とするか任意とするかをWeb Image Monitorで設定します。

重要

- **分類コードを必須に設定した場合、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷できません。**
- **分類コードを必須に設定した場合でも、システム設定リストは印刷できます。**
- **初期状態は任意に設定されています。**

1. **Web Image Monitorを起動し、管理者モードにログインします。**

   ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
3. **「機器」カテゴリーの中の［ログ］をクリックします。**
4. **「共通設定」カテゴリーの中の「分類コード：」で［必須］または［任意］を選択します。**
5. **［OK］をクリックします。**
6. **管理者モードからログアウトし、Web Image Monitorを終了します。**

アドレス帳のバックアップとリストア

アドレス帳をバックアップする

Web Image Monitorで、本機のアドレス帳データを保存する方法を説明します。

1. **Web Image Monitorを起動し、管理者モードにログインします。**

   ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. ［アドレス帳］をクリックします。

3. ［メンテナンス］をクリックします。

4. 暗号鍵を入力し、［バックアップ］をクリックします。

暗号鍵は、アドレス帳暗号化で設定されている暗号鍵を入力します。

詳細は管理者にお問い合わせください。

5. ［保存］をクリックします。

表示されるメッセージに従って、ファイルを保存します。

6. ［戻る］をクリックします。

7. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitorを終了します。

- アドレス帳のバックアップについての詳細はWeb Image Monitorのヘルプを参照してください。

アドレス帳をリストアする

Web Image Monitorで、本機に保存したアドレス帳データを復元する方法を説明します。

1. Web Image Monitorを起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. ［アドレス帳］をクリックします。

3. ［メンテナンス］をクリックします。
4. ［リストア設定］をクリックします。
5. 表示されるメッセージに従って、リストアするファイルを指定します。
6. ［OK］をクリックします。
7. メッセージを確認し、［OK］をクリックします。
8. ［戻る］をクリックします。
9. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

補足

- リストアすると、機器に保存されているアドレス帳はリストアするデータで上書きされます。また、ユーザー別のカウンターがクリアされます。
- アドレス帳のリストアについての詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

Ridoc IO Analyzer を使う

Ridoc IO Analyzer はネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。

詳細は P.23「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

Ridoc IO Analyzer については、Ridoc IO Analyzer の説明書を参照してください。

重要

- **Ridoc IO Admin がインストール済みの環境では、Ridoc IO Analyzer は Ridoc IO Admin に対する上書きアップデートとしてインストールされます。**

6

Ridoc IO Navi を使う

Ridoc IO Navi を使うと、ネットワークプリンターの環境を簡単に構築できます。また、ネットワーク上のリコー製プリンターの稼動状態をパソコンから簡単に確認できます。

Ridoc IO Navi は、リコーのホームページからダウンロードできます。

詳細はP.23「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

補足

- Ridoc IO Navi の詳細は Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

Ridoc IO Navi で IPP を使うとき

Ridoc IO Navi で IPP を使用する際の注意事項です。

- 半角英数字以外の文字を使用したユーザー名で Windows にログインする場合は、印刷を行うことができません。
- Ridoc IO Navi の IPP ポートと OS 標準の IPP ポートとで、同じ IPP ポート名を設定することはできません。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスする場合、[セキュリティの警告] が表示されたとき、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、[証明書のインポートウィザード] で証明書ストアの場所は、[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し、[信頼されたルート] の [ローカルコンピュータ] を選択します。

補足

- SSL（暗号化通信）について、詳細は管理者にお問い合わせください。

6

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

★重要

- **メールソフトによっては、メールを受信したときに、フィッシングの警告が出る可能性があります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。**
- **この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。**

本機のメール通知機能は次の２種類です。

自動メール通知

あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

要求時メール通知

管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

自動メール通知で設定できるものは、以下のとおりです。

- サービスコール
- トナーなし
- トナー残りわずか
- 用紙づまり
- カバーオープン
- 用紙なし
- 用紙残りわずか
- 給紙トレイエラー
- 排紙先満杯
- ユニット接続エラー
- 廃トナーボトル満杯
- 文書保存領域もうすぐ満杯
- アクセス攻撃検知
- ユニット交換時期
- ユニット交換間近
- カートリッジ交換時期

6

- カートリッジ交換間近
- カートリッジ交換準備
- トナー残りわずか（残量レベル選択）

1. 本機の操作部を使用して、［システム設定］メニューの［自動メール通知］を［する］に設定します（工場出荷時は［する］に設定されています）。

2. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

3. メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。

4. 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。

  SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。P.201「メールの認証について」を参照してください。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。

  POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。P.201「メールの認証について」を参照してください。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール通信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

5. ［OK］をクリックします。

6. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

メール通知用アカウントを設定する

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1. **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

   ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. **メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。**

3. **設定画面に示された以下の項目を設定します。**

   - メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを半角の英数字で入力します。
   - メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
   - メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
   - メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

4. **［OK］をクリックします。**

5. **管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。**

6

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

   ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。

3. 設定画面に示された以下の項目を設定します。

   - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
   - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
   - SMTP 認証：SMTP 認証のする／しないを指定します。
   - SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを半角の英数字で入力します。
   - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に@realmID の形式で追加してください。

- SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
- SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。

  [自動選択]：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

  [有効]：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

  [無効]：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。

4. [OK] をクリックします。
5. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

   ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。
2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。
3. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
   - POP before SMTP: POP before SMTP 認証のする／しないを設定します。
   - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを半角の英数字で入力します。
   - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
   - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
   - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
4. [OK] をクリックします。
5. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

「自動メール通知」を設定する

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. **メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［自動メール通知］をクリックします。**

3. **設定画面に示された以下の項目を設定します。**

- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- 項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。

  項目の詳細を設定する場合は、［各項目の詳細設定］の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

4. **［OK］をクリックします。**

5. **管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。**

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

「要求時メール通知」を設定する

1. **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

6

2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［要求時メール通知］をクリックします。

3. 設定画面に示された項目を設定します。

- 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 機器状態情報通知の制限：機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。

  ［有効］を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。

  ［無効］を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
- 受信可能メールアドレス／ドメイン設定：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。また、メールの言語を設定できます。

4. ［OK］をクリックします。

5. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求メールの書式について

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。

要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
To（メールソフトでは「宛先」などと表示される部分）	［通知用メールアドレス］に設定したメールアドレスを指定します。
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	requeststatus

項目	記述内容
From（メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

7. 付録

Windows ネットワークプリンターを設定する

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ここでは Windows XP を例に説明します。

重要

- **プリンターのプロパティを変更するには、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。

2. 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

3. ［共有］タブをクリックし、［このプリンタを共有する］を選択します。

4. プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、［追加ドライバ］をクリックしてインストールする OS を選択し、［OK］をクリックします。

プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックをして代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。

5. ［詳細設定］タブの［標準の設定］ボタンから、クライアントに配布するドライバの初期値を設定し、［OK］をクリックします。

6. ［OK］をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。

Windows ターミナルサービス／Citrix Presentation Server／Citrix XenApp を使うとき

詳細については、以下のリコーのホームページを参照してください。

対応状況について

http://ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta.html

制約事項と補足について

http://ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta_sub.html

DHCP を使う

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 および Unix に標準添付されている DHCP サーバーです。
- 本機が DHCP から取得した IP アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、P.145「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- WINS サーバーを使用する場合は、P.211「WINS サーバーを使う」を参照して WINS サーバーを設定してください。
- WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IP アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーで予約してください。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。
- ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

AutoNet 機能を使う

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。詳細は『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、P.145「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。

- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。ただし、Mac OS X 10.2.3 以降が稼働している Macintosh とは通信できます。

WINS サーバーを使う

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS（Windows Internet Name Service）サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Ridoc IO Navi のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。

補足

- WINS サーバーは、Windows Server 2000 以降でサポートしています。
- WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。
- WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。
- 登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使う

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.190「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「ネットワーク」カテゴリーの中の［IPv4］をクリックします。

3. ［イーサネット+無線 LAN］欄の［WINS］が「有効」になっていることを確認し、［プライマリー WINS サーバー］と［セカンダリー WINS サーバー］にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。

4. ［OK］をクリックします。

5. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

telnet を使う

telnet でも WINS の設定ができます。詳細は『Linux/Unix をお使いの方へ』を参照してください。

ダイナミック DNS 機能を使う

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

重要

- **メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)）はサポートしていません。**

静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、無線 LAN の場合

  RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

  ただし、ホスト名が CNAME と同じ（RNPXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、無線 LAN の場合

  RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。

ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

補足

- ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。
- 本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。
  - セキュリティー設定がされていない
  - セキュリティー設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

動作対象の DNS サーバー

静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCPv4 サーバー

本機の代理で A レコードおよび PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server（Service Pack 3 以降）、Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

ダイナミックDNS機能の設定について

telnetのdnsコマンドを使用して設定します。詳細は『Linux/Unixをお使いの方へ』を参照してください。

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続しているとき

リコー製のネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。 装置のネットワークアドレスを設定するとき、およびネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき

拡張無線 LAN ボードを使ってネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- 本機とアクセスポイントを近づける。
- アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

補足

- アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat

本製品に搭載しているコントローラなどのソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat を下記の条件のもとで使用しています。

- expat を含むソフトウェアに関するサポートと保証等は株式会社リコーが行うものであり、expat の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

補足

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://expat.sourceforge.net/

NetBSD

[I] Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product: This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at http://www.netbsd.org/.

[II] Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by the University of California,Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the NetBSD Foundation.

This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

This product includes software developed for the NetBSD Project. See http://www.netbsd.org/ for information about NetBSD.

This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.

This product contains software written by Ignatios Souvatzis and MichaelL. Hitch for the NetBSD project.

This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@mincom.oz.au)

This product includes software designed by William Allen Simpson.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.

This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.

This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch

This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.

This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.

This product includes software developed by Mika Kortelainen

This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.

This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.

This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.

This product includes software developed by Adam Glass.

This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.

This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Projet.

This product includes software developed by Alex Zepeda.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.

This product includes software developed by Allen Briggs

This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Bill Paul.

This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute umlauted o for oe)

This product includes software developed by Boris Popov.

This product includes software developed by Brad Pepers

This product includes software developed by Bradley A. Grantham.

This product includes software developed by Brini.

This product includes software developed by Causality Limited.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor.

This product includes software developed by Charles Hannum.

This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A.Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California,Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed by Charles M. Hannum.

This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.

This product includes software developed by Christian E. Hopps.

This product includes software developed by Christian Limpach

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed by Christos Zoulas.

This product includes software developed by Chuck Silvers.

This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Colin Wood.

This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited

This product includes software developed by Daishi Kato

This product includes software developed by Dale Rahn.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Darrin B. Jewell

This product includes software developed by David Miller.

This product includes software developed by Dean Huxley.

This product includes software developed by Eduardo Horvath.

This product includes software developed by Eric S. Hvozda.

This product includes software developed by Eric S. Raymond

This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.

This product includes software developed by Ezra Story.

This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Gardner Buchanan.

This product includes software developed by Gary Thomas.

This product includes software developed by Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross

This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.

This product includes software developed by Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by Harvard University.

This product includes software developed by Herb Peyerl.

This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Iain Hibbert

This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.

This product includes software developed by Ian W. Dall.

This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.

This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.

This product includes software developed by James R. Maynard III.

This product includes software developed by Jared D. McNeill.

This product includes software developed by Jason L. Wright

This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, http://www.and.com/

This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.

This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.

This product includes software developed by Joerg Wunsch

This product includes software developed by John Birrell.

This product includes software developed by John P. Wittkoski.

This product includes software developed by John Polstra.

This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone.

This product includes software developed by Jukka Marin.

This product includes software developed by Julian Highfield.

This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.

This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.

This product includes software developed by Kenneth Stailey.

This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.

This product includes software developed by Klaus Burkert,by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.

This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Leo Weppelman.

This product includes software developed by Lloyd Parkes.

This product includes software developed by Luke Mewburn.

This product includes software developed by Lutz Vieweg.

This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.

This product includes software developed by Manuel Bouyer.

This product includes software developed by Marc Horowitz.

This product includes software developed by Marcus Comstedt.

This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.

This product includes software developed by Mark Brinicombe.

This product includes software developed by Mark Murray

This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe

This product includes software developed by Markus Wild.

This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.

This product includes software developed by Masanobu Saitoh.

This product includes software developed by Masaru Oki.

This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.

This product includes software developed by Mats O Jansson.

This product includes software developed by Matt DeBergalis

This product includes software developed by Matthew Fredette.

This product includes software developed by Matthias Pfaller.

This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Michael Graff.

This product includes software developed by Michael L. Hitch.

This product includes software developed by Michael Shalayeff.

This product includes software developed by Michael Smith.

This product includes software developed by Mike Glover and contributors.

This product includes software developed by Mike Pritchard.

This product includes software developed by Minoura Makoto.

This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.

This product includes software developed by Niels Provos.

This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.

This product includes software developed by Niklas Hallqvist.

This product includes software developed by Onno van der Linden.

This product includes software developed by Paul Kranenburg.

This product includes software developed by Paul Mackerras.

This product includes software developed by Per Fogelstrom

This product includes software developed by Peter Galbavy.

This product includes software developed by Phase One, Inc.

This product includes software developed by Philip A. Nelson.

This product includes software developed by Philip L. Budne.

This product includes software developed by RiscBSD.

This product includes software developed by Roar Thronaes.

This product includes software developed by Rodney W. Grimes.

This product includes software developed by Roger Hardiman

This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.

This product includes software developed by Rolf Grossmann.

This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Ross Harvey.

This product includes software developed by Scott Bartram.

This product includes software developed by Scott Stevens.

This product includes software developed by Shingo WATANABE.

This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.

This product includes software developed by Soren S. Jorvang.

This product includes software developed by Stephan Thesing.

This product includes software developed by Steve Woodford.

This product includes software developed by Takashi Hamada

This product includes software developed by Takumi Nakamura.

This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Terrence R. Lambert.

This product includes software developed by Tetsuya Isaki.

This product includes software developed by Thomas Gerner

This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tobias Weingartner.

This product includes software developed by Todd C. Miller.

This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.

This product includes software developed by TooLs GmbH.

This product includes software developed by Toru Nishimura.

This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.

This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.

This product includes software developed by Waldi Ravens.

This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. http://www.zembu.com/

This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.

This product includes software developed by Yasushi Yamasaki

This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.

This product includes software developed by the Alice Group.

This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.

This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.

This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.

This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.

(http://www.OpenSSL.org/)

This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.

This product includes software developed by the RiscBSD kernel team

This product includes software developed by the RiscBSD team.

This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed for the FreeBSD project

This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas

This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.

This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET,Swedish University Computer Network.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz,TeleMuse.

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.

"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).

This software includes software developed by the Computer Systems Labora-tory at the University of Utah.

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/).

This product includes software developed by Allen Briggs.

In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.

"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD" , "FreeBSD" , "Mach" (by CMU).

In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

FreeBSD 4.6.2/netipx

Sablotron (Version 0.82)

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, “Sablotron 0.82”), with modifications made by the product manufacturer.

The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, “MPL 1.1”), and the application software of this product constitutes the “Larger Work” as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: http://supportdownload. com/services/device/sablot/notice082.html

e) The source code of the Sablotron software is available at: http://www.gingerall.com

f) MPL 1.1 is available at: http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html

JPEG LIBRARY

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

SASL

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3.The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission.

For permission or any other legal details, please contact:

Office of Technology Transfer

Carnegie Mellon University

5000 Forbes Avenue

Pittsburgh, PA 15213-3890

(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395

tech-transfer@andrew.cmu.edu

4.Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

RSA BSAFE®

- This product includes RSA BSAFE® cryptographic or security protocol software from RSA Security Inc.
- RSA is a registered trademark and BSAFE is a registered trademark of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
-

Open SSL

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN 11NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay®cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay®cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay®cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric

Young (eay®cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e this code cannot simply be copied and put under another distribution licence ［including the GNU Public Licence.］

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

<Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

［Tatu continues］

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "http://www.cs.hut.fi/crypto".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE

WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh -source code

<Ariel Futoransky futo@core-sdi.com>

<http://www.core-sdi.com>

3)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl

Theo de Raadt

Niels Provos

Dug Song

Kevin Steves

Daniel Kouril

Wesley Griffin

Per Allansson

Jason Downs

Solar Designer

Todd C. Miller

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)

Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller

Theo de Raadt

Damien Miller

Eric P. Allman

The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open LDAP

Copyright (c) 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,

2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and

3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

Heimdal

Copyright (c) 1997-2005 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

IPS™ print language emulations

Copyright (c) 1987-2006 Zoran Corporation. All rights reserved.

AppleTalk

7

Copyright (c) 1990,1991 Regents of The University of Michigan. All Rights Reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of The University of Michigan not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. This software is supplied as is without expressed or implied warranties of any kind.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

WPA Supplicant

<Copyright (c) 2003-2009, Jouni Malinen j@w1.fi> and contributors All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and /or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name (s) of the above-listed copyright holder (s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

nana

Copyright (c) 1995,1996,1997,1998 Phil Maker All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

ILU

Copyright (c) 1991-1999 Xerox Corporation. All Rights Reserved.

Unlimited use, reproduction, modification, and distribution of this software and modified versions thereof is permitted. Permission is granted to make derivative works from this software or a modified version thereof.

Any copy of this software, a modified version thereof, or a derivative work must include both the above copyright notice of Xerox Corporation and this paragraph. Any distribution of this software, a modified version thereof, or a derivative work must comply with all applicable United States export control laws.

This software is made available AS IS, and XEROX CORPORATION DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, AND NOTWITHSTANDING ANY OTHER PROVISION CONTAINED HEREIN, ANY LIABILITY FOR DAMAGES RESULTING FROM THE SOFTWARE OR ITS USE IS EXPRESSLY DISCLAIMED, WHETHER ARISING IN CONTRACT, TORT (INCLUDING NEGLIGENCE) OR STRICT LIABILITY, EVEN IF XEROX CORPORATION IS ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

racoon

Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.

All rights reserved.

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and

b) in the case of each subsequent Contributor:

i) changes to the Program, and

ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed

in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and

b) its license agreement:

i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;

ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;

iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and

iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

a) it must be made available under this Agreement; and

b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program

in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any

other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent (s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity.

Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2 (a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

- 本製品に搭載している TrouSerS(Version 0.27)に関するソースコードは、リコーホームページより入手が可能です。
- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。 http://sourceforge.net/cvs/?group_id=126012

Samba

For SMB transmission, this machine uses Samba (hereinafter referred to as Samba).

Copyright (c) Andrew Tridgell 1994-1998

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

補足

- 本製品に搭載している SMB 送信機能に関するソースコードは次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://support-download.com/services/scbs

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price.

Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have.

You must make sure that they, too, receive or can get the source code.

And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents.

We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated

into another language.(Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the

Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving

the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and a brief idea of what it does.Copyright (C)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA

02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

商標

Adobe、Acrobat、Acrobat Reader、Adobe Reader、PostScript は、Adobe Systems Incorporated （アドビ システムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。

Apple、AppleTalk、CUPS、Macintosh、Mac OS、および Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。

BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会の登録商標です。

Citrix®、Citrix Presentation Server、Citrix XenApp は、Citrix Systems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Firefox®は米国 Mozilla Foundation の登録商標です。

IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

JAWS®は米国およびその他の国における Freedom Scientific BLV Group, LLC の登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Windows Vista®、Internet Explorer®は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Monotype は Monotype Imaging, Inc.の登録商標です。

NEC は、NEC Corporation の登録商標です。

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

PCL は、米国ヒューレット・パッカード社の登録商標です。

Solaris は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国々における登録商標です。

UPnP™ is a trademark of the UPnP Implementers Corporation.

- Windows 2000 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® 2000 Professional

  Microsoft® Windows® 2000 Server

  Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server

- Windows XP の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® XP Professional Edition

  Microsoft® Windows® XP Home Edition

  Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition

- Windows Vista の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Vista® Ultimate

Microsoft® Windows Vista® Business

Microsoft® Windows Vista® Home Premium

Microsoft® Windows Vista® Home Basic

Microsoft® Windows Vista® Enterprise

- Windows 7 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® 7 Home Premium

  Microsoft® Windows® 7 Professional

  Microsoft® Windows® 7 Ultimate

  Microsoft® Windows® 7 Enterprise

- Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition

  Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition

- Windows Server 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition

  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition

- Windows Server 2008 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2008 Standard

  Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise

  Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™

  Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™

- Windows Server 2008 R2 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard

  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise

その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

BMLinkS について

- BMLinkS は、社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（Japan Business Machine and Information System Industries Association<JBMIA>）が推進しているオフィス機器インターフェイスです。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS 認証を受けています。
- BMLinkS 標準仕様バージョンについては、BMLinkS のインストールガイドを参照してください。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS プリントサービスを実装しています。

7

索引

アルファベット

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

株式会社 リコー
東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222
http://www.ricoh.co.jp/

IPSiO SP 4310 / 4300 使用説明書〈ソフトウェアガイド〉

消耗品に関するお問い合わせ

弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。
NetRICOHのホームページからもご購入できます。
http://www.netricoh.com/

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。
修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。
転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサービス実施店、販売店をご紹介いたします。
http://www.ricoh.co.jp/support/repair/index.html

操作方法、製品の仕様に関するお問い合わせ

操作方法や製品の仕様については、「お客様相談センター」にお問い合わせください。

0120-000-475
FAX 0120-479-417

- 受付時間：平日（月～金）9時～18時／土曜日9時～12時、13時～17時（祝祭日、弊社休業日を除く）
- 通話料は無料です。
- 音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュトーンでお知らせください。トーン信号が出せない電話機の場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレーターに接続します。

※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、通話を録音・記録させていただいております。
http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html

最新ドライバーおよびユーティリティー情報

最新版のドライバーおよびユーティリティーをインターネットのリコーホームページから入手できます。

- http://www.ricoh.co.jp/download/index.html

JA (JP) 2011年3月 M080-8505